免許・資格関係履修要項

2026年度

同志社女子大学

主　要　目　次

教職課程
（中学校・高等学校教諭免許課程）

教職課程
（幼稚園・小学校教諭免許課程）

教職課程
（中学校･高等学校（英語）教諭免許併修課程 現代こども学科）
（小学校教諭免許併修課程 音楽学科 音楽文化専攻）

教職課程
（養護教諭免許課程）

教職課程
（栄養教諭免許課程）

佛教大学との連携による
教諭免許状取得プログラム

保育士養成課程

博物館学芸員課程

図書館司書課程

学校図書館司書教諭課程

保健師

諸資格

目次

教職課程（中学校・高等学校教諭免許課程）（2019年度以降入学生適用）

履修上の心構え……8
免許の種類・課程修了要件……8
教職課程登録制度……8
教育実習履修資格……8
教職実践演習（中・高）履修資格……8
介護等体験……9
免許の申請……9
教職課程履修に関するスケジュール…… 10
免許状の種類・教科別 課程修了要件 …… 11
中学校・高等学校教諭一種免許状課程…… 12
教科及び教科の指導法に関する科目
　学芸学部
　　音楽学科（2025年度以降入学生適用）
　　演奏専攻　声楽コース…… 14
　　鍵盤楽器コース（ピアノ）…… 15
　　鍵盤楽器コース（オルガン）…… 16
　　鍵盤楽器コース（チェンバロ）…… 16
　　管弦打楽器コース…… 17
　　音楽文化専攻…… 18
　　音楽学科（2021年度～2024年度入学生適用）
　　演奏専攻　声楽コース…… 19
　　鍵盤楽器コース（ピアノ）…… 20
　　鍵盤楽器コース（オルガン）…… 21
　　鍵盤楽器コース（チェンバロ）…… 21
　　管弦打楽器コース…… 22
　　音楽文化専攻…… 23
　　メディア創造学科（2024年度以降入学生適用）…… 24
　　メディア創造学科（2019～2023年度入学生適用）… 25
　現代社会学部
　　社会システム学科（2025年度以降入学生適用）…… 26
　　社会システム学科（2019～2024年度入学生適用）… 28
　表象文化学部
　　英語英文学科（2024年度以降入学生適用）…… 30
　　英語英文学科（2019～2023年度入学生適用）…… 31
　　日本語日本文学科（2024年度以降入学生適用）…… 32
　　日本語日本文学科（2019～2023年度入学生適用）… 33
　生活科学部
　　人間生活学科（2024年度以降入学生適用）…… 34
　　人間生活学科（2022～2023年度入学生適用）…… 35
　　人間生活学科（2019～2021年度入学生適用）…… 36
　　食物栄養科学科
　　食物科学専攻（2024年度以降入学生適用）…… 37
　　食物科学専攻（2019～2023年度入学生適用）…… 38

教職課程（中学校・高等学校教諭免許課程）（2025年度以降入学生適用）音楽専攻科

免許状の種類…… 40
基礎資格および最低修得単位数…… 40
免許の申請…… 40

教職課程（幼稚園・小学校教諭免許課程）（2022年度以降入学生適用）現代社会学部 現代こども学科

履修上の心構え…… 42
免許の種類・課程修了要件…… 42
教育実習（「初等教育実習」）履修資格…… 43
教職実践演習（幼・小）または保育・教職実践演習（幼・小）履修資格 … 43
介護等体験…… 43
免許の申請…… 43
教職課程履修に関するスケジュール…… 44
幼稚園教諭一種免許状課程（2025年度以降入学生適用）… 46
小学校教諭一種免許状課程（2025年度以降入学生適用）… 47
幼稚園教諭一種免許状課程（2022～2024年度入学生適用）… 48
小学校教諭一種免許状課程（2022～2024年度入学生適用）… 49

教職課程（中学校・高等学校（英語）教諭免許併修課程）（2022年度以降入学生適用）現代社会学部 現代こども学科

中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）履修科目表
　現代社会学部
　　現代こども学科 選抜者用 …… 52

教職課程（小学校教諭免許併修課程）（2019年度以降入学生適用）学芸学部 音楽学科 音楽文化専攻

小学校教諭一種免許状履修科目表
　学芸学部
　　音楽学科
　　音楽文化専攻 選抜者用 …… 56

教職課程（養護教諭免許課程）（2019年度以降入学生適用）看護学部 看護学科

履修上の心構え…… 60
課程修了要件…… 60
保健師と養護教諭課程について…… 60
教職課程登録制度…… 60
「養護実習」履修資格 …… 61
教職実践演習（養護教諭）履修資格…… 61
免許の申請…… 61
教職課程履修に関するスケジュール…… 62
養護教諭一種免許状課程（2023年度以降入学生適用）…… 63
養護教諭一種免許状課程（2022年度入学生適用）…… 64
養護教諭一種免許状課程（2019～2021年度入学生適用）… 65

教職課程（栄養教諭免許課程）（2019年度以降入学生適用）生活科学部 食物栄養科学科 管理栄養士専攻

履修上の心構え…… 66
課程修了要件…… 66
教職課程登録制度…… 66
「学校栄養教育実習」履修資格 …… 67
教職実践演習（栄養教諭）履修資格…… 67
免許の申請…… 67
教職課程履修に関するスケジュール…… 68
栄養教諭一種免許状課程（2024年度以降入学生適用）…… 69
栄養教諭一種免許状課程（2019～2023年度入学生適用）… 70

佛教大学との連携による教諭免許状取得プログラム

小学校教諭一種免許状取得プログラム…… 72
小学校教諭二種免許状取得プログラム…… 73
特別支援学校教諭一種免許状取得プログラム…… 74

保育士養成課程（2022年度以降入学生適用）

保育士養成課程修了要件…… 76
保育士養成課程を履修することができる学生…… 76
保育士養成課程履修選考…… 76
保育士養成課程科目の履修について…… 76
保育実習…… 76
保育士登録について…… 78
卒業後の科目等履修について…… 78
保育士試験について…… 78
保育士養成課程 履修科目表
　必修科目（2025年度以降入学生適用）…… 79
　選択必修科目（2025年度以降入学生適用）…… 80
　教養科目（2025年度以降入学生適用）…… 80
　必修科目（2024年度入学生適用）…… 81
　選択必修科目（2024年度入学生適用）…… 82
　教養科目（2024年度以降入学生適用）…… 82
　必修科目（2022～2023年度入学生適用）…… 83
　選択必修科目（2022～2023年度入学生適用）…… 84
　教養科目（2022～2023年度入学生適用）…… 84
　総合カリキュラム表…… 85

博物館学芸員課程

履修上の心構え…… 90
学芸員資格の取得方法…… 90
博物館実習（必修科目）…… 90
博物館実習登録のためのスケジュール（重要）…… 90
学芸員課程修了証書の交付…… 90
その他…… 90
博物館学芸員課程　履修科目表…… 91
博物館学芸員課程修了要件…… 92

図書館司書課程

履修上の心構え…… 94
司書資格の取得方法…… 94
予備登録が必要な科目（重要）…… 94
図書館実習…… 94
図書館実習履修前提条件…… 94
図書館司書課程　履修科目表…… 95
図書館司書課程修了要件…… 95
履修上の注意…… 95
司書課程修了証書の交付…… 95
その他…… 95

学校図書館司書教諭課程

履修上の心構え…… 98
司書教諭資格の取得方法…… 98
司書教諭講習修了証書の交付…… 98
学校図書館司書教諭課程　履修科目表…… 98

保健師

履修科目表……100
保健師に関する科目の履修について……101
保健師と養護教諭課程について……101
保健師と第一種衛生管理者について……101
公衆衛生看護学実習Ⅰ，Ⅱ……101

諸資格

登録日本語教員養成課程（2026年度以降入学生適用）
　登録日本語教員について……105
　登録日本語教員の資格取得方法……105
　履修方法……105
　実践研修……105
　修了証書の発行……105
　養成課程修了要件：科目表……106
　実践研修修了要件：科目表……106
　実践研修科目　履修要件……106
日本語教師養成課程（2024～2025年度入学生適用）
　履修方法……107
　証明書の発行……107
　日本語教育機関の告示基準の策定に伴う注意事項……107
　日本語教師養成課程（主専攻）修了要件……107
　日本語教師養成課程（副専攻）修了要件……107
　経過措置について……107
　日本語教師養成課程（主専攻）修了要件：科目表……108
　日本語教師養成課程（副専攻）修了要件：科目表……110
日本語教師養成課程（2021～2023年度入学生適用）
　履修方法……111
　証明書の発行……111
　日本語教育機関の告示基準の策定に伴う注意事項……111
　日本語教師養成課程（主専攻）修了要件……111
　日本語教師養成課程（副専攻）修了要件……111
　経過措置について……111
　日本語教師養成課程（主専攻）修了要件：科目表……112
　日本語教師養成課程（副専攻）修了要件：科目表……114
上級情報処理士……116
ウェブデザイン実務士……120
観光実務士……121
社会福祉主事……122
ピアヘルパー……124
日本音楽療法学会認定音楽療法士……125
全国音楽療法士養成協議会認定音楽療法士（１種）……130

目次

栄養士養成施設 履修科目表（2022年度以降入学生適用）…134
管理栄養士養成施設 履修科目表（2022年度以降入学生適用）…135
栄養士養成施設 履修科目表（2021年度以前入学生適用）…136
管理栄養士養成施設 履修科目表（2021年度以前入学生適用）…137
食品衛生管理者および食品衛生監視員任用資格……138
フードスペシャリスト……140
二級建築士・木造建築士……142

教職課程

（中学校・高等学校教諭免許課程）（2019年度以降入学生適用）

学 芸 学 部　音楽学科
　　メディア創造学科
現代社会学部　社会システム学科
表象文化学部　英語英文学科
　　日本語日本文学科
生 活 科 学 部　人間生活学科
　　食物栄養科学科　食物科学専攻

教職課程 中学校・高等学校教諭免許課程（2019年度以降入学生適用）

教職課程とは，教育職員免許法に基づいて授与される教育職員免許状を取得するための課程です。教育職員免許状を取得するためには，この課程で定められた所定の単位を修得し，都道府県教育委員会に免許状申請をしなければなりません。また，実際に公立学校の教員に採用されるためには地方自治体の行う教員採用試験に，私立学校の教員に採用されるためには各学校の行う教員採用試験に合格しなければなりません。

履修上の心構え

教職課程の履修にあたっては，適性と将来の計画についてよく考え，実際に教職に就くことを志望する人のみが履修するようにしてください。

中学校・高等学校の教員としての仕事は大変やりがいのある仕事であることは確かですが，非常に大変な仕事であることも確かです。なぜ自分は教職に就こうとしているのかをよく考えて，教職課程の科目を履修してください。各地で行われる教員採用試験も難しく，そのための勉強に費やす労力も大変なものとなっています。

教育実習期間中に一般企業の採用試験が重なることも起こっています。教育実習は，全面的に実習校の好意に支えられて行われている制度です。就職活動のために教育実習を休むことは一切許されません。

教職に就こうと努力していく人は，多くの困難も乗り越えていけるものと思います。これからの教員には教科を教える能力は言うまでもなく，今まで以上に，生徒との人間としてのふれあいを通しての指導が求められています。幅広い能力を持った教員を目指して頑張ってください。

免許の種類・課程修了要件

1．本学で取得できる免許状の種類，教科およびそれぞれの課程修了に必要な要件は P.11の表の通りです。

2．課程修了に必要な要件は，

①基礎資格を満たすこと。（大学を卒業すること。）

②教科及び教職に関する科目の必要単位数を修得すること。

③「日本国憲法」，「体育」，「外国語コミュニケーション」，「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の必要単位数を修得すること。

④介護等体験を行うこと。（小学校教諭免許状及び中学校教諭免許状のみ）

以上の４点に分けられ，それらの全ての要件を満たさなければなりません。

3．中学校教諭免許状には，一種免許状の他に二種免許状があります。二種免許状は通常，短期大学の教職課程修了者が取得する免許状です。一種免許状を取得した学生は，同じ教科の二種免許状を取得する必要はありません。

教職課程登録制度

教職課程の履修を希望する者は，教職課程登録を行わなければなりません。詳しくは本学Webサイト「教職課程履修」を参照してください。

教育実習履修資格

本学では教育実習に行く前に満たすべき条件を定めています。条件を満たしていなければ「教育実習」を履修登録することができません。これは，科目等履修生にも適用されます。

「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」「教育課程論」「特別活動論」「○○科教科教育法基礎」「○○科教科教育法Ａ」「○○科教科教育法Ｂ」（○○には取得する免許の教科名が入る。ただし，メディア創造学科の高一種免（情報）及び，社会システム学科の高一種免（地理歴史・公民）においては，「○○科教科教育法基礎」を除く。）の単位を修得済みであること。

卒業見込判定が合格となっている卒業年次生であり，かつ，教職課程についても修了見込判定が合格であること。但し，卒業見込及び教職課程修了見込が合格とならない場合であっても，次年度の卒業見込みが「春学期のみ在学」または「秋学期のみ在学」を必要とする場合に限り，前年度（４年次生であることを必要とする）での履修を認める。

教職実践演習（中・高）履修資格

「教育実習」の単位を修得済みであること，または同一年度に履修すること。ただし，「教育実習」を履修登録した後，取り止めた場合は，教職実践演習の履修資格を失います。

介護等体験

中学校教諭免許状取得のための必要要件として，所定の単位の修得以外に，法令により，介護等体験が義務づけられています。2年次の9月～10月頃に翌年度の介護等体験のオリエンテーションを行います。教職課程（中一種免）を履修する予定の学生および，佛教大学との連携による「小学校教諭一種免許状取得プログラム」「小学校教諭二種免許状取得プログラム」の履修を希望する学生は必ず参加してください。

※介護等体験の実施時期は3年次以降です。

介護等体験制度の概要は次の通りです。

趣　　旨	個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深めて，教員としての資質の向上を図るため。
内　　容	特別支援学校（盲学校，聾学校，養護学校）および社会福祉施設での障害者，高齢者に対する介護，介助等。（満18歳になってからの実習であり，かつ1998年4月1日以降に実施された実習で，文部科学省・厚生労働省で認められた施設での実習でなければなりません。）
期　　間	教員免許状申請時までに7日間以上。（7日間以上の介護等体験終了の証明書がなければ，教員免許状の申請ができません。）
費　　用	社会福祉施設での体験費用として，7,500円～11,000円程度が必要。
実習施設の配当	大学を通して，実習施設の配当を受けることが原則となります。
実習証明書	介護等体験は科目でないため，単位は授与されません。実習証明書を学生自身が保管し，教員免許状申請時に申請書に添付することになります。
適用除外	介護等体験は，高等学校教諭免許状取得のための必要要件にはなっていません。また，既に，看護師，保健師，社会福祉士，介護福祉士等の免許や資格を有する場合や，実習生自身が，1級から6級の身体障害者として認定されている場合は，介護等体験を行う義務はありません。また，既に小学校教諭免許状，中学校教諭二種免許状を持っている場合は介護等体験を行う必要はありません。
関連科目	「介護概説」または「介護論」を体験実施前までに履修することが望ましい。
そ の 他	本学では休学期間中に介護等体験を行うことはできません。

免許の申請

教職課程を修了しても，免許の授与権者である都道府県教育委員会に申請しなければ免許状の交付は受けられません。本学では，正規学生の京都府教育委員会への教員免許申請を代行し一括して取り扱っています。申請希望者には，4年次生を対象に11月頃に申請書類を配付しますので，指示に従ってください。一括申請の場合の授与年月日は卒業式日と同一，授与権者は京都府教育委員会になります。なお，他の都道府県での申請を希望する場合や単位の流用に関する規定を利用して申請する場合などは，学生個人が直接申請する個人申請となります。また，本学では二種免許の申請は行いません。

教職課程履修に関するスケジュール

教職課程履修に関するスケジュールの概略は，次の通りです。各年次の説明会には必ず参加し，手続きに遺漏のないよう注意すること。

1年次	春学期	教職課程オリエンテーション 教職課程登録開始	教職課程に興味・関心のある学生は必ず参加すること。 教職課程履修を希望する場合は，所定の方法で「教職課程登録」の手続きを行うこと。
	11月～12月	1年次対象教職課程履修希望者説明会	教職課程履修の心構えや履修方法について説明する。
2年次	春学期	「教職履修カルテ」利用開始	4年次までの教職課程の学びの履歴を随時記入すること。
	9月～10月	介護等体験オリエンテーション （中一種免許状取得希望者対象）	介護等体験手続書類配付。 概要説明・事前指導等を行う。 介護等体験を希望する学生は必ず参加すること。
3年次	4月～5月	3年次対象教育実習説明会	実習手続きについて説明をする。
	4月～夏期休暇	実習校への正式依頼	実習予定校（出身校）に本学の依頼状など必要書類を持参して正式に依頼する。 秋学期開始までに内諾を得るのが望ましい。
	5月～	介護等体験	4年次夏までに体験を終了すること。
	秋学期開始	各種アンケートへの回答	新教務システム（D-pass）等を通じて期限までに回答すること。
	夏期休暇～ 11月頃	人権・同和教育および性教育講演会	教育実習AまたはBの事前指導の一環として実施。 次年度に教育実習を行う学生は必ず参加すること。
	7月～2月頃 学科により異なる	教科別オリエンテーション	教育実習AまたはBの事前指導の一環として実施。 次年度に教育実習を行う学生は必ず参加すること。
4年次	履修登録期間	履修登録	実習校への正式依頼を済ませ，教育実習の履修資格があることを確認の上「教育実習Aまたは教育実習B」「教職実践演習（中・高）」の履修登録を行う。中一種免許状取得希望者は必ず「教育実習A」を登録のこと。
	4月	4年次対象教育実習説明会	教育実習への心構えや注意事項について説明を行う。
		教育実習費納入 （事務手数料＋各実習校・教育委員会毎の必要額）	
	5月～12月	教育実習	実習時期は，実習校・教育委員会が調整の上，決定されるが，本学定期試験中は極力避けること。
	5月～9月	介護等体験（4年次で体験する場合）	春学期中に体験を終了すること。
	11月	免許申請書類配付・提出	免許・資格課から必要書類を配付。

（注）教育委員会が実習校を配当する場合（一部の公立学校）は，事前交渉・正式依頼は必要ない。詳細は，3年次対象教育実習説明会で確認すること。また，同志社女子中学校・高等学校，同志社国際中学校・高等学校，同志社香里中学校・高等学校，同志社中学校・高等学校で実習する場合も，本学より依頼の手続きをするので訪問する必要はない。（いずれも出身者に限られる。ただし，同志社国際中学校・高等学校における実習は，原則として同志社国際中学校を卒業した者，または海外の中学校を卒業した者に限られる。）

免許状の種類・教科別 課程修了要件

学部・学科・コース		免許状の種類	免許教科	基礎資格	教科及び教職に関する科目						免許法施行規則第66条の6に定める科目	介護等体験 要・不要
					第二欄 教科及び教科の指導法に関する科目	第三欄 教育の基礎的理解に関する科目	第四欄 道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	第五欄 教育実践に関する科目	第六欄 大学が独自に設定する科目	第二欄から第六欄の合計		
学芸学部	音楽学科 演奏専攻（声楽・ピアノ）	中学校教諭一種免許状	音楽	本学の卒業要件を満たすこと	32単位	10単位	10単位	7単位	0単位	59単位	日本国憲法2単位，体育2単位，外国語コミュニケーション2単位，数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作2単位	要
		高等学校教諭一種免許状	音楽		30単位	10単位	8単位	5単位	6単位	59単位		不要
	音楽学科 演奏専攻（オルガン・チェンバロ・管弦打楽器）	中学校教諭一種免許状	音楽	本学の卒業要件を満たすこと	34単位	10単位	10単位	7単位	0単位	61単位		要
		高等学校教諭一種免許状	音楽		32単位	10単位	8単位	5単位	4単位	59単位		不要
	音楽学科 音楽文化専攻	中学校教諭一種免許状	音楽	本学の卒業要件を満たすこと	28単位	10単位	10単位	7単位	4単位	59単位		要
		高等学校教諭一種免許状	音楽		26単位	10単位	8単位	5単位	10単位	59単位		不要
	メディア創造学科	高等学校教諭一種免許状	情報	本学の卒業要件を満たすこと	24単位	10単位	8単位	5単位	12単位	59単位		不要
現代社会学部	社会システム学科	中学校教諭一種免許状	社会	本学の卒業要件を満たすこと	28単位	10単位	10単位	7単位	4単位	59単位		要
		高等学校教諭一種免許状	地歴		24単位	10単位	8単位	5単位	12単位	59単位		不要
		高等学校教諭一種免許状	公民		24単位	10単位	8単位	5単位	12単位	59単位		不要
表象文化学部	英語英文学科	中学校教諭一種免許状	英語	本学の卒業要件を満たすこと	28単位	10単位	10単位	7単位	4単位	59単位		要
		高等学校教諭一種免許状	英語		26単位	10単位	8単位	5単位	10単位	59単位		不要
	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状	国語	本学の卒業要件を満たすこと	28単位	10単位	10単位	7単位	4単位	59単位		要
		高等学校教諭一種免許状	国語		24単位	10単位	8単位	5単位	12単位	59単位		不要
生活科学部	人間生活学科	中学校教諭一種免許状	家庭	本学の卒業要件を満たすこと	28単位	10単位	10単位	7単位	4単位	59単位		要
		高等学校教諭一種免許状	家庭		31単位	10単位	8単位	5単位	5単位	59単位		不要
	食物栄養科学科 食物科学専攻	中学校教諭一種免許状	家庭	本学の卒業要件を満たすこと	29単位	10単位	10単位	7単位	3単位	59単位		要
		高等学校教諭一種免許状	家庭		33単位	10単位	8単位	5単位	3単位	59単位		不要

（注１）各科目の履修方法は，科目表を参照してください。
教職課程における必修・選択の区分は教職課程修了のための区分であって，各学科の卒業のための必修・選択の区分とは別です。
（注２）同一免許教科でも，中一種免と高一種免の取得に必要な単位数は異なります。中一種免と高一種免を同時に取得する場合は，それぞれの単位数を満たさなければなりません。ただし，中一種免と高一種免で，いずれの学校種でも必要とされている科目の単位は一度修得すれば両方の学校種の単位として有効です。
（注３）正規学生が他学科・他専攻の教科の免許状を取得することは認められていません。
（注４）第二欄から第六欄は，教育職員免許法施行規則上の区分です。

中学校・高等学校教諭一種免許状課程（2019年度以降入学生適用）

	免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項	共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	教育実習履修資格	修得すべき単位数	他キャンパス他学科クラス履修	卒業上の科目区分
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	中・高・養	教育の原理	2	半2	2	必修	必修	○	10	可	共通学芸科目
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	中・高・養・栄	教職論	2	半2	2（注2）	必修	必修	○			自由選択科目（注7）
		教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	中・高・養	教育の制度と経営	2	半2	2	必修	必修	○			共通学芸科目
		幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	中・高・養・栄	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修	必修	○			
		特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	中・高・養・栄	特別支援教育論	1	半1	2	必修	必修				自由選択科目（注7）
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	中・高・養・栄	教育課程論	1	半1	2	必修	必修	○			
第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中・養	道徳教育論	2	半2	3	必修	—		中一種10 高一種8	可	自由選択科目（注7）
		【中一種】 総合的な学習の時間の指導法 【高一種】 総合的な探究の時間の指導法	中・高・養・栄	総合的な学習・探究の時間の指導法	1	半1	2	必修	必修				
		特別活動の指導法	中・高・養	特別活動論	1	半1	2	必修	必修	○			
		教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	中・高・養・栄	〈2022年度以降入学生適用〉 教育方法及び技術（ICT の活用を含む） 〈2019～2021年度入学生適用〉 教育方法及び技術（注3）	2	半2	3	必修	必修				
		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	中・高・養・栄	生徒指導（進路指導を含む）	2	半2	3	必修	必修				
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	中・高・養・栄	教育相談	2	半2	3	必修	必修				
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	中・高	教育実習 A（事前・事後指導を含む）	5	通2	4	（注4）			中一種5 高一種3	不可	自由選択科目（注7）
			中・高	教育実習 B（事前・事後指導を含む）	3	通2	4						
			中・高	教育実習 C	2	通2	3						
		教職実践演習	中・高	教職実践演習（中・高）	2	半2	4	必修	必修		2		
第六欄	大学が独自に設定する科目			道徳教育論	2	半2	3	—	選択		中一種4以上 高一種12以上	可	自由選択科目（注7）
				中学〇〇科教科教育法（注5）	2	半2	3（注6）	—	選択			不可	
			中・高	教職特別演習 I	2	秋2	3	選択	選択			可	
			中・高	教職特別演習 II	2	春2	4	選択	選択				
			中・高	学校経営と学校図書館	2	春2	2	選択	選択				
			中・高	学校図書館メディアの構成	2	春2	3	選択	選択				
			中・高	学習指導と学校図書館	2	春2	3	選択	選択				
				【中一種】28単位を超えて修得した第二欄の「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位。 【高一種】24単位を超えて修得した第二欄の「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位及び3単位を超えて修得した「教育実習」の単位。									

（注１）国際教養学科学生が履修できる科目は次の科目に限る。:「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」「特別支援教育論」「教育課程論」「道徳教育論」「総合的な学習・探究の時間の指導法」「特別活動論」「教育方法及び技術（ICT の活用を含む）」「生徒指導（進路指導を含む）」「教育相談」「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」

（注２）音楽学科音楽文化専攻は１年次。

（注３）2021年度以前入学生に関しては，2022年度より新科目「教育方法及び技術（ICT の活用を含む）」を旧科目「教育方法及び技術」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。成績は旧科目で記録される。

（注４）中一種免および高一種免同時取得の場合，「教育実習Ａ」（５単位）を取得すること。教育実習を行う学校の学校種にかかわらず，実習期間が３週間以上の場合は「教育実習Ａ」を，実習期間が２週間の場合は「教育実習Ｂ」を履修登録すること。
（注５）〇〇には取得する免許の教科名が入る。
ただし，社会システム学科において，「中学社会科教科教育法」は，高等学校教諭一種免許状課程（地理歴史・公民）の第六欄「大学が独自に設定する科目」には算入することができないため，十分注意すること。
（注６）英語英文学科の2020年度以降入学生は２年次。
（注７）自由選択科目は卒業に必要な単位に算入されず，年間及び１学期間の登録単位数の上限には含まれない。
（注８）ただし，学芸学部音楽学科においては，一部の科目が応用・各論科目に該当するなど，学部によって科目の取り扱いが異なるため，詳細は学部の履修要項を参照すること。

教育実習（「教育実習」）履修資格

本学では教育実習に行く前に満たすべき条件を定めている。条件を満たしていなければ「教育実習」を履修登録することができない。これは，科目等履修生にも適用される。

「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」「教育課程論」「特別活動論」「〇〇科教科教育法基礎」「〇〇科教科教育法Ａ」「〇〇科教科教育法Ｂ」（〇〇には取得する免許の教科名が入る。ただし，メディア創造学科の高一種免（情報）及び，社会システム学科の高一種免（地理歴史・公民）においては，「〇〇科教科教育法基礎」を除く。）の単位を修得済みであること。

卒業見込判定が合格となっている卒業年次生であり，かつ，教職課程についても修了見込判定が合格であること。

但し，卒業見込及び教職課程修了見込が合格とならない場合であっても，次年度の卒業見込みが「春学期のみ在学」または「秋学期のみ在学」を必要とする場合に限り，前年度（４年次生であることを必要とする）での履修を認める。

教職実践演習（中・高）履修資格

「教育実習」の単位を修得済みであること，または同一年度に履修すること。ただし，「教育実習」を履修登録した後，取り止めた場合は，教職実践演習の履修資格を失う。

第六欄修得単位数の計算方法

中一種：（第二欄の修得単位数－28単位）＋（第六欄記載科目の修得単位数）＝４単位以上
高一種：（第二欄の修得単位数－24単位）＋（第六欄記載科目の修得単位数）＋（３単位を超えて修得した「教育実習」の単位）＝12単位以上

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2025年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 32以上 高一種 30以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6単位以上選択必修	6単位以上選択必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		ギター演習	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）	音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む	
	音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	中学音楽科教科教育法		2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注3）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2単位以上選択必修（注4）	
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2025年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 32以上 高一種 30以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6単位以上選択必修	6単位以上選択必修	伴奏を含む	
		ギター演習	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		室内楽Ⅰ～Ⅵ	各1				合奏を含む	
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む	
		音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学音楽科教科教育法	2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注3）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2単位以上選択必修（注4）	
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2025年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		備考	修得すべき単位数
					中一種	高一種		
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 34 以上 高一種 32 以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6 単位以上選択必修	6 単位以上選択必修		
		副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		ギター演習	1		2 単位以上選択必修	2 単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		室内楽Ⅰ～Ⅵ	各1				合奏を含む	
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2 単位以上選択必修	2 単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2 単位以上選択必修	2 単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む	
		音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学音楽科教科教育法	2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注3）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の 6 に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2 単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2 単位以上選択必修（注4）	
		データサイエンス・AI 基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT 活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI 基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT 活用基礎」，「データサイエンス・AI 基礎」から 2 単位以上選択必修。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2025年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 34以上 高一種 32以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6単位以上選択必修	6単位以上選択必修		
		副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		管弦打楽器合奏Ⅰ～Ⅷ	各3		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		ギター演習	1				合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		室内楽Ⅰ～Ⅵ	各1				合奏を含む	
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）	音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む	
	音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	中学音楽科教科教育法		2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注3）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2単位以上選択必修（注4）	
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2025年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 28以上 高一種 26以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅲ～Ⅷ	各1					
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅢ～Ⅷ	各1				伴奏を含む	
		ギター演習	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		合奏Ⅰ～Ⅷ	各1					
		副科管弦打楽器Ⅰ～Ⅷ	各1				合奏を含む	
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		1単位以上選択必修	1単位以上選択必修		
		音楽創作（作曲）A～B	各2				編曲法を含む	
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）	音楽科教科教育法基礎	教育実習履修資格科目	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む	
	音楽科教科教育法A	教育実習履修資格科目	2	3	必修	必修		
	音楽科教科教育法B	教育実習履修資格科目	2	3	必修	必修		
	中学音楽科教科教育法		2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注3）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科音楽文化専攻　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2単位以上選択必修（注4）	
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　声楽コース　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2021～2024年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 32以上 高一種 30以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6単位以上選択必修	6単位以上選択必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		ギター演習	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）	音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む（注5）	
	音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	中学音楽科教科教育法		2	3	必修	—（注4）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注4）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。
（注5）2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2021～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	〈2024年度入学生適用〉データサイエンス・ICT活用基礎 〈2021～2023年度入学生適用〉コンピュータ活用	2	必修	（注1）

（注1）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（ピアノ）　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2021～2024年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 32以上 高一種 30以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6単位以上選択必修	6単位以上選択必修	伴奏を含む	
		ギター演習	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）		音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む（注5）	
		音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学音楽科教科教育法	2	3	必修	—（注4）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注4）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。
（注5）2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2021～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	〈2024年度入学生適用〉 データサイエンス・ICT活用基礎 〈2021～2023年度入学生適用〉 コンピュータ活用	2	必修	（注1）

（注1）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　鍵盤楽器コース（オルガン・チェンバロ）　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2021～2024年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種 34以上 高一種 32以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6単位以上選択必修	6単位以上選択必修		
		副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		ギター演習	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）	音楽科教科教育法基礎	教育実習履修資格科目	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む（注5）	
	音楽科教科教育法A	教育実習履修資格科目	2	3	必修	必修		
	音楽科教科教育法B	教育実習履修資格科目	2	3	必修	必修		
	中学音楽科教科教育法		2	3	必修	—（注4）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注4）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。
（注5）2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2021～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	〈2024年度入学生適用〉 データサイエンス・ICT活用基礎 〈2021～2023年度入学生適用〉 コンピュータ活用	2	必修	（注1）

（注1）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

学芸学部　音楽学科　演奏専攻　管弦打楽器コース　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2021～2024年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種34以上　高一種32以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	専門実技Ⅰ～Ⅷ	各3		6単位以上選択必修	6単位以上選択必修		
		副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		オーケストラⅠ～Ⅳ	各3		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	廃止（注6）	
		オーケストラⅤ～Ⅷ	各3				合奏を含む	
		吹奏楽Ⅰ～Ⅳ	各3				廃止（注6）	
		吹奏楽Ⅴ～Ⅷ	各3				合奏を含む	
		ギター演習	1				合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		必修	必修		
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）	音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む（注5）	
		音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学音楽科教科教育法	2	3	必修	—（注4）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注4）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。
（注5）2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
（注6）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科演奏専攻　2021～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	〈2024年度入学生適用〉データサイエンス・ICT活用基礎〈2021～2023年度入学生適用〉コンピュータ活用	2	必修	（注1）

（注1）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2021～2024年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（音楽）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	注1	必修	必修		中一種28以上 高一種26以上
		ソルフェージュⅡ	1		必修	必修		
		ソルフェージュⅢ～Ⅳ	各1					
		ソルフェージュⅤ（指導法を含む）	1					
		ソルフェージュⅥ（指導法を含む）	1					
	声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	副科声楽Ⅰ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅱ	1		必修	必修		
		副科声楽Ⅲ～Ⅷ	各1					
		合唱Ⅰ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅱ	1		必修	必修	日本の伝統的な歌唱を含む	
		合唱Ⅲ～Ⅷ	各1					
	器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	副科ピアノⅠ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅡ	1		必修	必修	伴奏を含む	
		副科ピアノⅢ～Ⅷ	各1				伴奏を含む	
		ギター演習	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	合奏を含む	
		リコーダー演習	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	1				合奏を含む	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1				合奏を含む	
		古楽器合奏Ⅰ～Ⅱ	各1					
		合奏Ⅰ～Ⅷ	各1					
		和楽器実習	1		必修	必修		
	指揮法	指揮法基礎	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		指揮法応用	2					
	音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	和声法Ⅰ～Ⅷ	各1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		対位法Ⅰ～Ⅳ	各1					
		管弦楽法Ⅰ～Ⅱ	各1					
		作曲法（編曲法を含む）	1		1単位以上選択必修	1単位以上選択必修		
		音楽創作A～B	各2				廃止（注6）	
		音楽創作（作曲）A～B	各2				編曲法を含む	
		音楽通史A	2		必修	必修		
		音楽通史B	2		必修	必修	日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む	
		音楽史（古典派）	2					
		音楽史（ロマン派）	2					
		音楽史（中世からバロック）	2					
		音楽史（近・現代）	2					
		日本の音楽	2					
		民族の音楽	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）	音楽科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む（注5）	
	音楽科教科教育法A（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	音楽科教科教育法B（教育実習履修資格科目）		2	3	必修	必修		
	中学音楽科教科教育法		2	3	必修	—（注4）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，応用・各論科目となる。
（注4）「中学音楽科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。
（注5）2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
（注6）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

学芸学部音楽学科音楽文化専攻　2021～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	〈2024年度入学生適用〉 データサイエンス・ICT活用基礎 〈2021～2023年度入学生適用〉 コンピュータ活用	2	必修	（注1）

（注1）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

学芸学部　メディア創造学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2024年度以降入学生適用）

第二欄	高一種免（情報）							
教科に関する専門的事項	各科目に含めることが必要な事項	科　目		単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報倫理		2	注1	必修		24以上
		メディア論		2				
		メディア文化史		2				
		ＩＴビジネス研究		2		必修		
		情報ビジネス起業論		2				
	コンピュータ・情報処理	コンピュータ科学		2		必修		
		ソフトウエア概論		2				
		情報数学		2				
		調査統計法		2				
		コンピュータ活用基礎		2				
		プログラミングＡⅠ		2		必修		
		プログラミングＡⅡ		2		必修		
	情報システム	データベース論		2		必修		
		コーパス演習		2				
		WEB プログラミング		2				
		ヒューマンインタフェース論		2		必修		
		デジタルアーカイブス		2				
	情報通信ネットワーク	ネットワーク概論		2				
		情報ネットワーク		2		必修		
		情報セキュリティ		2				
		WEB 技術演習		2				
	マルチメディア表現・マルチメディア技術	マルチメディア論		2		必修		
		音楽表現論		2				
		グラフィック・WEB 基礎演習		2		2単位以上選択必修		
		写真・動画基礎演習		2				
		メディアアート表現演習		2				
		情報デザイン演習		2				
		サウンドデザイン演習		2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）	情報科教科教育法Ａ		教育実習履修資格科目	2	3	必修	情報通信技術の活用を含む	
	情報科教科教育法Ｂ			2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。

免許法施行規則第66条の 6 に定める科目区分

学芸学部メディア創造学科　2024年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ	1	2単位以上選択必修	
		体育実技Ｂ	1		
		スポーツ実習Ａ	1		
		スポーツ実習Ｂ	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータ活用基礎	2	2単位以上選択必修（注1）	教科及び教科の指導法に関する科目である「コンピュータ活用基礎」が，数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作の単位となる。
		データサイエンス・AI 基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注1）2024～2025年度入学生については，「コンピュータ活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI 基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「コンピュータ活用基礎」，「データサイエンス・AI 基礎」から 2 単位以上選択必修。

学芸学部　メディア創造学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2019～2023年度入学生適用）

第二欄	高一種免（情報）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目		単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	情報倫理		2	注1	必修		24以上
		メディア論		2				
		メディア文化史		2				
	コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	コンピュータ科学		2		必修		
		ソフトウエア概論		2				
		情報数学		2				
		調査統計法		2				
		コンピュータ活用基礎		2				
		プログラミングＡⅠ		2		必修		
		プログラミングＡⅡ		2		必修		
	情報システム（実習を含む。）	データベース論		2		必修		
		コーパス演習		2				
		WEB プログラミング		2				
		ヒューマンインタフェース論		2		必修		
		デジタルアーカイブス		2				
	情報通信ネットワーク（実習を含む。）	ネットワーク概論		2				
		情報ネットワーク		2		必修		
		情報セキュリティ		2				
		WEB 技術演習		2				
	マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	マルチメディア論		2		必修		
		音楽表現論		2				
		グラフィック・WEB 基礎演習		2		2単位以上選択必修		
		写真・動画基礎演習		2				
		メディアアート表現演習		2				
		情報デザイン演習		2				
		サウンドデザイン演習		2				
	情報と職業	ＩＴビジネス研究		2		必修		
		情報ビジネス起業論		2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）		情報科教科教育法Ａ	教育実習履修資格科目	2	3	必修	情報通信技術の活用を含む（注4）	
		情報科教科教育法Ｂ		2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2019～2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注4）2019～2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」

免許法施行規則第66条の６に定める科目区分

学芸学部メディア創造学科　2019～2023年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ	1	2単位以上選択必修	
		体育実技Ｂ	1		
		スポーツ実習Ａ	1		
		スポーツ実習Ｂ	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータ活用基礎	2	必修	教科及び教科の指導法に関する科目である「コンピュータ活用基礎」が，数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作の単位となる。

現代社会学部　社会システム学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2025年度以降入学生適用）

第二欄	中一種免（社会）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本の歴史	2	注1	必修		28以上
		日本の歴史と文化A	2				
		日本の歴史と文化B	2				
		東洋の歴史	2		必修		
		ヨーロッパの歴史と文化A	2		必修		
		ヨーロッパの歴史と文化B	2				
		考古学	2				
		京都の文化財論	2				
	地理学（地誌を含む。）	観光地理論	2				
		観光地域事業論	2				
		地理学	2		必修		
		防災とまちづくりの地理学	2				
		地誌学	2		必修		
		エスニシティ論	2				
		ヨーロッパ地域文化論	2				
		ラテンアメリカ地域文化論	2				
		アジア地域文化論	2				
		オセアニア地域文化論	2				
		京都観光学概論	2				
		京都学概論	2				
		京都・大阪・奈良フィールドワーク	2				
	「法律学，政治学」	法学概論	2		必修		
		刑法総論	2				
		刑法各論	2				
		現代社会と犯罪	2				
		政治学概論	2				
		民法Ⅰ	2				
		民法Ⅱ	2				
		外交論	2				
	「社会学，経済学」	経済学概論	2		必修		
		文化人類学概論	2				
		社会保障論	2				
		女性と社会保障	2				
		環境経済論	2				
		経済政策論	2				
	「哲学，倫理学，宗教学」	現代社会と宗教	2		必修		
		哲学A	2				
		哲学B	2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		社会科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	情報通信技術の活用を含む	
		社会科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修		
		社会科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修		
		中学社会科教科教育法	2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

現代社会学部社会システム学科　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ	各2	2単位以上選択必修（注3）	
		データサイエンス・ICT活用基礎	2		
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注3）2025年度入学生については，「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」，「データサイエンス・ICT活用基礎」から2単位以上選択必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」，「データサイエンス・ICT活用基礎」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

現代社会学部　社会システム学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2025年度以降入学生適用）

第二欄	高一種免（地理歴史）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	日本史	日本の歴史	2	注1	必修		24以上
		日本の歴史と文化A	2				
		日本の歴史と文化B	2				
		京都の社会史	2				
		考古学	2				
		京都の文化財論	2				
		京都の歴史A	2				
		京都の歴史B	2				
		京都の美術史	2				
	外国史	宗教と世界史	2				
		国際交流史	2				
		東洋の歴史	2		必修		
		ヨーロッパの歴史と文化A	2		必修		
		ヨーロッパの歴史と文化B	2				
	人文地理学・自然地理学	京都・大阪・奈良の歴史地理	2				
		観光地理論	2				
		国際観光論	2				
		京都観光論	2				
		地理学	2		必修	人文地理学及び自然地理学を含む	
		防災とまちづくりの地理学	2				
		京都・大阪・奈良フィールドワーク	2				
	地誌	地誌学	2		必修		
		エスニシティ論	2				
		ヨーロッパ地域文化論	2				
		ラテンアメリカ地域文化論	2				
		アジア地域文化論	2				
		オセアニア地域文化論	2				
		京都観光学概論	2				
		京都学概論	2				
		観光地域事業論	2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		地理歴史科教科教育法A	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報通信技術の活用を含む
		地理歴史科教科教育法B	2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。

第二欄	高一種免（公民）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」	地方行政論	2	注1			24以上
		法学概論	2		必修	国際法を含む	
		刑法総論	2				
		刑法各論	2				
		現代社会と犯罪	2				
		政治学概論	2				
		国連政策論	2				
		民法Ⅰ	2				
		民法Ⅱ	2				
		外交論	2				
	「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	経済学概論	2		必修	国際経済を含む	
		文化人類学概論	2				
		社会保障論	2				
		女性と社会保障	2				
		環境経済論	2				
		消費者行動論	2				
		社会情報論	2				
		経済政策論	2				
		国際金融論	2				
		国際ビジネス論	2				
	「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	現代社会と宗教	2		必修		
		生命の倫理	2				
		心理学概論	2				
		対人関係心理学	2				
		心理臨床学	2				
		家族臨床心理学	2				
		現代青年の心理と行動	2				
		哲学A	2				
		哲学B	2				
		西洋の思想A	2				
		西洋の思想B	2				
		日本の思想A	2				
		日本の思想B	2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		公民科教科教育法A	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報通信技術の活用を含む
		公民科教科教育法B	2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

現代社会学部社会システム学科　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ	各2	2単位以上選択必修（注3）	
		データサイエンス・ICT活用基礎	2		
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注3）2025年度入学生については，「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」，「データサイエンス・ICT活用基礎」から2単位以上選択必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」，「データサイエンス・ICT活用基礎」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

現代社会学部　社会システム学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2019～2024年度入学生適用）

第二欄	中一種免（社会）						
教科に関する専門的事項	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
	日本史・外国史	日本の歴史Ⅰ	2	注1	必修		28以上
		日本の歴史Ⅱ	2				
		日本の歴史と文化A	2				
		日本の歴史と文化B	2				
		東洋の歴史Ⅰ	2		必修	（注6）	
		東洋の歴史Ⅱ	2			廃止（注5）	
		ヨーロッパの歴史と文化A	2		必修		
		ヨーロッパの歴史と文化B	2				
		考古学Ⅰ	2				
		考古学Ⅱ	2				
	地理学（地誌を含む。）	観光地理論	2				
		観光地域事業論	2				
		地理学	2		必修		
		まちづくりの地理学	2				
		地誌学Ⅰ	2		必修		
		地誌学Ⅱ	2				
		オセアニア地域文化論	2				
		京都観光学概論	2				
		京都学概論	2				
	「法律学，政治学」	法学概論	2		必修		
		刑法総論	2				
		刑法各論	2				
		現代社会と犯罪	2				
		政治学概論	2				
		民法Ⅰ	2				
		民法Ⅱ	2				
		安全保障論	2			廃止（注5）	
		外交論	2				
	「社会学，経済学」	経済学概論	2		必修		
		文化人類学概論	2				
		社会保障論	2				
		女性と社会保障	2				
		環境経済論	2				
		経済政策論	2				
	「哲学，倫理学，宗教学」	倫理学概論	2		必修	廃止（注5）	
		現代社会と宗教	2				
		哲学A	2				
		哲学B	2				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）	社会科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	情報通信技術の活用を含む（注4）	
		社会科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修		
		社会科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修		
		中学社会科教科教育法	2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2019～2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注4）2019～2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
（注5）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。
（注6）「東洋の歴史Ⅰ」を履修登録し，「東洋の歴史」の授業に出席する。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

現代社会学部社会システム学科　2019～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報活用実習Ⅰ～Ⅴ	各2	2単位以上選択必修（注7）（注8）	廃止（注5）
		情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ	各2		
		データサイエンス・ICT活用基礎	2		2024年度以降入学生に適用

（注7）2019～2023年度入学生については，「情報活用実習Ⅰ～Ⅴ」「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」の中から2単位以上選択必修。
2024年度入学生については，「情報活用実習Ⅰ～Ⅴ」「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」「データサイエンス・ICT活用基礎」から2単位以上選択必修。
（注8）「情報活用実習Ⅰ～Ⅴ」を修得済みの場合は，対応する「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」は履修不可。

現代社会学部　社会システム学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2019～2024年度入学生適用）

第二欄	高一種免（地理歴史）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	日本史	日本の歴史Ⅰ	2	注1	必修		24以上
		日本の歴史Ⅱ	2				
		日本の歴史と文化A	2				
		日本の歴史と文化B	2				
		京都の社会史	2				
		考古学Ⅰ	2				
		考古学Ⅱ	2				
		京都の文化財論	2				
		京都の歴史A	2				
		京都の歴史B	2				
		京都の美術史	2				
		京都文化資料論	2			廃止(注5)	
	外国史	宗教と世界史	2				
		国際交流史	2				
		東洋の歴史Ⅰ	2		必修	(注8)	
		東洋の歴史Ⅱ	2			廃止(注5)	
		ヨーロッパの歴史と文化A	2		必修		
		ヨーロッパの歴史と文化B	2				
	人文地理学・自然地理学	京都・大阪の歴史地理	2			廃止(注5)	
		京都・大阪・奈良の歴史地理	2				
		観光地理論	2				
		国際観光論	2				
		京都観光論	2				
		地理学	2		必修	人文地理学及び自然地理学を含む	
		まちづくりの地理学	2				
	地誌	地誌学Ⅰ	2		必修		
		地誌学Ⅱ	2				
		オセアニア地域文化論	2				
		京都観光学概論	2				
		京都学概論	2				
		観光地域事業論	2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）(注2)(注3)		地理歴史科教科教育法A	2	3	必修（教育実習履修資格科目）	情報通信技術の活用を含む (注4)	
		地理歴史科教科教育法B	2	3	必修（教育実習履修資格科目）		

第二欄	高一種免（公民）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」	行政法	2	注1			24以上
		法学概論	2		必修	国際法を含む	
		刑法総論	2				
		刑法各論	2				
		現代社会と犯罪	2				
		政治学概論	2				
		国連政策論	2				
		民法Ⅰ	2				
		民法Ⅱ	2				
		安全保障論	2			廃止(注5)	
		外交論	2				
	「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	経済学概論	2		必修	国際経済を含む	
		文化人類学概論	2				
		社会保障論	2				
		女性と社会保障	2				
		環境経済論	2				
		流通論	2			廃止(注5)	
		消費者行動論	2			(注7)	
		社会情報論	2				
		経済政策論	2				
		国際企業論	2			廃止(注5)	
		国際金融論	2				
		国際ビジネス論	2				
	「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	倫理学概論	2		必修	廃止(注5)	
		現代社会と宗教	2				
		生命の倫理	2				
		社会心理学概論	2			廃止(注5)	
		心理学概論	2			(注6)	
		対人関係心理学	2				
		心理臨床学	2				
		情報社会心理学	2				
		家族臨床心理学	2				
		現代青年の心理と行動	2				
		哲学A	2				
		哲学B	2				
		西洋の思想A	2				
		西洋の思想B	2				
		日本の思想A	2				
		日本の思想B	2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）(注2)(注3)		公民科教科教育法A	2	3	必修（教育実習履修資格科目）	情報通信技術の活用を含む (注4)	
		公民科教科教育法B	2	3	必修（教育実習履修資格科目）		

(注1) 履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
(注2) 2019～2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
(注3) 当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
(注4) 2019～2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
(注5) 廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。
(注6)「社会心理学概論」を修得済みの場合は履修不可
(注7)「流通論」を修得済みの場合は履修不可
(注8)「東洋の歴史Ⅰ」を履修登録し，「東洋の歴史」の授業に出席する。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

現代社会学部社会システム学科　2019～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報活用実習Ⅰ～Ⅴ	各2	2単位以上選択必修（注9）（注10）	廃止（注5）
		情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ	各2		
		データサイエンス・ICT活用基礎	2		2024年度以降入学生に適用

(注9) 2019～2023年度入学生については，「情報活用実習Ⅰ～Ⅴ」「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」の中から2単位以上選択必修。
　　2024年度入学生については，「情報活用実習Ⅰ～Ⅴ」「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」「データサイエンス・ICT活用基礎」から2単位以上選択必修。
(注10)「情報活用実習Ⅰ～Ⅴ」を修得済みの場合は，対応する「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」は履修不可。

表象文化学部　英語英文学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2024年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（英語）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	英語学	英語学概論Ⅰ	2	注2	必修	必修		中一種28以上 高一種26以上
		英語学概論Ⅱ	2					
		英語音声学Ⅰ	2		必修	必修		
		英語音声学Ⅱ	2		必修	必修		
		外国語教育論Ⅰ	2					
		外国語教育論Ⅱ	2					
		言語学入門	2					
		基礎英文法A	1		1単位以上選択必修	1単位以上選択必修		
		基礎英文法B	1					
	英語文学	イギリス文学史	2		必修	必修		
		アメリカ文学史	2		必修	必修		
	英語コミュニケーション	コミュニケーション学入門	2					
		Speaking Ⅰ	1		必修	必修	注1	
		Speaking Ⅱ	1		必修	必修	注1	
		Listening Ⅰ	1		必修	必修	注1	
		Listening Ⅱ	1		必修	必修	注1	
		Reading Ⅰ	2				注1	
		Reading Ⅱ	2				注1	
		Writing Ⅰ	2				注1	
		Writing Ⅱ	2				注1	
		Listening & Speaking Ⅰ	1		必修	必修	注1	
		Listening & Speaking Ⅱ	1		必修	必修	注1	
	異文化理解	イギリス研究入門	2					
		アメリカ研究入門	2					
		異文化コミュニケーション	2		必修	必修		
		カナダの文化と社会	2					
		オセアニアの文化と社会	2					
		イギリス文化史	2					
		アメリカ文化史	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注3）		英語科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	2	必修	必修	情報通信技術の活用を含む	
		英語科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2		必修	必修		
		英語科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2		必修	必修		
		中学英語科教科教育法	2		必修	—（注4）		

（注1）セメスター語学留学で修得した単位は，中・高一種免（英語）取得には使用できないので注意すること。
（注2）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注4）「中学英語科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の 6 に定める科目区分

表象文化学部英語英文学科　2024年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	（備考参照）	2	必修	教科に関する専門的事項の「英語コミュニケーション」科目が有効なため，改めて単位を修得する必要はない。
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	英語情報処理演習	2	2単位以上選択必修（注5）	
		データサイエンス・AI 基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注5）2024年度入学生～2025年度入学生については，「英語情報処理演習」が必修（「データサイエンス・AI 基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「英語情報処理演習」，「データサイエンス・AI 基礎」から 2 単位以上選択必修。

表象文化学部　英語英文学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2019～2023年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（英語）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法 中一種	履修方法 高一種	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	英語学	英語学概論Ⅰ	2	注2	必修	必修		中一種28以上 高一種26以上
		英語学概論Ⅱ	2					
		英語音声学Ⅰ	2		必修	必修		
		英語音声学Ⅱ	2					
		外国語教育論Ⅰ	2					
		外国語教育論Ⅱ	2					
	英語文学	イギリス文学史	2		必修	必修		
		アメリカ文学史	2		必修	必修		
	英語コミュニケーション	言語コミュニケーション入門Ⅰ	2		必修	必修		
		言語コミュニケーション入門Ⅱ	2		必修	必修		
		Speaking Ⅰ	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	注1	
		Speaking Ⅱ	1				注1	
		Intermediate Speaking Ⅰ	1				廃止（注8）	
		Intermediate Speaking Ⅱ	1				廃止（注8）	
		Advanced Speaking Ⅰ	1				廃止（注8）	
		Advanced Speaking Ⅱ	1				廃止（注8）	
		Public Speaking Ⅰ	1				注1	
		Public Speaking Ⅱ	1				注1	
		Public Speaking Ⅰ（AESA）	1				廃止（注8）	
		Public Speaking Ⅱ（AESA）	1				廃止（注8）	
		Public Speaking Ⅰ（AESB）	1				廃止（注8）	
		Public Speaking Ⅱ（AESB）	1				廃止（注8）	
		Active Listening Ⅰ	1		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修	注1	
		Active Listening Ⅱ	1				注1	
		Intermediate Active Listening Ⅰ	1				廃止（注8）	
		Intermediate Active Listening Ⅱ	1				廃止（注8）	
		Advanced Active Listening Ⅰ	1				廃止（注8）	
		Advanced Active Listening Ⅱ	1				廃止（注8）	
		Active Listening Ⅲ	1				注1	
		Active Listening Ⅳ	1				注1	
		Active Listening Ⅲ（AESA）	1				廃止（注8）	
		Active Listening Ⅳ（AESA）	1				廃止（注8）	
		Active Listening Ⅲ（AESB）	1				廃止（注8）	
		Active Listening Ⅳ（AESB）	1				廃止（注8）	
	異文化理解	イギリス文化入門	2		必修	必修		
		アメリカ文化入門	2		必修	必修		
		イギリス文化研究	2				廃止（注8）	
		アメリカ文化研究	2				廃止（注8）	
		アメリカの社会と文化	2				廃止（注8）	
		イギリスの社会と文化	2				廃止（注8）	
		アメリカ文化・文学研究A	2				廃止（注8）	
		アメリカ文化・文学研究B	2				廃止（注8）	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注4）（注5）		英語科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	2（注3）	必修	必修	情報通信技術の活用を含む（注6）	
		英語科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2		必修	必修		
		英語科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2		必修	必修		
		中学英語科教科教育法	2		必修	—（注7）		

（注1）セメスター語学留学で修得した単位は，中・高一種免（英語）取得には使用できないので注意すること。
（注2）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注3）2019年度入学生は3年次。
（注4）2019～2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注5）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注6）2019～2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
（注7）「中学英語科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。
（注8）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

表象文化学部英語英文学科　2019～2023年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	（備考参照）	2	必修	教科に関する専門的事項の「英語コミュニケーション」科目が有効なため，改めて単位を修得する必要はない。
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	英語情報処理演習Ⅰ	2	2単位以上選択必修	
		英語情報処理演習Ⅱ	2		廃止（注8）

表象文化学部　日本語日本文学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2024年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（国語）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		備考	修得すべき単位数
					中一種	高一種		
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学の世界	2	注1	必修	必修		中一種 28以上 高一種 24以上
		日本語学入門	2					
		日本語の歴史	2					
		学校文法	2					
		日本語の文法Ⅰ	2					
		日本語の文法Ⅱ	2					
		日本語の語彙Ⅰ	2					
		日本語の語彙Ⅱ	2					
		日本語の音声	2					
		日本語の表記	2					
		日本語学テーマ研究A	2					
		日本語学テーマ研究B	2					
		日本語学テーマ研究C	2					
	国文学（国文学史を含む。）	日本文学の世界	2		必修	必修		
		近現代文学史A	2					
		近現代文学史B	2					
		近現代文学講義A	2					
		近現代文学講義B	2					
		近現代文学講義C	2					
		近現代文学講義D	2					
		近現代文学基礎研究A	2					
		近現代文学基礎研究B	2					
		近現代文学研究A	2					
		近現代文学研究B	2					
		近現代文学研究C	2					
		近現代文学研究D	2					
		古典文学史A	2					
		古典文学史B	2					
		古典文学講読A	2					
		古典文学講読B	2					
		古典文学講読C	2					
		古典文学講読D	2					
		古典文学研究A	2					
		古典文学研究B	2					
	漢文学	漢文学A	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		漢文学B	2					
		古典文学講読E	2					
	【中一種】書道（書写を中心とする。）	書道A	2		必修	—		
		書道B	2			—		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		国語科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む	
		国語科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		国語科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学国語科教科教育法	2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注3）「中学国語科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

表象文化学部日本語日本文学科　2024年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2単位以上選択必修（注4）	
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2024年度入学生～2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT活用基礎」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

表象文化学部　日本語日本文学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2019～2023年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（国語）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		備考	修得すべき単位数
					中一種	高一種		
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学の世界	2	注1	必修	必修		中一種28以上 高一種24以上
		日本語学入門	2					
		日本語の歴史	2					
		学校文法	2					
		日本語の文法Ⅰ	2					
		日本語の文法Ⅱ	2					
		日本語の語彙Ⅰ	2					
		日本語の語彙Ⅱ	2					
		日本語の音声	2					
		日本語の表記	2					
		日本語学テーマ研究A	2					
		日本語学テーマ研究B	2					
		日本語学テーマ研究C	2					
	国文学（国文学史を含む。）	日本文学の世界	2		必修	必修		
		近現代文学史A	2					
		近現代文学史B	2					
		近現代文学講義A	2					
		近現代文学講義B	2					
		近現代文学講義C	2					
		近現代文学講義D	2					
		近現代文学基礎研究A	2					
		近現代文学基礎研究B	2					
		近現代文学研究A	2					
		近現代文学研究B	2					
		近現代文学研究C	2					
		近現代文学研究D	2					
		古典文学史A	2					
		古典文学史B	2					
		古典文学講読A	2					
		古典文学講読B	2					
		古典文学講読C	2					
		古典文学講読D	2					
		古典文学研究A	2					
		古典文学研究B	2					
	漢文学	漢文学A	2		2単位以上選択必修	2単位以上選択必修		
		漢文学B	2					
		古典文学講読E	2					
	【中一種】書道（書写を中心とする。）	書道A	2		必修	—		
		書道B	2			—		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）		国語科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修	情報通信技術の活用を含む（注4）	
		国語科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		国語科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学国語科教科教育法	2	3	必修	—（注5）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2019～2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注4）2019～2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
（注5）「中学国語科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

表象文化学部日本語日本文学科　2019～2023年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	コンピュータ活用	2	必修	（注6）

（注6）2024年度より新科目「データサイエンス・ICT活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

生活科学部　人間生活学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2024年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（家庭）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		備考	修得すべき単位数
					中一種	高一種		
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学	2	注1	必修	必修	家族関係学を含む	中一種28以上 高一種31以上
		くらしの経済学	2		必修	必修	家庭経済学を含む	
		生活科学実験	1					
		環境教育論	2					
		消費者教育論	2					
		家族福祉学	2					
	被服学（被服実習を含む。）	被服制作基礎実習	1		必修	必修		
		衣生活学	2		必修	必修		
		被服造形実習Ⅰ	1					
		和服制作実習	1					
		被服造形実習Ⅱ	1					
		服飾文化史	2					
		服飾デザイン論	2					
		服飾材料・整理学	2					
		被服造形学	2					
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	食生活学	2		必修	必修	栄養学及び食品学を含む	
		調理科学実習Ⅰ	1		必修	必修		
		調理科学実習Ⅱ	1		必修	必修		
		食物栄養学	2					
	住居学	住生活学	2		必修	必修		
		住居製図基礎実習	1					
		住文化論	2					
		住居デザイン実習	1					
		すまいの安全・安心	2					
		すまいの計画学	2					
		インテリアデザイン論	2					
		インテリアデザイン実習	1					
	保育学	子ども学	2		必修	必修		
		子ども心理学	2					
		児童文化論	2					
		家庭看護学	2					
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		家庭科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		家庭科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		家庭科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学家庭科教科教育法	2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注3）「中学家庭科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

生活科学部人間生活学科　2024年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	くらしのためのICT活用Ⅰ	2	2単位以上選択必修（注4）	
		くらしのためのICT活用Ⅱ	2		
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2024年度入学生～2025年度入学生については，「くらしのためのICT活用Ⅰ・Ⅱ」が必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「くらしのためのICT活用Ⅰ・Ⅱ」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

生活科学部　人間生活学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2022～2023年度入学生適用）

第二欄	中一種免（家庭）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学	2	注1	必修	家族関係学を含む	28以上
		くらしの経済学	2		必修	家庭経済学を含む	
		生活科学実験	1				
		環境教育論	2				
		消費者教育論	2				
		家族福祉学	2				
	被服学（被服製作実習を含む。）	被服制作基礎実習	1		必修		
		衣生活学	2		必修		
		被服造形実習Ⅰ	1				
		和服制作実習	1				
		被服造形実習Ⅱ	1				
		服飾文化史	2				
		服飾デザイン論	2				
		服飾材料・整理学	2				
		被服造形学	2				
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	食生活学	2		必修	栄養学及び食品学を含む	
		調理科学実習Ⅰ	1		必修		
		調理科学実習Ⅱ	1		必修		
		食物栄養学	2				
	住居学	住生活学	2		必修		
		住文化論	2				
		すまいの安全・安心	2				
		すまいの計画学	2				
		インテリアデザイン論	2				
	保育学（実習を含む。）	児童学	2		必修		
		子ども心理学	2				
		児童文化論	2				
		保育学実習	1		必修	廃止（注3）	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		家庭科教科教育法基礎	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報通信技術の活用を含む
		家庭科教科教育法Ａ	2	3	必修		
		家庭科教科教育法Ｂ	2	3	必修		
		中学家庭科教科教育法	2	3	必修		

第二欄	高一種免（家庭）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学	2	注1	必修	家族関係学を含む	31以上
		くらしの経済学	2		必修	家庭経済学を含む	
		生活科学実験	1				
		環境教育論	2				
		消費者教育論	2				
		家族福祉学	2				
	被服学（被服製作実習を含む。）	被服制作基礎実習	1		必修		
		衣生活学	2		必修		
		被服造形実習Ⅰ	1				
		和服制作実習	1				
		被服造形実習Ⅱ	1				
		服飾文化史	2				
		服飾デザイン論	2				
		服飾材料・整理学	2				
		被服造形学	2				
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	食生活学	2		必修	栄養学及び食品学を含む	
		調理科学実習Ⅰ	1		必修		
		調理科学実習Ⅱ	1		必修		
		食物栄養学	2				
	住居学（製図を含む。）	住生活学	2		必修		
		住居製図基礎実習	1		必修		
		住居デザイン実習	1				
		住文化論	2				
		すまいの安全・安心	2				
		すまいの計画学	2				
		インテリアデザイン論	2				
		インテリアデザイン実習	1				
	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	児童学	2		必修		
		子ども心理学	2				
		児童文化論	2				
		家庭看護学	2		必修		
		保育学実習	1		必修	廃止（注3）	
	家庭電気・家庭機械・情報処理	くらしの機器学	2		必修		
		情報処理Ⅰ	2		必修		
		情報処理Ⅱ	2		必修		
		くらしの情報リテラシー	2				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		家庭科教科教育法基礎	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報通信技術の活用を含む
		家庭科教科教育法Ａ	2	3	必修		
		家庭科教科教育法Ｂ	2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注3）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

免許法施行規則第66条の６に定める科目区分

生活科学部人間生活学科　2022～2023年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ	1	2単位以上選択必修	
		体育実技Ｂ	1		
		スポーツ実習Ａ	1		
		スポーツ実習Ｂ	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	2	2単位以上選択必修	高一種免の教科及び教科の指導法に関する科目の家庭電気・家庭機械・情報処理で履修する「情報処理Ⅰ，Ⅱ」が，数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作として有効なため，改めて履修する必要はない。
		情報処理Ⅱ	2		

（※）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「くらしのための ICT 活用Ⅰ・Ⅱ」を旧科目「情報処理Ⅰ・Ⅱ」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

生活科学部　人間生活学科　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2019～2021年度入学生適用）

第二欄	中一種免（家庭）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学	2	注1	必修	家族関係学を含む	28以上
		くらしの経済学	2		必修	家庭経済学を含む	
		生活科学実験	1				
		環境教育論	2				
		消費者教育論	2				
	被服学（被服製作実習を含む。）	被服製作実習基礎	1		必修		
		衣生活学	2		必修		
		被服製作実習（立体構成）	1			廃止（注3）	
		被服造形実習Ⅰ	1			（注4）	
		被服製作実習（平面構成）	1			廃止（注3）	
		和服制作実習	1			（注4）	
		被服製作実習応用	1			廃止（注3）	
		服飾文化史	2				
		服飾デザイン論	2				
		服飾材料・整理学	2				
		被服造形論	2			廃止（注3）	
		被服造形学	2			（注4）	
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	食生活学	2		必修	栄養学及び食品学を含む	
		調理科学実習Ⅰ	1		必修		
		調理科学実習Ⅱ	1		必修		
		食物栄養学	2				
	住居学	住生活学	2		必修		
		居住環境学	2			廃止（注3）	
		住文化史	2			廃止（注3）	
		住文化論	2			（注4）	
	保育学（実習を含む。）	児童学	2		必修		
		子ども心理学	2				
		親子関係の心理学	2			廃止（注3）	
		児童文化と伝統	2			廃止（注3）	
		児童文化論	2			（注4）	
		児童文化と映像	2			廃止（注3）	
		保育学実習	1		必修	廃止（注3）	
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）（注2）		家庭科教科教育法基礎	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報機器及び教材の活用を含む
		家庭科教科教育法Ａ	2	3	必修		
		家庭科教科教育法Ｂ	2	3	必修		
		中学家庭科教科教育法	2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注3）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。
（注4）対応する廃止科目（学部の履修要項参照）を修得済の場合は履修不可。

第二欄	高一種免（家庭）						
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法	備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学	2	注1	必修	家族関係学を含む	31以上
		くらしの経済学	2		必修	家庭経済学を含む	
		生活科学実験	1				
		環境教育論	2				
		消費者教育論	2				
	被服学（被服製作実習を含む。）	被服製作実習基礎	1		必修		
		衣生活学	2		必修		
		被服製作実習（立体構成）	1			廃止（注3）	
		被服造形実習Ⅰ	1			（注4）	
		被服製作実習（平面構成）	1			廃止（注3）	
		和服制作実習	1			（注4）	
		被服製作実習応用	1			廃止（注3）	
		服飾文化史	2				
		服飾デザイン論	2				
		服飾材料・整理学	2				
		被服造形論	2			廃止（注3）	
		被服造形学	2			（注4）	
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	食生活学	2		必修	栄養学及び食品学を含む	
		調理科学実習Ⅰ	1		必修		
		調理科学実習Ⅱ	1		必修		
		食物栄養学	2				
	住居学（製図を含む。）	住生活学	2		必修		
		住居製図基礎実習	1		必修		
		住居デザイン実習	1				
		居住環境学	2			廃止（注3）	
		住文化史	2			廃止（注3）	
		住文化論	2			（注4）	
	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	児童学	2		必修		
		子ども心理学	2				
		親子関係の心理学	2			廃止（注3）	
		児童文化と伝統	2			廃止（注3）	
		児童文化論	2			（注4）	
		児童文化と映像	2			廃止（注3）	
		家庭看護学	2		必修		
		保育学実習	1		必修	廃止（注3）	
	家庭電気・家庭機械・情報処理	家庭機械および電気	2		必修		
		情報処理Ⅰ	2		必修		
		情報処理Ⅱ	2		必修		
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）（注2）		家庭科教科教育法基礎	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報機器及び教材の活用を含む
		家庭科教科教育法Ａ	2	3	必修		
		家庭科教科教育法Ｂ	2	3	必修		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注3）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。
（注4）対応する廃止科目（学部の履修要項参照）を修得済の場合は履修不可。

免許法施行規則第66条の６に定める科目区分

生活科学部人間生活学科　2019～2021年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ	1	2単位以上選択必修	
		体育実技Ｂ	1		
		スポーツ実習Ａ	1		
		スポーツ実習Ｂ	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	2	2単位以上選択必修	高一種免の教科及び教科の指導法に関する科目の家庭電気・家庭機械・情報処理で履修する「情報処理Ⅰ，Ⅱ」が，数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作として有効なため，改めて履修する必要はない。
		情報処理Ⅱ	2		

（※）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「くらしのための ICT 活用Ⅰ・Ⅱ」を旧科目「情報処理Ⅰ・Ⅱ」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

生活科学部　食物栄養科学科　食物科学専攻　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2024年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（家庭）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		備考	修得すべき単位数
					中一種	高一種		
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	くらしの経済学	2	注1	必修	必修	家庭経済学を含む	中一種29以上 高一種33以上
		家庭経営学	2		必修	必修	家族関係学を含む	
	被服学（被服実習を含む。）	被服学	2		必修	必修		
		被服制作基礎実習	1		必修	必修		
		被服造形実習Ⅰ	1					
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	調理科学実習Ⅰ	1		必修	必修		
		調理科学実習Ⅱ	1		必修	必修		
		食品化学Ⅰ	2		必修	必修		
		食品化学Ⅱ	2		必修	必修		
		栄養学	2		必修	必修		
		生化学	2					
		調理科学Ⅰ	2					
		調理科学Ⅱ	2					
		応用栄養学	2					
		食品微生物学	2					
		食と健康管理	2					
		食品加工貯蔵学	2					
		調理科学実習Ⅲ	1					
		調理科学実習Ⅳ	1					
		食生活論	2		必修	必修		
		食文化論	2		必修	必修		
	住居学	住居学	2		必修	必修		
	保育学	保育学	2		必修	必修		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）		家庭科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		家庭科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		家庭科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	3	必修	必修		
		中学家庭科教科教育法	2	3	必修	—（注3）		

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注3）「中学家庭科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.12の第六欄，大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

生活科学部食物栄養科学科食物科学専攻　2024年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A	1	2単位以上選択必修	
		体育実技B	1		
		スポーツ実習A	1		
		スポーツ実習B	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	食物栄養系のICT・データサイエンスⅠ	2	2単位以上選択必修（注4）	
		食物栄養系のICT・データサイエンスⅡ	2		
		データサイエンス・AI基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注4）2024年度入学生～2025年度入学生については，「食物栄養系のICT・データサイエンスⅠ・Ⅱ」が必修（「データサイエンス・AI基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「食物栄養系のICT・データサイエンスⅠ・Ⅱ」，「データサイエンス・AI基礎」から2単位以上選択必修。

生活科学部　食物栄養科学科　食物科学専攻　教職課程　教科及び教科の指導法に関する科目（2019～2023年度入学生適用）

第二欄	中一種免（家庭）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経済学 2023年度より廃止（注5）	2	注1	必修（注6）		家庭経済学を含む	29以上
		くらしの経済学 2023年度より開講						
		家庭経営学	2		必修		家族関係学を含む	
	被服学（被服製作実習を含む。）	被服学	2		必修			
		被服製作実習基礎Ⅰ	1		必修			
		被服製作実習基礎Ⅱ	1		必修			
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	調理科学実習Ⅰ	1		必修			
		調理科学実習Ⅱ	1		必修			
		食品化学Ⅰ	2		必修			
		食品化学Ⅱ	2		必修			
		栄養学	2		必修			
		生化学	2					
		調理科学Ⅰ	2					
		調理科学Ⅱ	2					
		応用栄養学	2					
		食品微生物学	2					
		食品物性学	2					
		食品加工貯蔵学	2					
		調理科学実習Ⅲ	1					
		調理科学実習Ⅳ	1					
		食生活論	2					
		食文化論	2					
	住居学	住居学	2		必修			
	保育学（実習を含む。）	保育学	2		必修			
		保育学実習	1		必修		廃止（注5）	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）		家庭科教科教育法基礎	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報通信技術の活用を含む（注4）	
		家庭科教科教育法Ａ	2	3	必修			
		家庭科教科教育法Ｂ	2	3	必修			
		中学家庭科教科教育法	2	3	必修			

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2019～2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注4）2019～2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
（注5）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。
（注6）どちらか１科目を履修すること。

第二欄	高一種免（家庭）							
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		備考	修得すべき単位数
教科に関する専門的事項	家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経済学 2023年度より廃止（注5）	2	注1	必修（注6）		家庭経済学を含む	33以上
		くらしの経済学 2023年度より開講						
		家庭経営学	2		必修		家族関係学を含む	
	被服学（被服製作実習を含む。）	被服学	2		必修			
		被服製作実習基礎Ⅰ	1		必修			
		被服製作実習基礎Ⅱ	1		必修			
	食物学（栄養学，食品学及び調理実習を含む。）	調理科学実習Ⅰ	1		必修			
		調理科学実習Ⅱ	1		必修			
		食品化学Ⅰ	2		必修			
		食品化学Ⅱ	2		必修			
		栄養学	2		必修			
		生化学	2					
		調理科学Ⅰ	2					
		調理科学Ⅱ	2					
		応用栄養学	2					
		食品微生物学	2					
		食品物性学	2					
		食品加工貯蔵学	2					
		調理科学実習Ⅲ	1					
		調理科学実習Ⅳ	1					
		食生活論	2					
		食文化論	2					
	住居学（製図を含む。）	住居学	2		必修		製図を含む	
	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	保育学	2		必修		家庭看護を含む	
		保育学実習	1		必修		廃止（注5）	
	家庭電気・家庭機械・情報処理	〈2022年度以降入学生適用〉くらしの機器学 〈2019～2021年度入学生適用〉家庭機械および電気	2		必修			
		情報処理Ⅰ	2		必修			
		情報処理Ⅱ	2		必修			
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）（注2）（注3）		家庭科教科教育法基礎	2	3	必修	教育実習履修資格科目	情報通信技術の活用を含む（注4）	
		家庭科教科教育法Ａ	2	3	必修			
		家庭科教科教育法Ｂ	2	3	必修			

（注1）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注2）2019～2021年度入学生は「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」
（注3）当該科目の卒業上の科目区分は，自由選択科目となる。
（注4）2019～2021年度入学生は「情報機器及び教材の活用を含む」
（注5）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。
（注6）どちらか１科目を履修すること。

免許法施行規則第66条の６に定める科目区分

生活科学部食物栄養科学科食物科学専攻　2019～2023年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ	1	２単位以上選択必修	
		体育実技Ｂ	1		
		スポーツ実習Ａ	1		
		スポーツ実習Ｂ	1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	2	２単位以上選択必修	高一種免の教科及び教科の指導法に関する科目の家庭電気・家庭機械・情報処理で履修する「情報処理Ⅰ，Ⅱ」が，数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作として有効なため，改めて履修する必要はない。
		情報処理Ⅱ	2		

（※）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「食物栄養系のICT・データサイエンスⅠ・Ⅱ」を旧科目「情報処理Ⅰ・Ⅱ」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

教職課程

（中学校・高等学校教諭免許課程）（2025年度以降入学生適用）

音楽専攻科

教職課程　中学校・高等学校教諭免許課程（音楽専攻科）（2025年度以降入学生適用）

免許状の種類

音楽専攻科で取得できる免許状の教科・種類は次の通りです。

教　　科	種　　類
音楽	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状

基礎資格および最低修得単位数

上記の専修免許状を取得するための基礎資格および最低修得単位数は次の通りです。

基　礎　資　格	単　位　数
音楽専攻科に1年以上在学し，30単位以上修得した場合	大学が独自に設定する科目を24単位以上

音楽専攻科で中学校および高等学校教諭専修免許状を取得するためには，既に中学校および高等学校教諭の一種免許状を取得しているか，一種免許状を取得するために必要な単位を修得していることが必要です。

そうではない場合は，音楽専攻科にて大学が独自に設定する科目を履修するだけでなく，学部の科目等履修生として，中学校および高等学校教諭一種免許状を取得するために必要な科目を履修し，一種免許状の所要資格を満たす必要があります。（中学校教諭免許状取得のためには，介護等体験も必要です。）

■大学が独自に設定する科目

科　　目	単位	備考
＜声楽専攻科目＞		
専門実技（声楽）	6	
歌曲研究 A	2	
歌曲研究 B	2	
オラトリオ研究 A	2	
オラトリオ研究 B	2	
オペラ研究Ⅰ	2	
オペラ研究Ⅱ	2	
＜鍵盤楽器専攻科目＞		
専門実技（鍵盤楽器）	6	
伴奏法 A	2	
伴奏法 B	2	
鍵盤楽器奏法研究 A	2	
鍵盤楽器奏法研究 B	2	
＜管弦打楽器専攻科目＞		
専門実技（管弦打楽器）	6	
管弦打楽器合奏Ⅰ	3	
管弦打楽器合奏Ⅱ	3	
＜各専攻共通科目＞		
楽曲分析Ⅰ	2	
楽曲分析Ⅱ	2	
楽書講読Ⅰ	2	
楽書講読Ⅱ	2	
指揮法研究Ⅰ	2	
指揮法研究Ⅱ	2	
京都の音・音楽Ⅰ	2	
京都の音・音楽Ⅱ	2	
音楽史特講Ⅰ	2	
音楽史特講Ⅱ	2	

（注）音楽専攻科の課程修了のための科目でも，上記に含まれていない科目は教職課程科目（大学が独自に設定する科目）ではない。

免許の申請

教職課程を修了しても，免許の授与権者である都道府県教育委員会に申請しなければ免許状の交付は受けられません。本学では，正規学生の京都府教育委員会への教員免許申請を代行し一括して取り扱っています。手続きについては，免許・資格課よりお知らせしますので，指示に従ってください。一括申請の場合の授与年月日は修了日と同一，授与権者は京都府教育委員会になります。

教職課程

（幼稚園・小学校教諭免許課程）（2022年度以降入学生適用）

現代社会学部　現代こども学科

教職課程 幼稚園・小学校教諭免許課程（2022年度以降入学生適用）

教職課程とは，教育職員免許法に基づいて授与される教育職員免許状を取得するための課程です。教育職員免許状を取得するためには，この課程で定められた所定の単位を修得し，都道府県教育委員会に免許状申請をしなければなりません。また，実際に公立学校の教員に採用されるためには地方自治体の行う教員採用試験に，私立学校の教員に採用されるためには各学校の行う教員採用試験に合格しなければなりません。

履修上の心構え

教職課程の履修にあたっては，適性と将来の計画についてよく考え，実際に教職に就くことを志望する人のみが履修するようにしてください。

教員としての仕事は大変やりがいのある仕事であることは確かですが，非常に大変な仕事であることも確かです。なぜ自分は教職に就こうとしているのかをよく考えて，教職課程の科目を履修してください。

教育実習は，全面的に実習校の好意に支えられて行われている制度です。教育実習期間中に一般企業の採用試験が重なった場合でも，教育実習を休むことは一切許されません。

教職に就こうと努力していく人は，多くの困難も乗り越えて行けるものと思います。これからの教員には教科を教える能力は言うまでもなく，今まで以上に，児童･幼児との人間としてのふれあいを通しての指導が求められています。幅広い能力を持った教員を目指して頑張ってください。

免許の種類・課程修了要件

1．現代こども学科で取得できる免許状の種類および課程修了に必要な要件は以下の通りです。

2．課程修了に必要な要件は，

①基礎資格を満たすこと。（大学を卒業すること。）

②教科及び教職に関する科目の必要単位数を修得すること。

③「日本国憲法」,「体育」,「外国語コミュニケーション」,「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の必要単位数を修得すること。

④介護等体験を行うこと。（小学校教諭免許状及び中学校教諭免許状のみ）

以上の 4 点に分けられ，それらのすべての要件を満たさなければなりません。

3．小学校教諭免許状，幼稚園教諭免許状には，一種免許状の他に二種免許状があります。二種免許状は通常，短期大学の教職課程修了者が取得する免許状です。一種免許状を取得した学生は，二種免許状を取得する必要はありません。

（注 1）各科目の履修方法は，科目表を参照してください。

教職課程における必修・選択の区分は教職課程修了のための区分であって，各学科の卒業のための必修・選択の区分とは別です。

（注 2）正規学生が他学科・他専攻の免許状を取得することは認められていません。

教育実習（「初等教育実習」）履修資格

本学では初等教育実習に行く前に満たすべき条件を定めています。条件を満たしていなければ「初等教育実習」を履修登録することができません。これは，科目等履修生にも適用されます。

〔幼稚園教諭課程教育実習〕〈2025年度以降入学生〉

①「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」から 6 単位以上を修得していること。

②「こどもと言葉」「こどもと人間関係」「こどもと造形表現」「こどもと音楽表現」「こどもと環境」「こどもと健康」から 2 単位以上を修得していること。

③「保育内容総論」「保育内容指導法総論」「保育内容（健康）」「保育内容（人間関係）」「保育内容（環境）」「保育内容（言葉）」「保育内容（表現）」から 6 単位以上を修得していること。

〔幼稚園教諭課程教育実習〕〈2022～2024年度入学生〉

①「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」から 6 単位以上を修得していること。

②「こどもと言葉」「こどもと人間関係」「こどもと造形表現」「こどもと音楽表現」から 2 単位以上を修得していること。

③「幼児教育内容総論」「幼児教育指導法総論」「保育内容（健康）」「保育内容（人間関係）」「保育内容（環境）」「保育内容（ことば）」「保育内容（表現）」から 6 単位以上を修得していること。

〔小学校教諭課程教育実習〕〈2025年度以降入学生〉

①「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」の 8 単位を修得していること。

②「国語」「社会」「算数」「理科」「生活」「音楽」「図画工作」「家庭」「体育」「外国語（英語）」から 4 単位以上を修得していること。

③「国語科指導法」「社会科指導法」「算数科指導法」「理科指導法」「生活科指導法」「音楽科指導法」「図画工作科指導法」「家庭科指導法」「体育科指導法」「外国語（英語）科指導法」から 4 単位以上を修得していること。

〔小学校教諭課程教育実習〕〈2022～2024年度入学生〉

①「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」の 8 単位を修得していること。

②「国語」「社会」「算数」「理科」「生活」「音楽」「図画工作」「家庭」「体育」「外国語（英語）」から 8 単位以上を修得していること。

③「国語科指導法」「社会科指導法」「算数科指導法」「理科指導法」「生活科指導法」「音楽科指導法」「図画工作科指導法」「家庭科指導法」「体育科指導法」「外国語（英語）科指導法」から 4 単位以上を修得していること。

教職実践演習（幼・小）または保育・教職実践演習（幼・小）履修資格

「初等教育実習」の単位を修得済みであること，または同一年度に履修すること。ただし，「初等教育実習」を履修登録した後，取り止めた場合は，教職実践演習の履修資格を失います。

介護等体験

小学校教諭免許状取得のための必要要件として，所定の単位の修得以外に，法令により，介護等体験が義務づけられています。2 年次の9月～10月頃に翌年度の介護等体験のオリエンテーションを行います。教職課程(小一種免)を履修する予定の学生は必ず参加してください。
※介護等体験実施時期は 3 年次以降です。

介護等体験制度の概要は次の通りです。

趣　　旨	個人の尊厳と社会連帯の理念に関する認識を深めて，教員としての資質の向上を図るため。
内　　容	特別支援学校（盲学校，聾学校，養護学校）および社会福祉施設での障害者，高齢者に対する介護，介助等。（満18歳になってからの実習であり，かつ1998年 4 月 1 日以降に実施された実習で，文部科学省・厚生労働省で認められた施設での実習でなければなりません。）
期　　間	教員免許状申請時までに 7 日間以上。（ 7 日間以上の介護等体験終了の証明書がなければ，教員免許状の申請ができません。）
費　　用	社会福祉施設での体験費用として7,500円～11,000円程度が必要。
実習施設の配当	大学を通して，実習施設の配当を受けることが原則となります。
実習証明書	介護等体験は科目ではないため，単位は授与されません。実習証明書を学生自身が保管し，教員免許状申請時に申請書に添付することになります。
適用除外	既に，看護師，保健師，社会福祉士，介護福祉士等の免許や資格を有する場合や，実習生自身が，１級から 6 級の身体障害者として認定されている場合は，介護等体験を行う義務はありません。また，既に小学校教諭二種免許状，中学校教諭免許状を持っている場合は介護等体験を行う必要はありません。
関連科目	「介護概説」または「介護論」を体験実施前までに履修することが望ましい。
そ の 他	本学では休学期間中に介護等体験を行うことはできません。

免許の申請

教職課程を修了しても，免許の授与権者である都道府県教育委員会に申請しなければ免許状の交付は受けられません。本学では，正規学生の京都府教育委員会への教員免許申請を代行し一括して取り扱っています。申請希望者には，４年次生を対象に11月頃に申請書類を配付しますので，指示に従ってください。一括申請の場合の授与年月日は卒業式日と同一，授与権者は京都府教育委員会になります。なお，他の都道府県での申請を希望する場合や単位の流用に関する規定を利用して申請する場合などは，学生個人が直接申請する個人申請となります。また，本学では二種免許状の申請は行いません。

教職課程履修に関するスケジュール

教職課程履修に関するスケジュールの概略は，次の通りです。各年次の説明会には必ず参加し，手続きに遺漏のないよう注意すること。

1年次	11月～12月	現代こども学科１年次履修説明会	学科カリキュラム（教職課程を含む）について説明する。いずれの免許課程を履修するかについて，意思確認を行う。（その後変更があった場合は現代社会学部事務室へ届け出ること。）
2年次	４月～５月	２年次対象教育実習説明会	実習手続きについて説明をする。
	４月～夏期休暇	実習校への正式依頼 （小一種教免状のみ取得希望者および幼･小一種教免状両方取得希望者対象）	実習予定校（出身校）に本学の依頼状など必要書類を持参して正式に依頼する。（注１） 秋学期開始までに内諾を得るのが望ましい。
	６月～夏期休暇	担当教員との面談 （幼一種教免状のみ取得希望者対象）	面談の上，実習予定園を決定する。 実習予定園に本学の依頼状など必要書類を持参して正式に依頼する。（注１） 秋学期開始までに内諾を得るのが望ましい。
	9月～10月	介護等体験オリエンテーション （小一種教免状取得希望者対象）	介護等体験手続書類配付。 概要説明・事前指導等を行う。 介護等体験を希望する学生は必ず参加すること。
	秋学期開始	各種アンケートへの回答	新教務システム（D-pass）等を通じて期限までに回答すること。
	夏期休暇～ 10月頃	人権・同和教育および性教育講演会	初等教育実習Ａ事前指導の一環として実施。 次年度に教育実習を行う学生は必ず参加すること。
3年次	履修登録期間	履修登録	実習校(園)への正式依頼を済ませ，教育実習の履修資格があることを確認の上「初等教育実習Ａ」の履修登録を行う。
	４月	教育実習費納入 （事務手数料＋各実習校（園）・教育委員会毎の必要額）	
	４月～７月頃	初等教育の現状オリエンテーション	初等教育実習Ａ授業内で実施。当該年度に教育実習を行う学生は必ず参加すること。
	５月～	介護等体験	４年次夏までに体験を終了すること。
	８月下旬～12月	教育実習	実習時期は，実習校･教育委員会が調整の上，決定される。
	教育実習終了後	幼稚園追加教育実習申し込み （希望者のみ）	幼・小一種教免状両方取得希望者のうち，幼稚園における２週間の追加実習を希望する学生は，現代社会学部事務室で所定の手続を行うこと。
4年次	履修登録期間	履修登録	「教職実践演習（幼･小)」または「保育･教職実践演習（幼･小)」の履修登録を行う。
	５月～９月	介護等体験（４年次で体験する場合）	春学期中に体験を終了すること。
	11月	免許申請書類配付・提出	免許・資格課から必要書類を配付。
	５月～11月	幼稚園追加教育実習 （希望者のみ）	実習期間は２週間，実習時期は，実習園・教育委員会の都合で決定される。

（注１）教育委員会が実習校（園）を配当する場合（一部の公立学校･園）や，同志社幼稚園等は，事前交渉･正式依頼は必要ない。詳細は，２年次対象教育実習説明会で配付される冊子で確認すること。

幼稚園教諭一種免許状課程（2025年度以降入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項		共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数
教科及び教職に関する科目	第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康		こどもと健康	1	半1	1	必修	20
				人間関係		こどもと人間関係	1	半1	2	必修	
				環境		こどもと環境	1	半1	1	必修	
				言葉		こどもと言葉	1	半1	2	必修	
				表現		こどもと造形表現	1	半1	2	必修	
						こどもと音楽表現	1	半1	2	必修	
			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			保育内容総論	2	半2	1	必修	
						保育内容指導法総論	2	半2	2	必修	
						保育内容（健康）	2	半2	3	必修	
						保育内容（人間関係）	2	半2	3	必修	
						保育内容（環境）	2	半2	2	必修	
						保育内容（言葉）	2	半2	2	必修	
						保育内容（表現）	2	半2	3	必修	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		幼・小	教育の原理	2	半2	2	必修	12
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		幼・小	教職論	2	半2	1	必修	
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		幼・小	教育の制度と経営	2	半2	2	必修	
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		幼・小	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修	
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		幼・小	特別支援教育	2	半2	2	必修	
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			保育カリキュラム論	2	半2	2	必修	
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		幼・小	教育方法と技術（ICT の活用を含む）	2	半2	2	必修	6
			幼児理解の理論及び方法			こども理解の理論と方法	2	半2	3	必修	
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		幼・小	教育相談	2	半2	3	必修	
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習		幼・小	初等教育実習 A（事前・事後指導を含む）	5	通2	3	（注1）	5
					幼・小	初等教育実習 B（事前・事後指導を含む）（注2）	3	通2	3		
					幼・小	初等教育実習 C	2	通2	3		
			教職実践演習		幼・小	保育・教職実践演習（幼・小）	2	半2	4	必修	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目				道徳教育論	2	半2	3	選択	6以上
						児童理解と生徒・進路指導	2	半2	2	選択	
						現代こども学概論	2	半2	1	選択	
						教育とこどもの社会史	2	半2	1	選択	
						こどもの発達心理学	2	半2	1	選択	
	合計						51				51

（※）「初等教育実習」，「保育・教職実践演習（幼・小）」の履修資格は P.43を参照のこと。
（注１）小学校又は幼稚園で 4 週間の教育実習を行う場合は，「初等教育実習Ａ」（5 単位）を履修すること。（「初等教育実習Ｂ」「初等教育実習Ｃ」の履修は必要ない。）それ以外の実習を希望する場合は，免許・資格課に申し出ること。
（注２）幼稚園における 2 週間の追加実習を許可された場合は，「初等教育実習Ｂ」を履修すること。この場合の「初等教育実習Ｂ」の単位は卒業に必要な単位に算入することはできるが，幼一免取得の単位としてはオーバー単位として履修すること。

免許法施行規則第66条の 6 に定める科目区分

現代社会学部現代こども学科　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ，Ｂ	各1	2 単位以上選択必修	
		スポーツ実習Ａ，Ｂ	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2 単位選択必修（注3）	
		データサイエンス・AI 基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注３）2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT 活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI 基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT 活用基礎」，「データサイエンス・AI 基礎」から 2 単位以上選択必修。

小学校教諭一種免許状課程（2025年度以降入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項		共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数
教科及び教職に関する科目	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）		国語	2	半2	2	6単位以上選択必修	30
				社会		社会	2	半2	2		
				算数		算数	2	半2	2		
				理科		理科	2	半2	2		
				生活		生活	2	半2	2		
				外国語		外国語（英語）	2	半2	3		
				音楽		音楽	2	半2	3	4単位以上選択必修	
				図画工作		図画工作	2	半2	3		
				家庭		家庭	2	半2	3		
				体育		体育	2	半2	3		
			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語（書写を含む。）		国語科指導法	2	半2	2	必修	
				社会		社会科指導法	2	半2	2	必修	
				算数		算数科指導法	2	半2	2	必修	
				理科		理科指導法	2	半2	2	必修	
				生活		生活科指導法	2	半2	2	必修	
				外国語		外国語（英語）科指導法	2	半2	3	必修	
				音楽		音楽科指導法	2	半2	3	必修	
				図画工作		図画工作科指導法	2	半2	3	必修	
				家庭		家庭科指導法	2	半2	3	必修	
				体育		体育科指導法	2	半2	3	必修	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		幼・小	教育の原理	2	半2	2	必修	12
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		幼・小	教職論	2	半2	1	必修	
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		幼・小	教育の制度と経営	2	半2	2	必修	
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		幼・小	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修	
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		幼・小	特別支援教育	2	半2	2	必修	
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	2	半2	2	必修	
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法			道徳教育論	2	半2	3	必修	11
			総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間の指導法	1	半2	3	必修	
			特別活動の指導法			特別活動論	2	半2	3	必修	
			教育の方法及び技術		幼・小	教育方法と技術（ICT の活用を含む）	2	半2	2	必修	
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法								
			生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			児童理解と生徒・進路指導	2	半2	2	必修	
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		幼・小	教育相談	2	半2	3	必修	
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習		幼・小	初等教育実習 A（事前・事後指導を含む）	5	通2	3	（注1）	5
					幼・小	初等教育実習 B（事前・事後指導を含む）	3	通2	3		
					幼・小	初等教育実習 C	2	通2	3		
			教職実践演習		幼・小	保育・教職実践演習（幼・小）	2	半2	4	必修	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目									
	合計						60				60

（※）「初等教育実習」，「保育・教職実践演習（幼・小）」の履修資格は P.43を参照のこと。
（注１）小学校で４週間の教育実習を行う場合は，「初等教育実習 A」（５単位）を履修すること。（「初等教育実習 B」「初等教育実習 C」の履修は必要ない。）それ以外の実習を希望する場合は，免許・資格課に申し出ること。

免許法施行規則第66条の 6 に定める科目区分

現代社会学部現代こども学科　2025年度以降入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ，Ｂ	各1	2 単位以上選択必修	
		スポーツ実習Ａ，Ｂ	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	データサイエンス・ICT活用基礎	2	2 単位選択必修（注2）	
		データサイエンス・AI 基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注２）2025年度入学生については，「データサイエンス・ICT 活用基礎」が必修（「データサイエンス・AI 基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「データサイエンス・ICT 活用基礎」，「データサイエンス・AI 基礎」から２単位以上選択必修。

幼稚園教諭一種免許状課程（2022～2024年度入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項		共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数
教科及び教職に関する科目	第二欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康		こどもと健康	1	半2	3	必修	20
				人間関係		こどもと人間関係	1	半2	1	必修	
				環境		こどもと環境	1	半2	3	必修	
				言葉		こどもと言葉	1	半2	1	必修	
				表現		こどもと造形表現	1	半2	2	必修	
						こどもと音楽表現	1	半2	2	必修	
			保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			幼児教育内容総論	2	半2	1	必修	
						幼児教育指導法総論	2	半2	2	必修	
						保育内容（健康）	2	半2	3	必修	
						保育内容（人間関係）	2	半2	3	必修	
						保育内容（環境）	2	半2	2	必修	
						保育内容（ことば）	2	半2	2	必修	
						保育内容（表現）	2	半2	3	必修	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		幼・小	教育の原理	2	半2	2	必修	12
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		幼・小	教職論	2	半2	1	必修	
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		幼・小	教育の制度と経営	2	半2	2	必修	
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		幼・小	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修	
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		幼・小	特別支援教育	2	半2	3	必修	
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			幼児教育課程総論	2	半2	2	必修	
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		幼・小	教育方法と技術（ICT の活用を含む）	2	半2	2	必修	6
			幼児理解の理論及び方法			こども理解の理論と方法	2	半2	3	必修	
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		幼・小	教育相談	2	半2	3	必修	
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習		幼・小	初等教育実習 A（事前・事後指導を含む）	5	通2	3	（注1）	5
					幼・小	初等教育実習 B（事前・事後指導を含む）（注2）	3	通2	3		
					幼・小	初等教育実習 C	2	通2	3		
			教職実践演習		幼・小	教職実践演習（幼・小）	2	半2	4	必修	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目				道徳教育論	2	半2	3	選択	6以上
						児童理解と生徒・進路指導	2	半2	2	選択	
						現代こども学概論	2	半2	1	選択	
						教育とこどもの社会史	2	半2	1	選択	
						こどもの発達心理学	2	半2	1	選択	
	合計						51				51

（※）「初等教育実習」，「教職実践演習（幼・小）」の履修資格は P.43を参照のこと。
（注１）小学校又は幼稚園で 4 週間の教育実習を行う場合は，「初等教育実習Ａ」（5 単位）を履修すること。（「初等教育実習Ｂ」「初等教育実習Ｃ」の履修は必要ない。）それ以外の実習を希望する場合は，免許・資格課に申し出ること。
（注２）幼稚園における 2 週間の追加実習を許可された場合は，「初等教育実習Ｂ」を履修すること。この場合の「初等教育実習Ｂ」の単位は卒業に必要な単位に算入することはできるが，幼一免取得の単位としてはオーバー単位として履修すること。

免許法施行規則第66条の 6 に定める科目区分

現代社会学部現代こども学科　2022～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ，Ｂ	各1	2 単位以上選択必修	
		スポーツ実習Ａ，Ｂ	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	〈2024年度入学生適用〉 データサイエンス・ICT 活用基礎 〈2022～2023年度入学生適用〉 コンピュータ活用	2	必修	（注1）

（注1）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT 活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

小学校教諭一種免許状課程（2022～2024年度入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項		共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数
教科及び教職に関する科目	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）		国語	2	半2	2	必修	20
				社会		社会	2	半2	2	必修	
				算数		算数	2	半2	2	必修	
				理科		理科	2	半2	2	必修	
				生活		生活	2	半2	2	必修	
				音楽		音楽	2	半2	3	必修	
				図画工作		図画工作	2	半2	3	必修	
				家庭		家庭	2	半2	3	必修	
				体育		体育	2	半2	3	必修	
				外国語		外国語（英語）	2	半2	3	必修	
			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語（書写を含む。）		国語科指導法	1	半2	2	必修	10
				社会		社会科指導法	1	半2	2	必修	
				算数		算数科指導法	1	半2	2	必修	
				理科		理科指導法	1	半2	2	必修	
				生活		生活科指導法	1	半2	2	必修	
				音楽		音楽科指導法	1	半2	3	必修	
				図画工作		図画工作科指導法	1	半2	3	必修	
				家庭		家庭科指導法	1	半2	3	必修	
				体育		体育科指導法	1	半2	3	必修	
				外国語		外国語（英語）科指導法	1	半2	3	必修	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		幼・小	教育の原理	2	半2	2	必修	12
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		幼・小	教職論	2	半2	1	必修	
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		幼・小	教育の制度と経営	2	半2	2	必修	
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		幼・小	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修	
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		幼・小	特別支援教育	2	半2	3	必修	
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	2	半2	2	必修	
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法			道徳教育論	2	半2	3	必修	11
			総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間の指導法	1	半2	3	必修	
			特別活動の指導法			特別活動論	2	半2	3	必修	
			教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		幼・小	教育方法と技術（ICT の活用を含む）	2	半2	2	必修	
			生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			児童理解と生徒・進路指導	2	半2	2	必修	
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		幼・小	教育相談	2	半2	3	必修	
	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習		幼・小	初等教育実習 A（事前・事後指導を含む）	5	通2	3	（注1）	5
					幼・小	初等教育実習 B（事前・事後指導を含む）	3	通2	3		
					幼・小	初等教育実習 C	2	通2	3		
			教職実践演習		幼・小	教職実践演習（幼・小）	2	半2	4	必修	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目									
	合計						60				60

（※）「初等教育実習」，「教職実践演習（幼・小）」の履修資格は P.43を参照のこと。
（注１）小学校で４週間の教育実習を行う場合は，「初等教育実習 A」（５単位）を履修すること。（「初等教育実習 B」「初等教育実習 C」の履修は必要ない。）それ以外の実習を希望する場合は，免許・資格課に申し出ること。

免許法施行規則第66条の６に定める科目区分

現代社会学部現代こども学科　2022～2024年度入学生適用

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技Ａ，Ｂ	各1	2単位以上選択必修	
		スポーツ実習Ａ，Ｂ	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	〈2024年度入学生適用〉 データサイエンス・ICT 活用基礎 〈2022～2023年度入学生適用〉 コンピュータ活用	2	必修	（注1）

（注1）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT 活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

教職課程

（中学校・高等学校（英語）教諭免許併修課程）（2022年度以降入学生適用）

現代社会学部　現代こども学科

中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）履修科目表（現代こども学科 選抜者用）（2022年度以降入学生適用）

	免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	中一必修	高一必修	修得すべき単位数
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	（小免の単位を流用）	2	2	2	2	10
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	（小免の単位を流用）	2	2	2	2	
		教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	（小免の単位を流用）	2	2	2	2	
		幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	（小免の単位を流用）	2	2	2	2	
		特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	1	2	1	1	
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	1	2	1	1	
第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法（注1）	道徳教育論（注1）	2	3	2	—	中一種10 高一種8
		【中一種】 総合的な学習の時間の指導法 【高一種】 総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習・探究の時間の指導法	1	2	1	1	
		特別活動の指導法	特別活動論	1	2	1	1	
		教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法及び技術（ICT の活用を含む）	2	3	2	2	
		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導（進路指導を含む）	2	3	2	2	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	（小免の単位を流用）	2	3	2	2	
第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習 B（事前・事後指導を含む）	3	4	3	—	中一種5 高一種3
			（小免の単位を流用）	中：2 高：3	4	2	3	
		教職実践演習	（小免の単位を流用）	2	4	2	2	2
第六欄	大学が独自に設定する科目		道徳教育論（注1）	2	3			中一種4以上 高一種12以上
			中学英語科教科教育法（注2）	2	2			
			教職特別演習Ⅰ	2	3			
			教職特別演習Ⅱ	2	4			
			学校経営と学校図書館	2	2			
			学校図書館メディアの構成	2	3			
			学習指導と学校図書館	2	3			
			【中一種】28単位を超えて修得した第二欄の「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位。 【高一種】24単位を超えて修得した第二欄の「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位及び 3 単位を超えて修得した「教育実習」の単位。					

1．2022年度以降に入学する現代こども学科の一部の学生に対し，小学校教諭免許課程の履修（および卒業時の免許取得）を前提として，中学校・高等学校教諭免許（英語）課程科目の履修を認める。
　なお，小一種免の所要資格を満たさなければ，中一種免（英語）および高一種免（英語）の申請はできない。
2．中学校・高等学校教諭免許（英語）課程の履修を認める学生は，１年次の秋学期終了時に選考を行い決定する。
3．教育実習，初等教育実習とも，教育実習履修資格を満たさなければ，履修登録することができない。
4．教職実践演習は，教職実践演習履修資格を満たさなければ，履修登録することができない。
5．（小免の単位を流用）と記載のある科目以外はすべて自由選択科目のため，卒業に必要な単位に算入されない。
（注１）第四欄 道徳の理論及び指導法の「道徳教育論」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，第六欄 大学が独自に設定する科目の単位として算入される。
（注２）「中学英語科教科教育法」は高等学校教諭一種免許状の科目としては，第六欄「大学が独自に設定する科目」の単位として算入される。

中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）教科及び教科の指導法に関する科目（現代こども学科 選抜者用）（2024年度以降入学生適用）

第二欄	中・高一種免（英語）								
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		卒業単位区分	備考	修得すべき単位数
					中一種	高一種			
教科に関する専門的事項	英語学	英語学概論Ⅰ	2	注2	必修	必修	共通学芸科目		中一種28以上 高一種26以上
		英語学概論Ⅱ	2				共通学芸科目		
		英語音声学Ⅰ	2		必修	必修	共通学芸科目		
		英語音声学Ⅱ	2		必修	必修	共通学芸科目		
		外国語教育論Ⅰ	2				共通学芸科目		
		外国語教育論Ⅱ	2				共通学芸科目		
		言語学入門	2				共通学芸科目		
		基礎英文法A	1		1単位以上選択必修	1単位以上選択必修	区分外領域		
		基礎英文法B	1				区分外領域		
	英語文学	イギリス文学史	2		必修	必修	共通学芸科目		
		アメリカ文学史	2		必修	必修	共通学芸科目		
	英語コミュニケーション	コミュニケーション学入門	2				共通学芸科目		
		Speaking Ⅰ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Speaking Ⅱ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Listening Ⅰ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Listening Ⅱ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Reading Ⅰ	2				区分外領域	注1	
		Reading Ⅱ	2				区分外領域	注1	
		Writing Ⅰ	2				区分外領域	注1	
		Writing Ⅱ	2				区分外領域	注1	
		Listening & Speaking Ⅰ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Listening & Speaking Ⅱ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
	異文化理解	イギリス研究入門	2				共通学芸科目		
		アメリカ研究入門	2				共通学芸科目		
		異文化コミュニケーション	2		必修	必修	共通学芸科目		
		カナダの文化と社会	2				共通学芸科目		
		オセアニアの文化と社会	2				共通学芸科目		
		イギリス文化史	2				共通学芸科目		
		アメリカ文化史	2				共通学芸科目		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		英語科教科教育法基礎（教育実習履修資格科目）	2	2	必修	必修	自由選択科目	情報通信技術の活用を含む	
		英語科教科教育法A（教育実習履修資格科目）	2	2	必修	必修	自由選択科目		
		英語科教科教育法B（教育実習履修資格科目）	2	2	必修	必修	自由選択科目		
		中学英語科教科教育法	2	2	必修	ー（注3）	自由選択科目		

※各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）の科目はすべて自由選択科目のため，卒業に必要な単位に算入されない。
（注１）セメスター語学留学で修得した単位は，中・高一種免（英語）取得には使用できないので注意すること。
（注２）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注３）「中学英語科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.52の第六欄大学が独自に設定する科目の単位として算入される。

中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）教科及び教科の指導法に関する科目（現代こども学科 選抜者用）（2022～2023年度入学生適用）

第二欄	中・高一種免（英語）								
	各科目に含めることが必要な事項	科　目	単位	履修年次	履修方法		卒業単位区分	備考	修得すべき単位数
					中一種	高一種			
教科に関する専門的事項	英語学	英語学概論Ⅰ	2	注2	必修	必修	共通学芸科目		中一種28以上 高一種26以上
		英語学概論Ⅱ	2				共通学芸科目		
		英語音声学Ⅰ	2		必修	必修	共通学芸科目		
		英語音声学Ⅱ	2				共通学芸科目		
		外国語教育論Ⅰ	2				共通学芸科目		
		外国語教育論Ⅱ	2				共通学芸科目		
	英語文学	イギリス文学史	2		必修	必修	共通学芸科目		
		アメリカ文学史	2		必修	必修	共通学芸科目		
	英語コミュニケーション	言語コミュニケーション入門Ⅰ	2		必修	必修	共通学芸科目		
		言語コミュニケーション入門Ⅱ	2		必修	必修	共通学芸科目		
		Speaking Ⅰ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Speaking Ⅱ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Active Listening Ⅰ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
		Active Listening Ⅱ	1		必修	必修	区分外領域	注1	
	異文化理解	イギリス文化入門	2		必修	必修	共通学芸科目		
		アメリカ文化入門	2		必修	必修	共通学芸科目		
		イギリス文化研究	2				共通学芸科目	廃止（注4）	
		アメリカ文化研究	2				共通学芸科目	廃止（注4）	
		アメリカの社会と文化	2				共通学芸科目	廃止（注4）	
		イギリスの社会と文化	2				共通学芸科目	廃止（注4）	
		アメリカ文化・文学研究A	2				共通学芸科目	廃止（注4）	
		アメリカ文化・文学研究B	2				共通学芸科目	廃止（注4）	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		英語科教科教育法基礎	2	2	必修	必修	自由選択科目	情報通信技術の活用を含む	
		英語科教科教育法A	2	2	必修	必修	自由選択科目		
		英語科教科教育法B	2	2	必修	必修	自由選択科目		
		中学英語科教科教育法	2	2	必修	—（注3）	自由選択科目		

※各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）の科目はすべて自由選択科目のため，卒業に必要な単位に算入されない。
（注１）セメスター語学留学で修得した単位は，中・高一種免（英語）取得には使用できないので注意すること。
（注２）履修年次は当該学部の履修要項を参照すること。
（注３）「中学英語科教科教育法」は中学校教諭一種免許状の取得に必要となる科目であり，高等学校教諭一種免許状の科目としては，P.52の第六欄「大学が独自に設定する科目」の単位として算入される。
（注４）廃止された科目を修得済の場合，単位は当該科目区分において有効。

教職課程

（小学校教諭免許併修課程）（2019年度以降入学生適用）

学芸学部　音楽学科　音楽文化専攻

教職課程　小学校教諭一種免許状履修科目表（音楽文化専攻 選抜者用）（2025年度以降入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項		科　目	単位	履修年次	卒業単位区分（注2）	修得すべき単位数
教科及び教職に関する科目	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	国語	2	2	区分外領域	（注3）
				社会	社会	2	2	区分外領域	
				算数	算数	2	2	区分外領域	
				理科	理科	2	2	区分外領域	
				生活	生活	2	2	区分外領域	
				外国語	外国語（英語）	2	3	区分外領域	
				音楽	音楽	2	3	区分外領域	（注4）
				図画工作	図画工作	2	3	区分外領域	
				家庭	家庭	2	3	区分外領域	
				体育	体育	2	3	区分外領域	
			各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語（書写を含む。）	国語科指導法	2	2	区分外領域	20
				社会	社会科指導法	2	2	区分外領域	
				算数	算数科指導法	2	2	区分外領域	
				理科	理科指導法	2	2	区分外領域	
				生活	生活科指導法	2	2	区分外領域	
				外国語	外国語（英語）科指導法	2	3	区分外領域	
				音楽	音楽科指導法	2	3	区分外領域	
				図画工作	図画工作科指導法	2	3	区分外領域	
				家庭	家庭科指導法	2	3	区分外領域	
				体育	体育科指導法	2	3	区分外領域	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		（中高免の単位を流用）	2	2		12
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		（中高免の単位を流用）	2	1		
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		（中高免の単位を流用）	2	2		
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		（中高免の単位を流用）	2	2		
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		特別支援教育（注1）	2	2	区分外領域	
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	2	区分外領域	
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		道徳教育論	2	3	区分外領域	11
			総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	1	3	区分外領域	
			特別活動の指導法		特別活動論	2	3	区分外領域	
			教育の方法及び技術		教育方法と技術（ICT の活用を含む）	2	2	区分外領域	
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法						
			生徒指導の理論及び方法		児童理解と生徒・進路指導	2	2	区分外領域	
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		（中高免の単位を流用）	2	3		
		教育実践に関する科目	教育実習		初等教育実習 B（事前・事後指導を含む） （中高免の単位を 2 単位流用）	3 2	4	区分外領域	5
			教職実践演習		（中高免の単位を流用）	2	4		2
	第六欄	大学が独自に設定する科目							
	合計					60			60

（注1）現代こども学科で開講している「特別支援教育」のみ有効。
（注2）区分外領域として修得した単位は卒業に必要な単位に算入される。
（注3）6単位以上選択必修
（注4）4単位以上選択必修

1．2013年度以降に入学する音楽文化専攻の一部の学生に対し，中学校・高等学校教諭免許課程の履修（および卒業時の免許取得）を前提として，小学校教諭免許課程科目の履修を認める。
　なお，中一種免（音楽）および高一種免（音楽）の所要資格を満たさなければ，小一種免の申請はできない。
2．小学校教諭免許課程の履修を認める学生は，1年次の秋学期終了時に選考を行い決定する。
3．教育実習，初等教育実習とも，教育実習履修資格を満たさなければ，履修登録することができない。
4．教職実践演習は，教職実践演習履修資格を満たさなければ，履修登録することができない。

小学校教諭一種免許状履修科目表（音楽文化専攻 選抜者用）（2019～2024年度入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項		科　目	単位	履修年次	卒業単位区分（注3）	修得すべき単位数
教科及び教職に関する科目	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）	国語	2	2	区分外領域	20
				社会	社会	2	2	区分外領域	
				算数	算数	2	2	区分外領域	
				理科	理科	2	2	区分外領域	
				生活	生活	2	2	区分外領域	
				音楽	音楽	2	3	区分外領域	
				図画工作	図画工作	2	3	区分外領域	
				家庭	家庭	2	3	区分外領域	
				体育	体育	2	3	区分外領域	
				外国語	外国語（英語）	2	3	区分外領域	
			〈2022年度以降入学生適用〉各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）〈2019～2021年度入学生適用〉各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国語（書写を含む。）	国語科指導法	1	2	区分外領域	10
				社会	社会科指導法	1	2	区分外領域	
				算数	算数科指導法	1	2	区分外領域	
				理科	理科指導法	1	2	区分外領域	
				生活	生活科指導法	1	2	区分外領域	
				音楽	音楽科指導法	1	3	区分外領域	
				図画工作	図画工作科指導法	1	3	区分外領域	
				家庭	家庭科指導法	1	3	区分外領域	
				体育	体育科指導法	1	3	区分外領域	
				外国語	外国語（英語）科指導法	1	3	区分外領域	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		（中高免の単位を流用）	2	2		12
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		（中高免の単位を流用）	2	1		
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		（中高免の単位を流用）	2	2		
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		（中高免の単位を流用）	2	2		
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		特別支援教育（注1）	2	3	区分外領域	
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	2	区分外領域	
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		道徳教育論	2	3	区分外領域	11
			総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	1	3	区分外領域	
			特別活動の指導法		特別活動論	2	3	区分外領域	
			教育の方法及び技術	(注4)	〈2022年度以降入学生適用〉教育方法と技術（ICT の活用を含む）〈2019～2021年度入学生適用〉教育方法と技術（注2）	2	2	区分外領域	
			情報通信技術を活用した教育の理論及び方法						
			生徒指導の理論及び方法		児童理解と生徒・進路指導	2	2	区分外領域	
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		（中高免の単位を流用）	2	3		
		教育実践に関する科目	教育実習		初等教育実習 B（事前・事後指導を含む）（中高免の単位を 2 単位流用）	3 2	4	区分外領域	5
			教職実践演習		（中高免の単位を流用）	2	4		2
	第六欄	大学が独自に設定する科目							
	合計					60			60

（注1）現代こども学科で開講している「特別支援教育」のみ有効。
（注2）2021年度以前入学生に関しては，2023年度より新科目「教育方法と技術（ICT の活用を含む）」を旧科目「教育方法と技術」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。成績は旧科目で記録される。
（注3）区分外領域として修得した単位は卒業に必要な単位に算入される。
（注4）2019～2021年度入学生に関しては「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」

1．2013年度以降に入学する音楽文化専攻の一部の学生に対し，中学校・高等学校教諭免許課程の履修（および卒業時の免許取得）を前提として，小学校教諭免許課程科目の履修を認める。
　なお，中一種免（音楽）および高一種免（音楽）の所要資格を満たさなければ，小一種免の申請はできない。
2．小学校教諭免許課程の履修を認める学生は，１年次の秋学期終了時に選考を行い決定する。
3．教育実習，初等教育実習とも，教育実習履修資格を満たさなければ，履修登録することができない。
4．教職実践演習は，教職実践演習履修資格を満たさなければ，履修登録することができない。

教職課程

（養護教諭免許課程）（2019年度以降入学生適用）

看護学部　看護学科

教職課程 養護教諭免許課程（2019年度以降入学生適用）

教職課程とは，教育職員免許法に基づいて授与される教育職員免許状を取得するための課程です。教育職員免許状を取得するためには，この課程で定められた所定の単位を修得し，都道府県教育委員会に免許状申請をしなければなりません。また，実際に公立学校の教員に採用されるためには地方自治体の行う教員採用試験に，私立学校の教員に採用されるためには各学校の行う教員採用試験に合格しなければなりません。

履修上の心構え

教職課程の履修にあたっては，適性と将来の計画についてよく考え，実際に養護教諭の職に就くことを志望する人のみが履修するようにしてください。養護教諭としての仕事は大変やりがいのある仕事であることは確かですが，非常に大変な仕事であることも確かです。なぜ自分は教職に就こうとしているのかをよく考えて，養護教諭課程の科目を履修してください。各地で行われる教員採用試験も難しくなっており，そのための勉強に費やす労力も大変なものとなっています。

教職に就こうと努力していく人は，多くの困難も乗り越えて行けるものと思います。幅広い能力を持った教員を目指して頑張ってください。

課程修了要件

1．養護教諭課程修了に必要な要件は以下の通りです。

2．免許取得に必要な要件は，

①学士の学位を有すること。

②養護及び教職に関する科目の必要単位数を修得すること。

③「日本国憲法」，「体育」，「外国語コミュニケーション」，「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の必要単位数を修得すること。

以上 3 点に分けられ，それらのすべての要件を満たさなければなりません。

3．養護教諭免許状には，一種免許状の他に二種免許状があります。二種免許状は通常，短期大学の教職課程修了者及び保健師免許取得者が取得できる免許状です。一種免許状を取得した学生は，二種免許状を取得する必要はありません。

（注 1）各科目の履修方法は，科目表を参照してください。

教職課程における必修・選択の区分は教職課程修了のための区分であって，各学科の卒業のための必修・選択の区分とは別です。

（注 2）正規学生が他学科・他専攻の免許状を取得することは認められていません。

保健師と養護教諭課程について

保健師に関する科目の履修と養護教諭課程の履修については，どちらか一方のみ可能です。両方を履修することはできません。

3 年次秋学期に行われる保健師選抜試験の合格者は「養護実習」の履修資格を失います。

保健師免許取得者は，以下の科目を取得することで，養護教諭二種免許状を取得することができます（卒業後，個人申請が必要です）。

・「日本国憲法」

・「体育実技Ａ」「体育実技Ｂ」「スポーツ実習Ａ」「スポーツ実習Ｂ」のいずれか計 2 単位

・「Communication in English Ⅰ」

・「Communication in English Ⅱ」

・「保健医療統計」（2026年度以降入学生については，「保健医療統計」または「データサイエンス・AI 基礎」のいずれかより 2 単位）

教職課程登録制度

教職課程の履修を希望する者は，教職課程登録を行わなければなりません。詳しくは本学 Web サイト「教職課程履修」を参照してください。

「養護実習」履修資格

本学では，教育実習に行く前に満たすべき条件を定めています。条件を満たしていなければ「養護実習」を履修登録することができません。これは，科目等履修生にも適用されます。

卒業見込判定が合格となっている卒業年次生であり，かつ，教職課程についても修了見込判定が合格であること。

但し，卒業見込及び教職課程修了見込が合格とならない場合であっても，次年度の卒業見込みが「春学期のみ在学」または「秋学期のみ在学」を必要とする場合に限り，前年度（４年次生であることを必要とする）での履修を認める。

〈2023年度以降入学生〉

３年次終了時までに，履修可能最低年次が３年次以下の，看護学部看護学科の必修科目・選択必修科目及び，養護教諭一種免許状課程の養護及び教職に関する科目の単位をすべて修得済みであること。

〈2022年度入学生〉

「学校保健」「養護概説」「基礎看護学実習Ⅰ」「教育の原理」「教職論」「教育の制度と経営」「発達と学習の心理学」「教育課程論」「特別活動論」「教育方法及び技術（ICTの活用を含む）」の単位を修得済であること。

教職実践演習（養護教諭）履修資格

「養護実習」の単位を修得済みであること，または同一年度に履修すること。ただし，「養護実習」を履修登録した後，取り止めた場合は，教職実践演習の履修資格を失います。

免許の申請

教職課程を修了しても，免許の授与権者である都道府県教育委員会に申請しなければ免許状の交付は受けられません。本学では，正規学生の京都府教育委員会への教員免許申請を代行し一括して取り扱っています。申請希望者には，４年次生を対象に11月頃に申請書類を配付しますので，指示に従ってください。一括申請の場合の授与年月日は卒業年の３月10日，授与権者は京都府教育委員会になります。なお，他の都道府県での申請を希望する場合などでは，学生個人が直接申請する個人申請となります。また，本学では二種免許の申請は行いません。

教職課程履修に関するスケジュール

教職課程履修に関するスケジュールの概略は，次の通りです。各年次の説明会には必ず参加し，手続きに遺漏のないよう注意すること。

1年次	春学期	教職課程オリエンテーション 教職課程登録開始	教職課程に興味・関心のある学生は参加すること。 教職課程履修を希望する場合は，所定の方法で「教職課程登録」の手続きを行うこと。
	11月～12月	１年次対象教職課程履修希望者説明会	教職課程履修の心構えや履修方法について説明する。
2年次	履修登録期間	「教職履修カルテ」利用開始	４年次までの教職課程の学びの履歴を随時記入すること。
	１月～２月	２年次対象教育実習説明会	実習手続書類配付
3年次	３月～	実習校への正式依頼	実習予定校（出身校）に本学の依頼状など必要書類を持参して正式に依頼する。 秋学期開始までに内諾を得るのが望ましい。
	秋学期開始	各種アンケートへの回答	新教務システム（D-pass）等を通じて期限までに回答すること。
	夏期休暇～ 10月頃	人権・同和教育および性教育講演会	養護実習の一環として実施。 次年度に養護実習を行う学生は必ず参加すること。
4年次	履修登録期間	履修登録	実習校への正式依頼を済ませ，教育実習の履修資格があることを確認の上「養護実習」「教職実践演習（養護教諭）」の履修登録を行う。
	４月	４年次対象教育実習説明会	教育実習への心構えや注意事項について説明を行う。
		教育実習費納入 （事務手数料＋各実習校・教育委員会毎の必要額）	
	５月～７月	教育実習	実習時期は，実習校･教育委員会が調整の上，決定される。
	11月	免許申請書類配付・提出	免許・資格課から必要書類を配付。

（注）教育委員会が実習校を配当する場合（一部の公立学校）は，事前交渉・正式依頼は必要ない。詳細は，２年次対象教育実習説明会で確認すること。

養護教諭一種免許状課程（2023年度以降入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項	共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数	備考
養護及び教職に関する科目	第二欄	養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		疫学	2	秋2	2	必修	39	予防医学を含む
					公衆衛生学	2	秋2	2	必修		予防医学を含む
					保健医療統計	2	春2	2	必修		
			学校保健		学校保健	2	春2	3	必修		
			養護概説		養護概説	2	春2	3	必修		自由選択科目（注1）
			健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		公衆衛生看護学概論	2	秋2	2	必修		
					健康教育論	1	秋2	2	必修		
			栄養学（食品学を含む。）		基礎栄養学	2	秋2	1	必修		食品学を含む
			解剖学・生理学		体のしくみⅠ	1	春2	1	必修		
					体のしくみⅡ	1	秋2	1	必修		
			「微生物学，免疫学，薬理概論」		微生物学・免疫学	2	春2	1	必修		
					基礎薬理学	2	秋2	1	必修		
			精神保健		精神看護学概論	2	春2	2	必修		
			看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		看護学概論	2	春2	1	必修		
					基礎看護方法論 A	2	秋2	1	必修		
					基礎看護方法論 B	2	春2	2	必修		
					基礎看護援助演習 A	2	秋4	1	必修		
					基礎看護援助演習 B	2	春4	2	必修		
					母子保健看護概論	2	秋2	2	必修		
					災害看護論	1	春1	4	必修		救急処置を含む
					基礎看護学実習Ⅰ	1	春3	1	必修		臨床実習
					小児看護学実習Ⅰ	1	春3	3	必修		臨床実習
					小児看護学実習Ⅱ	1	秋3	3	必修		臨床実習
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	中・高・養	教育の原理	2	半2	2	必修	10	共通学芸科目
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	中・高・養・栄	教職論	2	半2	2	必修		自由選択科目（注1）
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	中・高・養	教育の制度と経営	2	半2	2	必修		共通学芸科目
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	中・高・養・栄	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修		
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	中・高・養・栄	特別支援教育論	1	半1	2	必修		自由選択科目（注1）
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	中・高・養・栄	教育課程論	1	半1	2	必修		
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳，総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容	中・高・養	特別活動論	1	半1	2	必修	10	自由選択科目（注1）
				中・高・養・栄	総合的な学習・探究の時間の指導法	1	半1	2	必修		
				中・高・養	道徳教育論	2	半2	3	必修		
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	中・高・養・栄	教育方法及び技術（ICT の活用を含む）	2	半2	3	必修		
			生徒指導の理論及び方法	中・高・養・栄	生徒指導（進路指導を含む）	2	半2	3	必修		
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	中・高・養・栄	教育相談	2	半2	3	必修		
	第五欄	教育実践に関する科目	養護実習		養護実習	5	半3	4	必修	5	自由選択科目（注1）
			教職実践演習		教職実践演習（養護教諭）	2	半2	4	必修	2	
	第六欄	大学が独自に設定する科目									
	合計									66	

（※）「養護実習」，「教職実践演習（養護教諭）」の履修資格は P.61を参照のこと。

（注1）自由選択科目は卒業に必要な単位に算入されず，年間及び 1 学期間の登録単位数の上限には含まれない。

免許法施行規則第66条の6 に定める科目区分（看護学部看護学科 2023年度以降入学生適用）

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A，B	各1	2 単位以上選択必修	
		スポーツ実習A，B	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	保健医療統計	2	2 単位以上選択必修（注2）	（注3）
		データサイエンス・AI 基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注2）2023年度入学生～2025年度入学生については，「保健医療統計」が必修（「データサイエンス・AI 基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「保健医療統計」，「データサイエンス・AI 基礎」から 2 単位以上選択必修。

（注3）養護及び教職に関する科目の「保健医療統計」が有効なため，改めて単位を修得する必要はない。

養護教諭一種免許状課程（2022年度入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項	共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数	備考
養護及び教職に関する科目	第二欄	養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）		疫学	2	秋2	2	必修	37	予防医学を含む
					公衆衛生学	2	秋2	2	必修		予防医学を含む
			学校保健		学校保健	2	春2	3	必修		
			養護概説		養護概説	2	春2	3	必修		自由選択科目（注1）
			健康相談活動の理論・健康相談活動の方法		公衆衛生看護学概論	2	秋2	2	必修		
					健康教育論	1	秋2	2	必修		
			栄養学（食品学を含む。）		基礎栄養学	2	秋2	1	必修		食品学を含む
			解剖学・生理学		体のしくみⅠ	1	春2	1	必修		
					体のしくみⅡ	1	秋2	1	必修		
			「微生物学，免疫学，薬理概論」		微生物学・免疫学	2	春2	1	必修		
					基礎薬理学	2	秋2	1	必修		
			精神保健		精神看護学概論	2	春2	2	必修		
			看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）		看護学概論	2	春2	1	必修		
					基礎看護方法論 A	2	秋2	1	必修		
					基礎看護方法論 B	2	春2	2	必修		
					基礎看護援助演習 A	2	秋4	1	必修		
					基礎看護援助演習 B	2	春4	2	必修		
					母子保健看護概論	2	秋2	2	必修		
					災害看護論	1	春1	4	必修		救急処置を含む
					基礎看護学実習Ⅰ	1	春3	1	必修		臨床実習
					小児看護学実習Ⅰ	1	春3	3	必修		臨床実習
					小児看護学実習Ⅱ	1	秋3	3	必修		臨床実習
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	中・高・養	教育の原理	2	半2	2	必修	10	共通学芸科目
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	中・高・養・栄	教職論	2	半2	2	必修		自由選択科目（注1）
			教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	中・高・養	教育の制度と経営	2	半2	2	必修		共通学芸科目
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	中・高・養・栄	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修		
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	中・高・養・栄	特別支援教育論	1	半1	2	必修		自由選択科目（注1）
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	中・高・養・栄	教育課程論	1	半1	2	必修		
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳，総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容	中・高・養	特別活動論	1	半1	2	必修	10	自由選択科目（注1）
				中・高・養・栄	総合的な学習・探究の時間の指導法	1	半1	2	必修		
				中・高・養	道徳教育論	2	半2	3	必修		
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	中・高・養・栄	教育方法及び技術（ICT の活用を含む）	2	半2	3	必修		
			生徒指導の理論及び方法	中・高・養・栄	生徒指導（進路指導を含む）	2	半2	3	必修		
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	中・高・養・栄	教育相談	2	半2	3	必修		
	第五欄	教育実践に関する科目	養護実習		養護実習	5	半3	4	必修	5	自由選択科目（注1）
			教職実践演習		教職実践演習（養護教諭）	2	半2	4	必修	2	
	第六欄	大学が独自に設定する科目									
	合計									64	

（※）「養護実習」，「教職実践演習（養護教諭）」の履修資格は P.61を参照のこと。
（注1）自由選択科目は卒業に必要な単位に算入されず，年間及び 1 学期間の登録単位数の上限には含まれない。

免許法施行規則第66条の6 に定める科目区分（看護学部看護学科 2022年度入学生適用）

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A，B	各1	2 単位以上選択必修	
		スポーツ実習A，B	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	保健医療統計	2	必修	

教職課程

（栄養教諭免許課程）（2019年度以降入学生適用）

生活科学部　食物栄養科学科　管理栄養士専攻

教職課程 栄養教諭免許課程（2019年度以降入学生適用）

教職課程とは，教育職員免許法に基づいて授与される教育職員免許状を取得するための課程です。教育職員免許状を取得するためには，この課程で定められた所定の単位を修得し，都道府県教育委員会に免許状申請をしなければなりません。また，実際に公立学校の教員に採用されるためには地方自治体の行う教員採用試験に，私立学校の教員に採用されるためには各学校の行う教員採用試験に合格しなければなりません。

履修上の心構え

教職課程の履修にあたっては，適性と将来の計画についてよく考え，実際に栄養教諭の職に就くことを志望する人のみが履修するようにしてください。栄養教諭としての仕事は大変やりがいのある仕事であることは確かですが，非常に大変な仕事であることも確かです。なぜ自分は教職に就こうとしているのかをよく考えて，栄養教諭課程の科目を履修してください。各地で行われる教員採用試験も難しくなっており，そのための勉強に費やす労力も大変なものとなっています。

教育実習期間中に一般企業の採用試験が重なることも起こっています。教育実習は，実習校の好意に支えられて行われている制度です。就職活動のために教育実習を休むことは一切許されません。教職に就こうと努力していく人は，多くの困難も乗り越えて行けるものと思います。幅広い能力を持った教員を目指して頑張ってください。

課程修了要件

1．栄養教諭課程修了に必要な要件は以下の通りです。

2．免許取得に必要な要件は，

①学士の学位を有すること。

②管理栄養士の免許を受けていること，または管理栄養士養成課程を修了し栄養士の免許を受けていること。

③栄養に係る教育及び教職に関する科目の必要単位数を修得すること。

④「日本国憲法」，「体育」，「外国語コミュニケーション」，「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の必要単位数を修得すること。

以上 4 点に分けられ，それらのすべての要件を満たさなければなりません。

3．栄養教諭免許状には，一種免許状の他に二種免許状があります。二種免許状は通常，短期大学の教職課程修了者が取得する免許状です。一種免許状を取得した学生は，二種免許状を取得する必要はありません。

（注 1）各科目の履修方法は，科目表を参照してください。

教職課程における必修・選択の区分は教職課程修了のための区分であって，各学科の卒業のための必修・選択の区分とは別です。

（注 2）正規学生が他学科・他専攻の免許状を取得することは認められていません。

教職課程登録制度

教職課程の履修を希望する者は，教職課程登録を行わなければなりません。詳しくは本学 Web サイト「教職課程履修」を参照してください。

「学校栄養教育実習」履修資格

本学では，教育実習に行く前に満たすべき条件を定めています。条件を満たしていなければ「学校栄養教育実習」を履修登録することができません。これは，科目等履修生にも適用されます。

「学校栄養教育論Ⅰ，Ⅱ」「教育原理・学校教育論」「教職論」「発達と学習の心理学」「教育課程論」「教育方法及び技術（ICT の活用を含む）」（2019～2021年度入学生は「教育方法及び技術」）の単位を修得済であること。

卒業見込判定が合格となっている卒業年次生であり，かつ，教職課程についても修了見込判定が合格であること。

但し，卒業見込及び教職課程修了見込が合格とならない場合であっても，次年度の卒業見込みが「春学期のみ在学」または「秋学期のみ在学」を必要とする場合に限り，前年度（４年次生であることを必要とする）での履修を認める。

※「学校栄養教育実習」に関するスケジュールの詳細は，別途周知します。

教職実践演習（栄養教諭）履修資格

「学校栄養教育実習」の単位を修得済みであること，または同一年度に履修すること。ただし，「学校栄養教育実習」を履修登録した後，取り止めた場合は，教職実践演習の履修資格を失う。

免許の申請

教職課程を修了しても，免許の授与権者である都道府県教育委員会に申請しなければ免許状の交付は受けられません。栄養教諭一種免許状の申請は，原則として栄養士免許申請を行った都道府県での申請となります。

京都府については，本学が申請事務を代行し一括して取り扱っています。申請希望者には，４年次生を対象に11月頃に申請書類を配付しますので，指示に従ってください。なお，一括申請の場合の授与年月日は卒業年の３月31日，授与権者は京都府教育委員会になります。

京都府以外で栄養士免許申請を行った場合は，当該都道府県において個人申請となります。

教職課程履修に関するスケジュール

教職課程履修に関するスケジュールの概略は，次の通りです。各年次の説明会には必ず参加し，手続きに遺漏のないよう注意すること。

1年次	春学期	教職課程オリエンテーション	教職課程に興味・関心のある学生は必ず参加すること。 教職課程履修を希望する場合は，所定の方法で「教職課程登録」の手続きを行うこと。
	11月～12月	１年次対象教職課程履修希望者説明会	教職課程履修の心構えや履修方法について説明する。
2年次		「教職履修カルテ」利用開始	４年次までの教職課程の学びの履歴を随時記入すること。
3年次	４月～５月	３年次対象教育実習説明会	実習手続きについて説明をする。
	４月～夏期休暇	実習校への正式依頼	実習予定校（出身校）に本学の依頼状など必要書類を持参して正式に依頼する。 秋学期開始までに内諾を得るのが望ましい。
	秋学期開始	各種アンケートへの回答	新 Web 教務システム（D-pass）等を通じて期限までに回答すること。
	夏期休暇～ 10月頃	人権・同和教育および性教育講演会	学校栄養教育実習の一環として実施。 次年度に教育実習を行う学生は必ず参加すること。
4年次	履修登録期間	履修登録	実習校への正式依頼を済ませ，教育実習の履修資格があることを確認の上「学校栄養教育実習」「教職実践演習（栄養教諭）」の履修登録を行う。
	４月	４年次対象教育実習説明会	教育実習への心構えや注意事項について説明を行う。
		教育実習費納入 （事務手数料＋各実習校・教育委員会毎の必要額）	
	５月～12月	教育実習	実習時期は，実習校・教育委員会が調整の上，決定されるが，９月の夏期休暇中が望ましい。
	11月	免許申請書類配付・提出	免許・資格課から必要書類を配付。

（注）教育委員会が実習校を配当する場合（一部の公立学校）は，事前交渉・正式依頼は必要ない。詳細は，３年次対象教育実習説明会で確認すること。

栄養教諭一種免許状課程（2024年度以降入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項	共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数	卒業上の科目区分
栄養に係る教育及び教職に関する科目	第二欄	栄養に係る教育に関する科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児，児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養教育論Ⅰ	2	半2	3	必修	4	応用・各論科目（選択）
			・食に関する指導の方法に関する事項		学校栄養教育論Ⅱ	2	半2	3	必修		
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育原理・学校教育論	2	半2	2	必修	8	共通学芸科目
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	中・高・養・栄	教職論	2	半2	2	必修		自由選択科目（注1）
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	中・高・養・栄	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修		共通学芸科目
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	中・高・養・栄	特別支援教育論	1	半1	2	必修		自由選択科目（注1）
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	中・高・養・栄	教育課程論	1	半1	2	必修		
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳，総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		道徳教育・特別活動論	1	半1	2	必修	8	自由選択科目（注1）
				中・高・養・栄	総合的な学習・探究の時間の指導法	1	半1	2	必修		
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	中・高・養・栄	教育方法及び技術（ICT の活用を含む）	2	半2	3	必修		
			生徒指導の理論及び方法	中・高・養・栄	生徒指導（進路指導を含む）	2	半2	3	必修		
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	中・高・養・栄	教育相談	2	半2	3	必修		
	第五欄	教育実践に関する科目	栄養教育実習		学校栄養教育実習（事前・事後指導を含む）	2	通2	4	必修	4	自由選択科目（注1）
			教職実践演習		教職実践演習（栄養教諭）	2	半2	4	必修		
	第六欄	大学が独自に設定する科目									
	合計									24	

（※）「学校栄養教育実習」，「教職実践演習（栄養教諭）」の履修資格は P.69を参照のこと。
（注1）自由選択科目は卒業に必要な単位に算入されず，年間及び 1 学期間の登録単位数の上限には含まれない。

免許法施行規則第66条の6 に定める科目区分（生活科学部食物栄養科学科 管理栄養士専攻 2024年度以降入学生適用）

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A，B	各1	2 単位以上選択必修	
		スポーツ実習A，B	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	食物栄養系の ICT・データサイエンスⅠ	2	2 単位以上選択必修（注2）	
		食物栄養系の ICT・データサイエンスⅡ	2		
		データサイエンス・AI 基礎	2		2026年度以降入学生に適用

（注2）2024年度入学生～2025年度入学生については，「食物栄養系の ICT・データサイエンスⅠ・Ⅱ」が必修（「データサイエンス・AI 基礎」は対象外）。
2026年度入学生については，「食物栄養系の ICT・データサイエンスⅠ・Ⅱ」，「データサイエンス・AI 基礎」から 2 単位以上選択必修。

栄養教諭一種免許状課程（2019～2023年度入学生適用）

		免許法施行規則上の科目	各科目に含めることが必要な事項	共通開設	科　目	単位	期間時間	履修年次	履修方法	修得すべき単位数	卒業上の科目区分
栄養に係る教育及び教職に関する科目	第二欄	栄養に係る教育に関する科目	・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児，児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養教育論Ⅰ	2	半2	3	必修	4	応用・各論科目（選択）
			・食に関する指導の方法に関する事項		学校栄養教育論Ⅱ	2	半2	3	必修		
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育原理・学校教育論	2	半2	2	必修	8	共通学芸科目
			教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	中・高・養・栄	教職論	2	半2	2	必修		自由選択科目（注2）
			幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	中・高・養・栄	発達と学習の心理学	2	半2	2	必修		共通学芸科目
			特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解	中・高・養・栄	特別支援教育論	1	半1	2	必修		自由選択科目（注2）
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	中・高・養・栄	教育課程論	1	半1	2	必修		
	第四欄	道徳，総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導，教育相談等に関する科目	道徳，総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		道徳教育・特別活動論	1	半1	2	必修	8	自由選択科目（注2）
				中・高・養・栄	総合的な学習・探究の時間の指導法	1	半1	2	必修		
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	中・高・養・栄	〈2022年度以降入学生適用〉 教育方法及び技術（ICT の活用を含む） 〈2019～2021年度入学生適用〉 教育方法及び技術（注1）	2	半2	3	必修		
			生徒指導の理論及び方法	中・高・養・栄	生徒指導（進路指導を含む）	2	半2	3	必修		
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	中・高・養・栄	教育相談	2	半2	3	必修		
	第五欄	教育実践に関する科目	栄養教育実習		学校栄養教育実習（事前・事後指導を含む）	2	通2	4	必修	4	自由選択科目（注2）
			教職実践演習		教職実践演習（栄養教諭）	2	半2	4	必修		
	第六欄	大学が独自に設定する科目									
	合計									24	

（※）「学校栄養教育実習」，「教職実践演習（栄養教諭）」の履修資格は P.69を参照のこと。

（注1）2021年度以前入学生に関しては，2022年度より新科目「教育方法及び技術（ICT の活用を含む）」を旧科目「教育方法及び技術」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。成績は旧科目で記録される。

（注2）自由選択科目は卒業に必要な単位に算入されず，年間及び 1 学期間の登録単位数の上限には含まれない。

免許法施行規則第66条の6 に定める科目区分（生活科学部食物栄養科学科 管理栄養士専攻 2019～2023年度入学生適用）

免許法施行規則に定める科目区分	単位	科　目	単位	履修方法	備　考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	必修	
体育	2	体育実技A，B	各1	2 単位以上選択必修	
		スポーツ実習A，B	各1		
外国語コミュニケーション	2	Communication in English Ⅰ	1	必修	
		Communication in English Ⅱ	1	必修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ，Ⅱ	各2	2 単位以上選択必修	（注3）

（注3）2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「食物栄養系の ICT・データサイエンスⅠ・Ⅱ」を旧科目「情報処理Ⅰ・Ⅱ」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。

佛教大学との連携による
教諭免許状取得プログラム

小学校教諭一種免許状取得プログラム
小学校教諭二種免許状取得プログラム
特別支援学校教諭一種免許状取得プログラム

学 芸 学 部　音楽学科
　　メディア創造学科
現代社会学部　社会システム学科
　　現代こども学科（特別支援学校教諭一種免許状プログラムのみ）
表象文化学部　英語英文学科
　　日本語日本文学科
生 活 科 学 部　人間生活学科
　　食物栄養科学科　食物科学専攻

佛教大学との連携による「小学校教諭一種免許状取得プログラム」

佛教大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定に基づき，同志社女子大学に在学している学生が，佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）の特別科目等履修生として，小学校教諭免許状に必要な科目を修得します。

プログラムの概要

中学校・高等学校教諭免許状取得に係る単位の一部を小学校教諭免許状取得に必要な単位として充当し，残りの単位を佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）の特別科目等履修生として 4 年間の在学中に修得し，中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状とともに，小学校教諭一種免許状を取得します。

同志社女子大学において， 以下のいずれかまたは両方の免許状を取得 「中学校教諭一種免許状」 「高等学校教諭一種免許状」	＋	佛教大学通信教育課程において， 「小学校教諭一種免許状」に 必要な科目を修得	＝	「中学校教諭一種免許状」取得 「高等学校教諭一種免許状」取得 （中高いずれかまたは両方） 「小学校教諭一種免許状」取得

出願資格

以下のいずれかの学部学科専攻に在籍し，中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状のいずれかまたはその両方に加え，小学校教諭一種免許状の取得を強く希望する 1 年次生または 2 年次生（履修開始は 2 年次または 3 年次）。

なお，本学においては，中学校教諭一種免許状または，中学校と高等学校両方の一種免許状を取得することが望ましい（メディア創造学科を除く）。

・学芸学部（音楽学科（演奏専攻・音楽文化専攻），メディア創造学科）
・現代社会学部（社会システム学科）
・表象文化学部（英語英文学科，日本語日本文学科）
・生活科学部（人間生活学科，食物栄養科学科（食物科学専攻））

※募集に先立ち，**プログラム履修希望者対象の説明会を開催します（例年12月頃開催）**。出願希望の学生は必ず出席してください。説明会の日程等については本学 Web サイトにて周知します。

※出願前に，所属学科教員または事務職員に相談してください。

なお，このプログラムの履修は，本学に正規学生として在学している間に限られます。本学を退学・除籍・卒業する場合，このプログラムを継続することはできません。

募集人数・学内選考

募集人数は30名。

出願者数が30名以下の場合，選考は実施しません（出願前の所属学科への相談は必要です）。

出願者数が30名を上回った場合，以下のとおり選考を実施します。

次の①，②各100点を総合して200点満点で選考します。

①学内成績（出願年度春学期末までの成績が対象。）

②面接（志望理由書も参考に面接を実施する。）

受講料

約50万円（佛教大学通信教育課程の学費改定により，受講料を変更する場合があります）。

なお，このプログラムを修了し，卒業年度内に小学校教員採用試験に合格した者には，15万円の費用補助を行います。

「小学校教員採用試験に合格した者」とは，国公立小学校教員採用試験または教務部長が国公立小学校教員採用試験と同等と認める国公立学校教員採用試験に合格した者及び，私立小学校に専任教員（正教員・常勤）として採用内定を受けた者が該当します。講師として採用内定を受けた者は，常勤・非常勤にかかわらず，該当しません。

介護等体験

小学校教諭免許状取得のための必要要件として，所定の単位の修得以外に，法令により，介護等体験が義務づけられており，同志社女子大学の指導の下で体験を受ける必要があります。詳細は P.9を参照してください。

その他

佛教大学との連携による「小学校教諭二種免許状取得プログラム」または佛教大学との連携による「特別支援学校教諭一種免許状取得プログラム」と，このプログラムを同時に出願することはできません。

このプログラムの出願後に，佛教大学との連携による「小学校教諭二種免許状取得プログラム」または佛教大学との連携による「特別支援学校教諭一種免許状取得プログラム」に変更することはできません。

佛教大学との連携による「小学校教諭二種免許状取得プログラム」

佛教大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定に基づき，同志社女子大学に在学している学生が，佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）の特別科目等履修生として，小学校教諭免許状に必要な科目を修得します。

プログラムの概要

中学校・高等学校教諭免許状取得に係る単位の一部を小学校教諭免許状取得に必要な単位として充当し，残りの単位を佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）の特別科目等履修生として 4 年間の在学中に修得し，中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状とともに，小学校教諭二種免許状を取得します。

同志社女子大学において， 以下のいずれかまたは両方の免許状を取得 「中学校教諭一種免許状」 「高等学校教諭一種免許状」	＋	佛教大学通信教育課程において， 「小学校教諭二種免許状」に 必要な科目を修得	＝	「中学校教諭一種免許状」取得 「高等学校教諭一種免許状」取得 （中高いずれかまたは両方） 「小学校教諭二種免許状」取得

出願資格

以下のいずれかの学部学科専攻に在籍し，中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状のいずれかまたはその両方に加え，小学校教諭二種免許状の取得を強く希望する 1 年次生または 2 年次生（履修開始は 2 年次または 3 年次）。

なお，本学においては，中学校教諭一種免許状または，中学校と高等学校両方の一種免許状を取得することが望ましい（メディア創造学科を除く）。

・学芸学部（音楽学科（演奏専攻・音楽文化専攻），メディア創造学科）
・現代社会学部（社会システム学科）
・表象文化学部（英語英文学科，日本語日本文学科）
・生活科学部（人間生活学科，食物栄養科学科（食物科学専攻））

※募集に先立ち，**プログラム履修希望者対象の説明会を開催します（例年12月頃開催）**。出願希望の学生は必ず出席してください。説明会の日程等については本学 Web サイトにて周知します。

※出願前に，所属学科教員または事務職員に相談してください。

なお，このプログラムの履修は，本学に正規学生として在学している間に限られます。本学を退学・除籍・卒業する場合，このプログラムを継続することはできません。

募集人数・学内選考

募集人数は30名。

出願者数が30名以下の場合，選考は実施しません（出願前の所属学科への相談は必要です）。

出願者数が30名を上回った場合，以下のとおり選考を実施します。

次の①，②各100点を総合して200点満点で選考します。

①学内成績（出願年度春学期末までの成績が対象。）

②面接（志望理由書も参考に面接を実施する。）

受講料

約33万円（佛教大学通信教育課程の学費改定により，受講料を変更する場合があります）。

なお，このプログラムを修了し，卒業年度内に小学校教員採用試験に合格した者には，10万円の費用補助を行います。

「小学校教員採用試験に合格した者」とは，国公立小学校教員採用試験または教務部長が国公立小学校教員採用試験と同等と認める国公立学校教員採用試験に合格した者及び，私立小学校に専任教員（正教員・常勤）として採用内定を受けた者が該当します。講師として採用内定を受けた者は，常勤・非常勤にかかわらず，該当しません。

介護等体験

小学校教諭免許状取得のための必要要件として，所定の単位の修得以外に，法令により，介護等体験が義務づけられており，同志社女子大学の指導の下で体験を受ける必要があります。詳細は P.9を参照してください。

その他

佛教大学との連携による「小学校教諭一種免許状取得プログラム」または佛教大学との連携による「特別支援学校教諭一種免許状取得プログラム」と，このプログラムを同時に出願することはできません。

このプログラムの出願後に，佛教大学との連携による「小学校教諭一種免許状取得プログラム」または佛教大学との連携による「特別支援学校教諭一種免許状取得プログラム」に変更することはできません。

佛教大学との連携による「特別支援学校教諭一種免許状取得プログラム」

佛教大学との特別支援学校教諭免許状課程履修に関する協定に基づき，同志社女子大学に在学している学生が，佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）の特別科目等履修生として，特別支援学校教諭免許状に必要な科目を修得します。

プログラムの概要

本学で取得する小学校教諭一種免許状，中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状を基礎資格として，特別支援学校教諭一種免許状取得に必要な単位を佛教大学教育学部教育学科（通信教育課程）の特別科目等履修生として 4 年間の在学中に修得し，小学校教諭一種免許状，中学校教諭一種免許状，高等学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状とともに，特別支援学校教諭一種免許状を取得します。

同志社女子大学において，
以下のいずれかまたは複数の
免許状を取得
「小学校教諭一種免許状」
「中学校教諭一種免許状」
「高等学校教諭一種免許状」
「幼稚園教諭一種免許状」

＋

佛教大学通信教育課程において，
「特別支援学校教諭一種免許状」
に必要な科目を修得

＝

「小学校教諭一種免許状」
「中学校教諭一種免許状」
「高等学校教諭一種免許状」
「幼稚園教諭一種免許状」取得
（いずれかまたは複数）
「特別支援学校教諭一種免許状」取得

出願資格

以下のいずれかの学部学科専攻に在籍し，小学校一種免許状，中学校一種免許状，高等学校一種免許状または幼稚園一種免許状のいずれかの免許状（複数でも可）に加え，特別支援学校教諭一種免許状の取得を強く希望する 1 年次生または 2 年次生（履修開始は 2 年次または 3 年次）。

・学芸学部（音楽学科（演奏専攻・音楽文化専攻），メディア創造学科）
・現代社会学部（社会システム学科，現代こども学科）
・表象文化学部（英語英文学科，日本語日本文学科）
・生活科学部（人間生活学科，食物栄養科学科（食物科学専攻））

※募集に先立ち，**プログラム履修希望者対象の説明会を開催します（例年12月頃開催）**。出願希望の学生は必ず出席してください。説明会の日程等については本学 Web サイトにて周知します。
※出願前に，所属学科教員または事務職員に相談してください。

なお，このプログラムの履修は，本学に正規学生として在学している間に限られます。本学を退学・除籍・卒業する場合，このプログラムを継続することはできません。

募集人数・学内選考

募集人数は 5 名。
出願者数が 5 名以下の場合，選考は実施しません（出願前の所属学科への相談は必要です）。
出願者数が 5 名を上回った場合，以下のとおり選考を実施します。
次の①，②各100点を総合して200点満点で選考します。
①学内成績（出願年度春学期末までの成績が対象。）
②面接（志望理由書も参考に面接を実施する。）

受講料

約30万円（佛教大学通信教育課程の学費改定により，受講料を変更する場合があります）。
なお，このプログラムを修了し，卒業年度内に特別支援学校教員採用試験に合格した者には，9 万円の費用補助を行います。
「特別支援学校教員採用試験に合格した者」とは，国公立特別支援学校教員採用試験に合格した者及び，私立特別支援学校に専任教員（正教員・常勤）として採用内定を受けた者が該当します。講師として採用内定を受けた者は，常勤・非常勤にかかわらず，該当しません。

介護等体験

介護等体験を受ける必要はありませんが，小学校教諭一種免許状または中学校教諭一種免許状を基礎資格とする場合は，小学校教諭一種免許状または中学校教諭一種免許状取得に際して介護等体験が必要ですので注意してください。

その他

佛教大学との連携による「小学校教諭一種免許状取得プログラム」または佛教大学との連携による「小学校教諭二種免許状取得プログラム」と，このプログラムを同時に出願することはできません。
このプログラムの出願後に，佛教大学との連携による「小学校教諭一種免許状取得プログラム」または佛教大学との連携による「小学校教諭二種免許状取得プログラム」に変更することはできません。

保育士養成課程

現代社会学部　現代こども学科

（2022年度以降入学生適用）

保育士養成課程 （現代社会学部現代こども学科2022年度以降入学生適用）

本学の保育士養成課程は，現代社会学部現代こども学科に定員50名の課程として2012年度に設置されました。本学の保育士養成課程を修了し，かつ保育士登録事務処理センターで登録申請して都道府県知事より保育士証の交付を受けることにより，保育士として活躍することができます。

保育士養成課程修了要件

保育士養成課程を修了するためには，次の２つの要件を満たさなければなりません。

ａ．現代社会学部現代こども学科を卒業すること。

ｂ．保育士養成課程カリキュラム表の通り，必修科目58単位，選択必修科目９単位以上，教養科目９単位以上を修得すること。

保育士養成課程を履修することができる学生

⑴保育士養成課程を履修することができる学生は，2012年度以降に現代社会学部現代こども学科１年次に入学した正規学生であり，かつ，１年次の所定の期間に保育士養成課程履修を願い出て許可された学生に限られます。

⑵現代社会学部現代こども学科に２年次転入学した学生や転学部・転学科した学生は，保育士養成課程を履修することはできません。

保育士養成課程履修選考

⑴保育士養成課程の履修を希望する学生は，１年次の春学期中に保育士養成課程履修出願書を提出しなければなりません。保育士養成課程履修出願書を提出できるのは，在学期間を通してこの時１回限りです。履修希望者が50名を超えた場合は選考の上履修許可者を決定します。

⑵保育士養成課程に関する説明会を１年次の春学期中に開催します。説明会の開催日時等は現代こども学科からの案内を参照してください。この説明会では，保育士養成課程全般の概説に加え，保育士養成課程履修出願書の提出時期・方法，並びに保育士養成課程履修希望者に対する選考についての説明が行われます。

⑶保育士養成課程履修希望者が50名を超えない場合は選考を行いませんが，面談は行います。本学の保育士養成課程は１年次秋学期から始まるため，たとえ保育士養成課程履修学生が50名未満であっても，後日に保育士養成課程の履修を願い出ることはこども家庭庁により認められていません。

⑷選考が行われる場合の選考方法は次の通りです。下記 a. b. c. の成績及び評価を総合して履修許可者が決定されます。

ａ．１年次春学期のすべての履修科目を対象としたＧＰＡ。

ｂ．面接

ｃ．現代こども学科が課す課題など

⑸保育士養成課程履修出願書の提出期間及び選考に関する日程は，別途掲示により発表します。

⑹保育士養成課程の履修を願い出て許可された学生（以下，保育士養成課程学生）に限り，保育士養成課程を履修することができます。

保育士養成課程科目の履修について

⑴次の科目（保育士養成課程演習科目）を履修することができる者は，保育士養成課程学生に限ります。

（保育士養成課程演習科目［保育士養成課程カリキュラム表に＊印記載の演習／実習科目］）

「保育内容の理解と方法Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅱ」「乳児保育Ⅱ」「こどもの健康と安全」「社会的養護Ⅱ」「子育て支援」「こどもの食と栄養」「障がい児保育」「保育実習ＩＡ」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導ＩＡ」「保育実習指導ＩＢ」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」

⑵現代こども学科学生は，保育士養成課程演習科目以外の保育士養成課程科目については，保育士養成課程学生以外の学生でも履修することができます。

保育実習

⑴実習科目

ａ．必修科目

・「保育実習ＩＡ」は，原則として２年次末の２～３月に，保育所において10日間実施される基礎的な実習です。

・「保育実習ＩＢ」は，原則として３年次の６～11月に，児童福祉施設等において10日間実施される基礎的な実習です。

b．選択必修科目

・「保育実習Ⅱ」は，原則として３年次の２～３月に，保育所において10日間実施されるより高度な実習です。

・「保育実習Ⅲ」は，原則として３年次の２～３月に，児童福祉施設等において10日間実施されるより高度な実習です。

（注）「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」の選択必修科目については，いずれか１科目しか履修することができません。

⑵事前・事後指導科目

「保育実習指導ＩA」「保育実習指導ＩB」「保育実習指導Ⅱ」「保育実習指導Ⅲ」において，それぞれの実習科目の事前・事後指導を行います。実習指導科目とそれに対応する実習科目はセット登録しなければなりません。

⑶保育実習履修前提条件

a．「保育実習ＩA」「保育実習指導ＩA」の履修前提条件は次の通りです。

・次の科目の単位をすべて修得すること。

〈2025年度以降入学生適用〉

１年次秋学期科目：「保育原理」「保育者論」「こどもの保健」「保育内容総論」「こどもの発達心理学」

２年次春学期科目：「こども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「乳児保育Ⅰ」

〈2022～2024年度入学生適用〉

１年次秋学期科目：「保育原理」「保育者論」「こどもの保健」「幼児教育内容総論」「こどもの発達心理学」

２年次春学期科目：「こども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」「乳児保育Ⅰ」

注１）１年次秋学期科目の履修前提条件を満たすことができなかった場合は，「保育実習ＩA」及び「保育実習指導ＩA」を履修登録することができません。

注２）２年次春学期科目の履修前提条件を満たすことができなかった場合は，「保育実習ＩA」及び「保育実習指導ＩA」の履修登録を取り消します。

b．「保育実習ＩB」「保育実習指導ＩB」の履修前提条件は次の通りです。

・次の科目の単位をすべて修得すること。

〈2025年度以降入学生適用〉

１年次科目：「社会福祉学概論」

２年次科目：「保育実習ＩA」「保育実習指導ＩA」

〈2022～2024年度以降入学生適用〉

２年次科目：「保育実習ＩA」「保育実習指導ＩA」「社会福祉論」

注３）履修前提条件を満たすことができなかった場合は，「保育実習ＩB」及び「保育実習指導ＩB」を履修登録することができません。

c．「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」の履修前提条件は次の通りです。

・次の科目の単位をすべて修得すること。

２年次科目：

〈2025年度以降入学生適用〉「保育実習ＩA」「保育実習指導ＩA」「乳児保育Ⅱ」「保育カリキュラム論」

〈2022～2024年度入学生適用〉「保育実習ＩA」「保育実習指導ＩA」「乳児保育Ⅱ」「幼児教育課程総論」

注４）履修前提条件を満たすことができなかった場合は，「保育実習Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅱ」を履修登録することができません。

d．「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の履修前提条件は次の通りです。

・次の科目の単位をすべて修得すること。

２年次科目：「保育実習ＩA」「保育実習指導ＩA」

３年次春学期科目：「社会的養護Ⅱ」「こども家庭支援論」

３年次通年科目：「保育実習ＩB」「保育実習指導ＩB」

注５）２年次科目の履修前提条件を満たすことができなかった場合は，「保育実習Ⅲ」及び「保育実習指導Ⅲ」を履修登録することができません。

注６）３年次春学期科目の履修前提条件を満たすことができなかった場合は，「保育実習Ⅲ」及び「保育実習指導Ⅲ」の履修登録を取り消します。

注７）３年次通年科目の単位を修得済みか履修中であること。ただし，履修中の場合，「保育実習ＩB」の実習を取り止めたときは，「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の履修登録を取り消します。

⑷実習先の配当

「保育実習ＩＡ」「保育実習Ⅱ」は個別面談を踏まえて実習先を決定します。「保育実習ＩＢ」「保育実習Ⅲ」は個別面談を踏まえて実習先が配当されます。遠隔地（帰省先等）での実習は原則として認めていません。

⑸実習費（予定）

ａ．金額

１実習（10日間）につき16,000円の実習費が必要です。合計で48,000円が必要となります。但し，社会情勢に応じて実習費が変更になる可能性があります。

ｂ．納入時期

２年次秋学期に16,000円，３年次春学期に16,000円，3年次秋学期に16,000円が必要となります。納入時期，納入方法等の詳細は別途お知らせします。

注１）実習先に支払う実習費は実習先により異なることがありますが，公平さを保つために全員から同一金額を徴収します。保育所以外の実習施設では実習先に宿泊することを求められる場合がありますが，その場合の宿泊費は別途徴収しません。

注２）実習期間中の食費，交通費等は個人負担となります。

注３）原則として実習費を返却することはできません。

保育士登録について

保育士養成課程を修了見込者には，10月下旬頃に保育士登録申請書類を配付しますので，指示に従ってください。３月31日付で保育士登録が決定し，６月頃に保育士証が交付されます。

卒業後の科目等履修について

⑴在学中に保育士養成課程学生であった場合は，卒業するまでに保育士養成課程の所定の単位を修得することができなかった場合でも，卒業後に本学の科目等履修生として未修得科目を履修し，保育士養成課程を修了することができます。この場合，他大学での科目等履修により修得した単位を本学の保育士養成課程修了に使うことはできません。

⑵在学中に保育士養成課程学生でなかった現代こども学科卒業生は，保育士養成課程演習科目を履修することはできません。

保育士試験について

保育士資格を取得するには，本学保育士養成課程を修了する以外に，一般社団法人全国保育士養成協議会が実施する保育士試験に合格して保育士の資格を取得する方法があります。保育士試験受験に関する情報収集や受験手続はすべて希望者自身が同協議会のWebサイト等を参照の上個人で行ってください。

保育士養成課程 履修科目表

【必修科目（2025年度以降入学生適用）】

必修58単位を修得すること。

厚生労働省告示第216号 別表第１に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	2	秋2	1	30	
	教育原理	講義	2	教育の原理	2	春2	2	30	
	子ども家庭福祉	講義	2	こども家庭福祉	2	春2	2	30	
	社会福祉	講義	2	社会福祉学概論	2	秋2	1	30	
	子ども家庭支援論	講義	2	こども家庭支援論	2	春2	3	30	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	2	春2	2	30	
	保育者論	講義	2	保育者論	2	秋2	1	30	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	こどもの発達心理学	2	秋2	1	30	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	こども家庭支援の心理学	2	春2	3	30	
	子どもの理解と援助	演習	1	こども理解の理論と方法	2	春2	3	30	
	子どもの保健	講義	2	こどもの保健	2	秋2	1	30	
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養 ＊	2	秋2	2	30	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	2	春2	2	30	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	2	秋2	1	30	
	保育内容演習	演習	5	保育内容（健康）	2	春2	3	30	
				保育内容（人間関係）	2	春2	3	30	
				保育内容（環境）	2	秋2	2	30	
				保育内容（言葉）	2	秋2	2	30	
				保育内容（表現）	2	春2	3	30	
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法Ⅰ ＊	2	秋2	1	30	
				保育内容の理解と方法Ⅱ ＊	2	秋2	1	30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	2	春2	2	30	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ ＊	1	秋2	2	30	
	子どもの健康と安全	演習	1	こどもの健康と安全 ＊	1	春2	2	30	
	障害児保育	演習	2	障がい児保育 ＊	2	秋2	3	30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ ＊	1	春2	3	30	
	子育て支援	演習	1	子育て支援 ＊	1	秋2	2	30	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA ＊	2	通2	2	90	
				保育実習ⅠB ＊	2	通2	3	90	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA ＊	1	通1/2	2	15	
				保育実習指導ⅠB ＊	1	通1/2	3	15	
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習（幼・小）	2	半2	4	30	
合　計			51		58				

＊印の科目は，保育士養成課程学生のみが履修可能な保育士養成課程演習科目であることを示す。

【選択必修科目（2025年度以降入学生適用）】

保育実習および保育実習指導３単位を含め，９単位以上修得すること。

厚生労働省告示第216号 別表第２に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
保育の本質・目的に関する科目		講義		こどもの遊び実践論	2	半2	1	30	
		講義		社会保障と福祉（共通学芸科目）	2	秋2	1	30	
		講義		教職論	2	春2	1	30	
保育の対象の理解に関する科目		講義		生涯発達心理学	2	半2	2	30	
		講義		心理臨床学（社会システム学科科目）	2	半2	2	30	
		講義		対人関係心理学	2	秋2	2	30	
		講義		家族臨床心理学	2	秋2	3	30	「発達と学習の心理学」を含め６単位以上選択必修 「社会保障と福祉」は京田辺キャンパス開講のクラスを登録すること
		講義		発達と学習の心理学	2	春2	2	30	
		講義		教育相談	2	春2	3	30	
保育の内容・方法に関する科目		講義		こどもスポーツ論	2	春2	1	30	
		講義		こどもと言葉	1	春1	2	30	
		講義		こどもと人間関係	1	春1	2	30	
		講義		こどもと環境	1	秋1	1	30	
		講義		こどもと音楽表現	1	秋1	2	30	
		講義		こどもと造形表現	1	秋1	2	30	
		講義		こどもと健康	1	秋1	1	30	
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ ＊	2	通2	3	90	「保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱ」，又は「保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲ」から３単位以上選択必修
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ ＊	1	通1/2	3	15	
	保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ ＊	2	通2	3	90	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅲ ＊	1	通1/2	3	15	

＊印の科目は，保育士養成課程学生のみが履修可能な保育士養成課程演習科目であることを示す。

【教養科目（2025年度以降入学生適用）】

体育「講義」２単位及び体育「実技」１単位を含め，９単位以上修得すること。

厚生労働省告示第216号 に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
教養科目	体育	講義		からだの科学	2	半2	1	30	２単位以上選択必修
				ウエルネス健康論	2	半2	1	30	
				食物と健康	2	半2	1	30	
				スポーツ文化論	2	半2	1	30	
		実技		体育実技Ａ	1	春2	1	30	１単位以上選択必修
				体育実技Ｂ	1	秋2	1	30	
				スポーツ実習Ａ	1	春2	2	30	
				スポーツ実習Ｂ	1	秋2	2	30	
	外国語	演習		Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	30	
				Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	30	
				Communication in English Ⅰ	1	春2	1	30	
				Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	30	
	体育・外国語以外の科目	講義		聖書Ａ	2	春2	1	30	
				聖書Ｂ	2	秋2	1	30	
				キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ａ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｄ	2	半2	1	30	

保育士養成課程 履修科目表

【必修科目（2024年度入学生適用）】

必修58単位を修得すること。

厚生労働省告示第216号 別表第１に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	2	秋2	1	30	
	教育原理	講義	2	教育の原理	2	春2	2	30	
	子ども家庭福祉	講義	2	こども家庭福祉	2	春2	2	30	
	社会福祉	講義	2	社会福祉論	2	秋2	2	30	
	子ども家庭支援論	講義	2	こども家庭支援論	2	春2	3	30	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	2	春2	2	30	
	保育者論	講義	2	保育者論	2	秋2	1	30	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	こどもの発達心理学	2	秋2	1	30	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	こども家庭支援の心理学	2	春2	3	30	
	子どもの理解と援助	演習	1	こども理解の理論と方法	2	春2	3	30	
	子どもの保健	講義	2	こどもの保健	2	秋2	1	30	
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養 ＊	2	秋2	2	30	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程総論	2	春2	2	30	
	保育内容総論	演習	1	幼児教育内容総論	2	秋2	1	30	
	保育内容演習	演習	5	保育内容（健康）	2	春2	3	30	
				保育内容（人間関係）	2	春2	3	30	
				保育内容（環境）	2	秋2	2	30	
				保育内容（ことば）	2	秋2	2	30	
				保育内容（表現）	2	春2	3	30	
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法Ⅰ ＊	2	秋2	1	30	
				保育内容の理解と方法Ⅱ ＊	2	秋2	1	30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	2	春2	2	30	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ ＊	1	秋2	2	30	
	子どもの健康と安全	演習	1	こどもの健康と安全 ＊	1	春2	2	30	
	障害児保育	演習	2	障がい児保育 ＊	2	秋2	2	30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ ＊	1	春2	3	30	
	子育て支援	演習	1	子育て支援 ＊	1	秋2	2	30	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA ＊	2	通2	2	90	
				保育実習ⅠB ＊	2	通2	3	90	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA ＊	1	通1/2	2	15	
				保育実習指導ⅠB ＊	1	通1/2	3	15	
総合演習	保育実践演習	演習	2	教職実践演習（幼・小）	2	半2	4	30	
合　計			51		58				

＊印の科目は，保育士養成課程学生のみが履修可能な保育士養成課程演習科目であることを示す。

【選択必修科目（2024年度入学生適用）】

保育実習および保育実習指導３単位を含め，９単位以上修得すること。

厚生労働省告示第216号 別表第２に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
保育の本質・目的に関する科目		講義		こどもの遊び実践論	2	半2	1	30	
		講義		社会保障と福祉（共通学芸科目）	2	秋2	1	30	
		講義		教職論	2	春2	1	30	
保育の対象の理解に関する科目		講義		生涯発達心理学	2	半2	2	30	
		講義		心理臨床学（社会システム学科科目）	2	半2	2	30	
		講義		対人関係心理学	2	秋2	2	30	
		講義		家族臨床心理学	2	秋2	3	30	「発達と学習の心理学」を含め６単位以上選択必修 「社会保障と福祉」は京田辺キャンパス開講のクラスを登録すること
		講義		発達と学習の心理学	2	春2	2	30	
		講義		教育相談	2	春2	3	30	
保育の内容・方法に関する科目		講義		こどもスポーツ論	2	春2	1	30	
		講義		こどもと言葉	1	春2	1	30	
		講義		こどもと人間関係	1	春2	1	30	
		講義		こどもと環境	1	秋2	3	30	
		講義		こどもと音楽表現	1	秋2	2	30	
		講義		こどもと造形表現	1	春2	2	30	
		講義		こどもと健康	1	秋2	3	30	
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ ＊	2	通2	3	90	「保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱ」，又は「保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲ」から３単位以上選択必修
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ ＊	1	通1/2	3	15	
	保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ ＊	2	通2	3	90	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅲ ＊	1	通1/2	3	15	

＊印の科目は，保育士養成課程学生のみが履修可能な保育士養成課程演習科目であることを示す。

【教養科目（2024年度入学生適用）】

体育「講義」２単位及び体育「実技」１単位を含め，９単位以上修得すること。

厚生労働省告示第216号 に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
教養科目	体育	講義		からだの科学	2	半2	1	30	２単位以上選択必修
				ウエルネス健康論	2	半2	1	30	
				食物と健康	2	半2	1	30	
				スポーツ文化論	2	半2	1	30	
		実技		体育実技Ａ	1	春2	1	30	１単位以上選択必修
				体育実技Ｂ	1	秋2	1	30	
				スポーツ実習Ａ	1	春2	2	30	
				スポーツ実習Ｂ	1	秋2	2	30	
	外国語	演習		Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	30	
				Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	30	
				Communication in English Ⅰ	1	春2	1	30	
				Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	30	
	体育・外国語以外の科目	講義		聖書Ａ	2	春2	1	30	
				聖書Ｂ	2	秋2	1	30	
				キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ａ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｄ	2	半2	1	30	

保育士養成課程 履修科目表

【必修科目（2022～2023年度入学生適用）】

必修58単位を修得すること。

厚生労働省告示第216号 別表第１に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	2	秋2	1	30	
	教育原理	講義	2	教育の原理	2	春2	2	30	
	子ども家庭福祉	講義	2	こども家庭福祉	2	春2	2	30	
	社会福祉	講義	2	社会福祉論	2	秋2	2	30	
	子ども家庭支援論	講義	2	こども家庭支援論	2	春2	3	30	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	2	春2	2	30	
	保育者論	講義	2	保育者論	2	秋2	1	30	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	こどもの発達心理学	2	秋2	1	30	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	こども家庭支援の心理学	2	春2	3	30	
	子どもの理解と援助	演習	1	こども理解の理論と方法	2	春2	3	30	
	子どもの保健	講義	2	こどもの保健	2	秋2	1	30	
	子どもの食と栄養	演習	2	こどもの食と栄養 ＊	2	秋2	2	30	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	幼児教育課程総論	2	春2	2	30	
	保育内容総論	演習	1	幼児教育内容総論	2	秋2	1	30	
	保育内容演習	演習	5	保育内容（健康）	2	春2	3	30	
				保育内容（人間関係）	2	春2	3	30	
				保育内容（環境）	2	秋2	2	30	
				保育内容（ことば）	2	秋2	2	30	
				保育内容（表現）	2	春2	3	30	
	保育内容の理解と方法	演習	4	保育内容の理解と方法Ⅰ ＊	2	秋2	1	30	
				保育内容の理解と方法Ⅱ ＊	2	秋2	1	30	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	2	春2	2	30	
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ ＊	1	秋2	2	30	
	子どもの健康と安全	演習	1	こどもの健康と安全 ＊	1	春2	2	30	
	障害児保育	演習	2	障がい児保育 ＊	2	秋2	2	30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ ＊	1	春2	3	30	
	子育て支援	演習	1	子育て支援 ＊	1	秋2	2	30	
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習ⅠA ＊	2	通2	2	90	
				保育実習ⅠB ＊	2	通2	3	90	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA ＊	1	通1/2	2	15	
				保育実習指導ⅠB ＊	1	通1/2	3	15	
総合演習	保育実践演習	演習	2	教職実践演習（幼・小）	2	半2	4	30	
合　計			51		58				

＊印の科目は，保育士養成課程学生のみが履修可能な保育士養成課程演習科目であることを示す。

【選択必修科目（2022～2023年度入学生適用）】

保育実習および保育実習指導３単位を含め，９単位以上修得すること。

厚生労働省告示第216号 別表第２に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
保育の本質・目的に関する科目		講義		幼児・児童教育論	2	秋2	1	30	
		講義		社会保障と福祉（共通学芸科目）	2	秋2	1	30	
		講義		教職論	2	春2	1	30	
保育の対象の理解に関する科目		講義		生涯発達心理学	2	半2	2	30	
		講義		心理臨床学（社会システム学科科目）	2	半2	2	30	
		講義		対人関係心理学	2	秋2	2	30	
		講義		家族臨床心理学	2	秋2	3	30	「発達と学習の心理学」を含め６単位以上選択必修 「社会保障と福祉」は京田辺キャンパス開講のクラスを登録すること
		講義		発達と学習の心理学	2	春2	2	30	
		講義		教育相談	2	春2	3	30	
保育の内容・方法に関する科目		講義		こどもスポーツ論	2	春2	1	30	
		講義		こどもと言葉	1	春2	1	30	
		講義		こどもと人間関係	1	春2	1	30	
		講義		こどもと環境	1	秋2	3	30	
		講義		こどもと音楽表現	1	秋2	2	30	
		講義		こどもと造形表現	1	春2	2	30	
		講義		こどもと健康	1	秋2	3	30	
保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ ＊	2	通2	3	90	「保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱ」，又は「保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲ」から３単位以上選択必修
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ ＊	1	通1/2	3	15	
	保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ ＊	2	通2	3	90	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅲ ＊	1	通1/2	3	15	

＊印の科目は，保育士養成課程学生のみが履修可能な保育士養成課程演習科目であることを示す。

【教養科目（2022～2023年度入学生適用）】

体育「講義」２単位及び体育「実技」１単位を含め，９単位以上修得すること。

厚生労働省告示第216号 に定める教科目				本学開設科目					
系列	教科目	授業形態	単位	本学開講科目	単位	期間時間	年次	時間数	備考
教養科目	体育	講義		からだの科学	2	半2	1	30	２単位以上選択必修
				ウエルネス健康論	2	半2	1	30	
				食物と健康	2	半2	1	30	
				スポーツ文化論	2	半2	1	30	
		実技		体育実技Ａ	1	春2	1	30	１単位以上選択必修
				体育実技Ｂ	1	秋2	1	30	
				スポーツ実習Ａ	1	春2	2	30	
				スポーツ実習Ｂ	1	秋2	2	30	
	外国語	演習		Comprehensive English Ⅰ	1	春2	1	30	
				Comprehensive English Ⅱ	1	秋2	1	30	
				Communication in English Ⅰ	1	春2	1	30	
				Communication in English Ⅱ	1	秋2	1	30	
	体育・外国語以外の科目	講義		聖書Ａ	2	春2	1	30	
				聖書Ｂ	2	秋2	1	30	
				キリスト教の歴史Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教の歴史Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教の歴史Ｃ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教文化論Ｃ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ａ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ｂ	2	半2	1	30	
				キリスト教世界の探求Ｃ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ａ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｂ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｃ	2	半2	1	30	
				近代日本と同志社Ｄ	2	半2	1	30	

保育士（教養科目を除く）・幼１免・小１免 総合カリキュラム表（2025年度以降入学生）

●：必修，◎：選択必修，○：選択

本学開設科目名	授業形態	保育士		幼一免		小一免		設置学科	保育士養成課程学生以外の履修可否	
		必修●選必◎	備考	必修●選択○	備考	必修●選必◎	備考		現代こども学科生	他学科生
保育原理	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こども家庭福祉	講義	●		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
社会福祉学概論	講義	●		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
こども家庭支援論	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
社会的養護Ⅰ	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
保育者論	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こどもの発達心理学	講義	●		○	大学独自科目	−		ＧＫ	○	×
こども家庭支援の心理学	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こども理解の理論と方法	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
こどもの保健	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こどもの食と栄養	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
乳児保育Ⅰ	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
乳児保育Ⅱ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
こどもの健康と安全	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
障がい児保育	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
社会的養護Ⅱ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
子育て支援	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習ⅠＡ	実習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習ⅠＢ	実習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導ⅠＡ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導ⅠＢ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
教育の原理	講義	●		●		●		ＧＫ	○	×
保育カリキュラム論	講義	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容総論	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（健康）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（人間関係）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（環境）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（言葉）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（表現）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育・教職実践演習（幼・小）	演習	●		●		●		ＧＫ	○	×
特別支援教育	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
総合的な学習の時間の指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
教育の制度と経営	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
教育課程論	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
教育方法と技術(ICTの活用を含む)	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
保育内容指導法総論	−	−		●		−		ＧＫ	○	×
初等教育実習Ａ	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
国語科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
社会科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
算数科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
理科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
生活科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
音楽科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
図画工作科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
家庭科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
体育科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
外国語（英語）科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
道徳教育論	−	−		○	大学独自科目	●		ＧＫ	○	×
特別活動論	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
児童理解と生徒・進路指導	−	−		○	大学独自科目	●		ＧＫ	○	×
現代こども学概論	−	−		○	大学独自科目	−		ＧＫ	○	×
教育とこどもの社会史	−	−		○	大学独自科目	−		ＧＫ	○	×
発達と学習の心理学	講義	●	6単位以上選択必修	●		●		ＧＫ	○	×
こどもの遊び実践論	講義	◎		−		−		ＧＫ	○	×
社会保障と福祉	講義	◎		−		−		共通学芸	○	○
教職論	講義	◎		●		●		ＧＫ	○	×
生涯発達心理学	講義	◎		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
心理臨床学	講義	◎		−		−		ＧＳ	○	○
対人関係心理学	講義	◎		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
家族臨床心理学	講義	◎		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
教育相談	−	◎		●		●		ＧＫ	○	×
こどもスポーツ論	講義	◎		−		−		ＧＫ	○	○
こどもと健康	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと人間関係	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと環境	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと言葉	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと造形表現	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと音楽表現	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
国語	−	−		−		◎	6単位以上選択必修	ＧＫ	○	×
社会	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
算数	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
理科	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
生活	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
外国語（英語）	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
音楽	−	−		−		◎	4単位以上選択必修	ＧＫ	○	×
図画工作	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
家庭	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
体育	−	−		−		◎		ＧＫ	○	×
保育実習Ⅱ	実習	◎	3単位選択必修	−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導Ⅱ	演習	◎		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習Ⅲ	実習	◎		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導Ⅲ	演習	◎		−		−		ＧＫ	×	×

2025～保育士養成課程

保育士（教養科目を除く）・幼１免・小１免 総合カリキュラム表（2024年度入学生）

●：必修，◎：選択必修，○：選択

本学開設科目名	授業形態	保育士		幼一免		小一免		設置学科	保育士養成課程学生以外の履修可否	
		必修● 選必◎	備考	必修● 選択○	備考	必修●	備考		現代こども学科生	他学科生
保育原理	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こども家庭福祉	講義	●		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
社会福祉論	講義	●		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
こども家庭支援論	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
社会的養護Ⅰ	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
保育者論	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こどもの発達心理学	講義	●		○	大学独自科目	−		ＧＫ	○	×
こども家庭支援の心理学	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こども理解の理論と方法	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
こどもの保健	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
こどもの食と栄養	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
乳児保育Ⅰ	講義	●		−		−		ＧＫ	○	×
乳児保育Ⅱ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
こどもの健康と安全	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
障がい児保育	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
社会的養護Ⅱ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
子育て支援	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習ＩＡ	実習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習ＩＢ	実習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導ＩＡ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導ＩＢ	演習	●		−		−		ＧＫ	×	×
教育の原理	講義	●		●		●		ＧＫ	○	×
幼児教育課程総論	講義	●		●		−		ＧＫ	○	×
幼児教育内容総論	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（健康）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（人間関係）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（環境）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（ことば）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
保育内容（表現）	演習	●		●		−		ＧＫ	○	×
教職実践演習（幼・小）	演習	●		●		●		ＧＫ	○	×
特別支援教育	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
総合的な学習の時間の指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
社会	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
理科	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
家庭	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
外国語（英語）	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
教育の制度と経営	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
教育課程論	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
教育方法と技術(ICTの活用を含む)	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
幼児教育指導法総論	−	−		●		−		ＧＫ	○	×
初等教育実習Ａ	−	−		●		●		ＧＫ	○	×
国語科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
社会科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
算数科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
理科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
生活科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
音楽科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
図画工作科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
家庭科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
体育科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
外国語（英語）科指導法	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
道徳教育論	−	−		○	大学独自科目	●		ＧＫ	○	×
特別活動論	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
児童理解と生徒・進路指導	−	−		○	大学独自科目	●		ＧＫ	○	×
現代こども学概論	−	−		○	大学独自科目	−		ＧＫ	○	×
教育とこどもの社会史	−	−		○	大学独自科目	−		ＧＫ	○	×
発達と学習の心理学	講義	●		●		●		ＧＫ	○	×
こどもの遊び実践論	講義	◎		−		−		ＧＫ	○	×
社会保障と福祉	講義	◎		−		−		共通学芸	○	○
教職論	講義	◎		●		●		ＧＫ	○	×
生涯発達心理学	講義	◎		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
心理臨床学	講義	◎		−		−		ＧＳ	○	○
対人関係心理学	講義	◎		−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
家族臨床心理学	講義	◎	6単位以上 選択必修	−		−		ＧＫ・ＧＳ	○	○
教育相談	−	◎		●		●		ＧＫ	○	×
こどもスポーツ論	講義	◎		−		−		ＧＫ	○	○
こどもと健康	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと人間関係	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと環境	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと言葉	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと造形表現	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
こどもと音楽表現	講義	◎		●		−		ＧＫ	○	×
国語	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
算数	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
生活	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
音楽	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
図画工作	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
体育	−	−		−		●		ＧＫ	○	×
保育実習Ⅱ	実習	◎		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導Ⅱ	演習	◎	3単位 選択必修	−		−		ＧＫ	×	×
保育実習Ⅲ	実習	◎		−		−		ＧＫ	×	×
保育実習指導Ⅲ	演習	◎		−		−		ＧＫ	×	×

保育士（教養科目を除く）・幼１免・小１免 総合カリキュラム表（2022～2023年度入学生）

●：必修，◎：選択必修，○：選択

本学開設科目名	授業形態	保育士		幼一免		小一免		設置学科	保育士養成課程学生以外の履修可否	
		必修● 選必◎	備考	必修● 選択○	備考	必修●	備考		現代こども学科生	他学科生
保育原理	講義	●		－		－		ＧＫ	○	×
こども家庭福祉	講義	●		－		－		ＧＫ・ＧＳ	○	○
社会福祉論	講義	●		－		－		ＧＫ・ＧＳ	○	○
こども家庭支援論	講義	●		－		－		ＧＫ	○	×
社会的養護Ⅰ	講義	●		－		－		ＧＫ	○	×
保育者論	講義	●		－		－		ＧＫ	○	×
こどもの発達心理学	講義	●		○	大学独自科目	－		ＧＫ	○	×
こども家庭支援の心理学	講義	●		－		－		ＧＫ	○	×
こども理解の理論と方法	演習	●		●		－		ＧＫ	○	×
こどもの保健	講義	●		－		－		ＧＫ	○	×
こどもの食と栄養	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
保育内容の理解と方法Ⅰ	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
保育内容の理解と方法Ⅱ	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
乳児保育Ⅰ	講義	●		－		－		ＧＫ	○	×
乳児保育Ⅱ	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
こどもの健康と安全	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
障がい児保育	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
社会的養護Ⅱ	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
子育て支援	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
保育実習ＩＡ	実習	●		－		－		ＧＫ	×	×
保育実習ＩＢ	実習	●		－		－		ＧＫ	×	×
保育実習指導ＩＡ	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
保育実習指導ＩＢ	演習	●		－		－		ＧＫ	×	×
教育の原理	講義	●		●		●		ＧＫ	○	×
幼児教育課程総論	講義	●		●		－		ＧＫ	○	×
幼児教育内容総論	演習	●		●		－		ＧＫ	○	×
保育内容（健康）	演習	●		●		－		ＧＫ	○	×
保育内容（人間関係）	演習	●		●		－		ＧＫ	○	×
保育内容（環境）	演習	●		●		－		ＧＫ	○	×
保育内容（ことば）	演習	●		●		－		ＧＫ	○	×
保育内容（表現）	演習	●		●		－		ＧＫ	○	×
教職実践演習（幼・小）	演習	●		●		●		ＧＫ	○	×
特別支援教育	－	－		●		●		ＧＫ	○	×
総合的な学習の時間の指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
社会	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
理科	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
家庭	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
外国語（英語）	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
教育の制度と経営	－	－		●		●		ＧＫ	○	×
教育課程論	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
教育方法と技術(ICTの活用を含む)	－	－		●		●		ＧＫ	○	×
幼児教育指導法総論	－	－		●		－		ＧＫ	○	×
初等教育実習Ａ	－	－		●		●		ＧＫ	○	×
国語科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
社会科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
算数科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
理科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
生活科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
音楽科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
図画工作科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
家庭科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
体育科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
外国語（英語）科指導法	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
道徳教育論	－	－		○	大学独自科目	●		ＧＫ	○	×
特別活動論	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
児童理解と生徒・進路指導	－	－		○	大学独自科目	●		ＧＫ	○	×
現代こども学概論	－	－		○	大学独自科目	－		ＧＫ	○	×
教育とこどもの社会史	－	－		○	大学独自科目	－		ＧＫ	○	×
発達と学習の心理学	講義	●	6単位以上 選択必修	●		●		ＧＫ	○	×
幼児・児童教育論	講義	◎		－		－		ＧＫ	○	○
社会保障と福祉	講義	◎		－		－		共通学芸	○	○
教職論	講義	◎		●		●		ＧＫ	○	×
生涯発達心理学	講義	◎		－		－		ＧＫ・ＧＳ	○	○
心理臨床学	講義	◎		－		－		ＧＳ	○	○
対人関係心理学	講義	◎		－		－		ＧＫ・ＧＳ	○	○
家族臨床心理学	講義	◎		－		－		ＧＫ・ＧＳ	○	○
教育相談	－	◎		●		●		ＧＫ	○	×
こどもスポーツ論	講義	◎		－		－		ＧＫ	○	○
こどもと健康	講義	◎		●		－		ＧＫ	○	×
こどもと人間関係	講義	◎		●		－		ＧＫ	○	×
こどもと環境	講義	◎		●		－		ＧＫ	○	×
こどもと言葉	講義	◎		●		－		ＧＫ	○	×
こどもと造形表現	講義	◎		●		－		ＧＫ	○	×
こどもと音楽表現	講義	◎		●		－		ＧＫ	○	×
国語	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
算数	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
生活	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
音楽	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
図画工作	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
体育	－	－		－		●		ＧＫ	○	×
保育実習Ⅱ	実習	◎	3単位 選択必修	－		－		ＧＫ	×	×
保育実習指導Ⅱ	演習	◎		－		－		ＧＫ	×	×
保育実習Ⅲ	実習	◎		－		－		ＧＫ	×	×
保育実習指導Ⅲ	演習	◎		－		－		ＧＫ	×	×

博物館学芸員課程

現代社会学部　社会システム学科

博物館学芸員課程

＊2007年度より開設
＊博物館学芸員課程は現代社会学部社会システム学科に設置されていますが，他学科生も履修できます。ただし，卒業必修科目との時間割重複により，４年間で修了することができないことがあります。

「学芸員」とは，博物館に勤務し，文化遺産や自然科学に関する資料を収集・保管・整理し，それを公開し，また施設利用の便をはかる等の活動をすると同時に，資料に関する調査，研究を行う専門的技術を有する職員です。
本学では，博物館法に定められている学芸員の資格を得るため博物館学芸員課程を設置しています。
本課程履修希望者は，以下の諸注意を読み課程履修科目表に従い履修計画を立ててください。

履修上の心構え

博物館学芸員課程の履修にあたっては，適性と将来計画についてよく考え，安易な気持ちではなく，相当の意志と意欲をもって臨んでください。博物館学芸員課程で学ぶ内容は，幅広い分野の学習に有益なものです。ただし，履修のために費やす労力も大変ですし，課程履修により時間割に制約ができ，卒業に必要な科目の選択の幅を狭めることもあります。

学芸員資格の取得方法

学芸員の資格を得るには，『博物館法』第５条第１項第１号により下記の２つの条件をそなえなければなりません。
⑴学士の学位を有すること。
⑵博物館に関する所定科目の単位を修得していること。

博物館実習（必修科目）

⑴「博物館実習」では，大学における学内実習，事前・事後指導，博物館における実習※を予定しています。
※博物館における実習期間は，１～２週間程度ですが，実習先により異なります。
※原則として，実習先の博物館は各自で依頼することになります。帰省先の博物館等を含め，専門分野や興味・関心に応じて選択することができます。
⑵「博物館実習」を履修登録するためには，博物館実習履修前提条件を満たす必要があります。
博物館実習履修前提条件：**「博物館概論」を含め，必修科目から８単位以上，選択科目から６単位以上を修得済みであること**。
⑶博物館実習に係る費用について，実習費（事務連絡費を含む）として5,000円を別途徴収します。（納入後は，一切返金できません。）
⑷実習が本学の授業期間中に行われ，平常の授業に出席できない場合には，免許・資格課で発行する「公欠届」を申請し，実習開始前に当該授業担当者に提出してください。
⑸博物館実習は，全面的に実習先の好意に支えられて行われている制度です。実習決定後は，例え一般企業の採用試験等と日程が重なったとしても，実習を取り止めたり，休むことは許されません。

博物館実習登録のためのスケジュール（重要）

⑴３年次春学期（６～７月）に行う博物館実習に関する説明会に出席し，仮登録する。
※この手続きを行わないと，⑵に進めません。
⑵３年次秋学期（11～12月）に「博物館実習」の予備登録を行う。
※「博物館実習」は複数クラス（両キャンパス）開講されます。希望したクラスの人数が多い場合は，他のクラスに配当される場合があります。配当結果は３年次の１月頃に発表します。
⑶４年次春学期の履修登録の際に，正しく登録されているか，各自で確認する。
（注）スケジュールの詳細は本学Webサイトで確認すること。

博物館学芸員課程修了要件

⑴博物館学芸員課程の必修科目の19単位をすべて修得すること。
⑵博物館学芸員課程の選択科目より，２分野以上にわたり，12単位以上修得すること。

学芸員課程修了証書の交付

本学で定めた課程を修了し，学芸員の資格を得るための条件を備えた者には，本学卒業時に「学芸員課程修了証書」が授与されます。（修了証書は申込不要です。）
また，「学芸員資格取得証明書」を発行することができます。（証明書は申し込みが必要です。）

博物館学芸員課程　履修科目表

	博物館法施行規則に定める科目（博物館に関する科目）	単位	本学開講科目	単位	期間時間	履修年次	開設学科	卒業上の履修方法	備考
必修科目	博物館概論	2	博物館概論	2	秋2	1	ＧＳ	選択	
	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	半2	2	GS･GK	選択	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	半2	2	ＧＳ	選択	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	半2	2	ＧＳ	選択	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	半2	3	ＧＳ	選択	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	半2	3	ＧＳ	選択	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	半2	3	ＧＳ	選択	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	半2	3	ＧＳ	選択	
	博物館実習	3	博物館実習	3	通2	4	ＧＳ	自由選択	
	合計	19		19					

（注１）本学では，「博物館実習」の履修前提条件を定めている。この条件を満たしていなければ，「博物館実習」を履修登録することができない。
（注２）「博物館実習」は自由選択科目であり，卒業必要単位には算入できない。

	所定の科目（分野）	本学開講科目	単位	期間時間	履修年次	開設学科等	備考
選択科目	文化史	比較文化概論	2	半2	1	ＧＳ	廃止（注2）
		地理学	2	半2	3	ＧＳ	
		まちづくりの地理学	2	半2	3	ＧＳ	2024年度以前入学生
		防災とまちづくりの地理学	2	半2	3	ＧＳ	2025年度以降入学生
		観光地理論	2	半2	2	ＧＳ	
		京都の社会史	2	半2	3	ＧＳ	
		地誌学Ⅰ	2	半2	3	ＧＳ	2024年度以前入学生
		地誌学Ⅱ	2	半2	3	ＧＳ	2024年度以前入学生
		地誌学	2	半2	3	ＧＳ	2025年度以降入学生
		京都・大阪・奈良の歴史地理	2	半2	2	ＧＳ	
		京都の歴史Ａ	2	半2	1	共通学芸	
		京都の歴史Ｂ	2	半2	1	共通学芸	
		イギリス研究入門	2	春2	1	Ｅ	2024年度以降入学生
		イギリス文化入門	2	春2	1	Ｅ	2023年度以前入学生
		アメリカ研究入門	2	秋2	1	Ｅ	2024年度以降入学生
		アメリカ文化入門	2	秋2	1	Ｅ	2023年度以前入学生
		京都を読む・歩く・見る	2	半2	2	Ｅ・Ｎ	
		京都の中の外国文化	2	秋2	2	Ｅ・Ｎ	
		日本文化史Ａ	2	半2	1	Ｎ	
		日本文化史Ｂ	2	半2	1	Ｎ	
		音楽通史Ｂ	2	半2	1	Ｏ	
		音楽史（近・現代）	2	半2	3	Ｏ	
		メディア文化史	2	半2	2	ＭＳ	
		Historical View of Britain ／イギリス史	2	半2	2	Ｋ	廃止（注2）
		Histories of Britain and Oceania ／イギリス・オセアニア史	2	半2	2	Ｋ	廃止（注2）
		British Empire and the World ／イギリス帝国と世界	2	秋2	1	Ｋ	
		Historical View of North America ／北米史	2	半2	2	Ｋ	廃止（注2）
		History of North America ／北米史	2	半2	2	Ｋ	
		服飾文化史	2	半2	2	Ｌ	
		生活文化史	2	半2	2	Ｌ	廃止（注2）
		住文化論	2	半2	2	Ｌ	
		住文化史	2	半2	2	Ｌ	廃止（注2）
		地域遺産論	2	半2	2	Ｌ	
		ファッション文化論	2	半2	2	Ｌ	
		ファッションと社会	2	半2	2	Ｌ	廃止（注2）
		よそおいの文化論	2	半2	3	Ｌ	
	美術史	京都の美術史	2	半2	2	ＧＳ	
		美術史	2	半2	1	共通学芸	
		生活デザイン史	2	半2	3	Ｌ	
		生活美術史	2	半2	3	Ｌ	廃止（注2）
		京のくらしと伝統文化	2	半2	3	Ｌ	

（次ページへ続く）

	所定の科目（分野）	本学開講科目	単位	期間時間	履修年次	開設学科等	備考
選択科目	考古学	京都の文化財論	2	半2	2	GS	
		考古学Ⅰ	2	半2	3	GS	2024年度以前入学生
		考古学Ⅱ	2	半2	3	GS	2024年度以前入学生
		考古学	2	半2	3	GS	2025年度以降入学生
	民俗学	文化人類学概論	2	半2	1	GS	2025年度以降 GS，GK のみ履修可
		オセアニア地域文化論	2	半2	2	GS	
		世界のくらしと文化	2	半2	1	L	
		国際生活文化論	2	半2	3	L	廃止（注2）
		日本民俗学A	2	半2	2	N	
		日本民俗学B	2	半2	2	N	
		京ことば	2	秋2	1	E・N	
	化学	薬の発明・発見史Ⅰ	2	半2	1	共通学芸	
		薬の発明・発見史Ⅱ	2	半2	1	共通学芸	

（注１）各科目の開講キャンパスに注意して履修すること。
（注２）廃止された科目であっても，その単位を修得済の場合は，その単位は博物館学芸員課程で有効である。

その他

放送大学単位互換科目を本学の博物館学芸員課程科目（必修科目）の単位として充てることができます。（ただし2012年度以降入学生が2013年度以降に単位を修得した場合に限ります。）

図書館司書課程

学芸学部　メディア創造学科

図書館司書課程

＊2007年度より開設
＊図書館司書課程は学芸学部メディア創造学科に設置されていますが，他学科生も履修できます。ただし，卒業必修科目との時間割重複により，４年間で修了することができないことがあります。
＊学校図書館司書教諭課程とは異なる課程です。

「司書」とは都道府県や市町村の公共図書館等で図書館資料の選択，発注及び受け入れから，分類，目録作成，貸出業務，レファレンス，読書案内などを行う専門的職員です。

本学では，図書館法に定められている司書の資格を得るため図書館司書課程を設置しています。

本課程履修希望者は，以下の諸注意を読み課程履修科目表に従い履修計画を立ててください。

履修上の心構え

図書館司書課程の履修にあたっては，適性と将来計画についてよく考え，安易な気持ちではなく，相当の意志と意欲をもって臨んでください。図書館司書課程で学ぶ内容は，幅広い分野の学習に有益なものです。ただし，履修のために費やす労力も大変ですし，課程履修により時間割に制約ができ，卒業に必要な科目の選択の幅を狭めることもあります。

司書資格の取得方法

司書の資格を得るには，『図書館法』第５条１項第１号により，下記の２つの条件をそろえなければなりません。

⑴学士の学位を有すること。
⑵図書館に関する所定科目の単位を修得していること。

予備登録が必要な科目（重要）

「図書館実習」（４年次科目）を履修する場合は，前年度の秋学期（11～12月）に予備登録が必要です。予備登録結果は１月頃に本学Webサイトにてお知らせします。

図書館実習

⑴「図書館実習」は選択科目です。（必修科目ではありません。）
※「図書館実習」を履修登録するためには，図書館実習履修前提条件を満たす必要があります。
⑵図書館実習は，公立図書館等において行う予定です。
⑶図書館実習に係る費用について，実習費（事務連絡費を含む）として2,000円を別途徴収します。（納入後は，一切返金できません。）
⑷図書館実習が本学の授業期間中に行われ，平常の授業に出席できない場合は，免許・資格課で発行する「公欠届」を申請し，図書館実習開始前に当該授業担当者に提出してください。
⑸図書館実習は，全面的に実習先の好意に支えられて行われている制度です。実習決定後には，例え一般企業の採用試験等と日程が重なったとしても，実習を取り止めたり，休むことは許されません。

図書館実習履修前提条件

⑴本学では，図書館実習に行く前に満たすべき前提条件を定めています。この条件を満たしていなければ，「図書館実習」を履修登録することができません。
図書館実習履修前提条件：「図書館概論」「図書館情報技術論」「図書館サービス概論」「情報サービス論」「図書館情報資源概論」「読書と豊かな人間性」「情報サービス演習Ａ」「情報サービス演習Ｂ」「情報資源組織論」の単位18単位すべてを修得していること。
⑵「図書館実習」は，履修人数の上限を30名程度とします。希望者が30名を超えた場合は，司書課程必修科目の成績及び面接により選考します。

図書館司書課程　履修科目表

	図書館法施行規則に定める科目	単位	本学開講科目	単位	期間時間	履修年次	開設学科等	卒業上の履修方法	備考
必修科目（甲群）	図書館概論	2	図書館概論	2	秋2	1	MS	自由選択	
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	秋2	1	MS	自由選択	
	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	半2	2	GS･GK	選択	
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	半2	2	MS	選択	
	情報サービス論	2	情報サービス論	2	半2	2	MS	選択	
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	半2	2	MS	自由選択	
	児童サービス論	2	読書と豊かな人間性	2	半2	3	司書教諭	自由選択	
	情報サービス演習	2	情報サービス演習A	2	半2	3	MS	選択	
			情報サービス演習B	2	半2	3	MS	選択	
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	春2	3	MS	自由選択	
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	半2	3	MS	自由選択	
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	4	通2	4	MS	自由選択	
	計	22		26					
選択科目（乙群）	図書館基礎特論	1	マルチメディア論	2	春2	1	MS	選択	
			学校経営と学校図書館	2	春2	2	司書教諭	自由選択	集中開講
	図書館サービス特論	1	学習指導と学校図書館	2	春2	3	司書教諭	自由選択	集中開講
	図書館情報資源特論	1	京都文化資料論	2	半2	2	GS	選択	廃止
			児童文学論	2	半2	3	GK	選択	
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	1	春1	2	MS	自由選択	集中開講
	図書館施設論	1	図書館施設論	1	春1	2	MS	自由選択	集中開講
	図書館総合演習	1	－	－	－	－	－		
	図書館実習	1	図書館実習	1	通1	4	MS	自由選択	

（注）廃止された科目であっても，その単位を修得済の場合は，その単位は図書館司書課程では有効である。

図書館司書課程修了要件

⑴必修科目（甲群）26単位を修得すること。

⑵選択科目（乙群）は，図書館法施行規則に定める科目として２科目以上にわたり，２単位以上を修得すること。

※「マルチメディア論」と「学校経営と学校図書館」や，「京都文化資料論」と「児童文学論」の組み合わせでは修了要件を満たさないため，注意すること。

履修上の注意

⑴開講キャンパスに注意して履修すること。

⑵自由選択科目の単位は，卒業に必要な単位に算入することができない。

司書課程修了証書の交付

本学で定めた課程を修了し，司書の資格を得るための条件を備えた者には，「司書課程修了証書」が授与されます。（修了証書は申し込みは不要です。）

また，「司書資格取得証明書」を発行することができます。（証明書は申し込みが必要です。）

その他

放送大学単位互換科目を本学の図書館司書課程科目（「生涯学習論」のみ）の単位として充てることができます。（ただし2012年度以降入学生が2013年度以降に単位を修得した場合に限ります。）

学校図書館司書教諭課程

学校図書館司書教諭課程

＊2007年度課程設置（2008年度から開講）

「司書教諭」とは，学校図書館（小・中・高等学校）において学校教育に必要な資料の収集，整理，保存，提供等の専門的職務に従事する教諭です。この資格を得るためには，教諭の免許状取得が前提となるため，本課程と同時に教職課程を履修していかなければなりません。

本課程履修希望者は，以下の諸注意を読み課程履修科目表に従い履修計画を立ててください。

なお，学校図書館司書教諭課程の科目は，全て自由選択科目であり，卒業必要単位に一切算入されないので注意してください。

履修上の心構え

学校図書館司書教諭課程の履修にあたっては，適性と将来計画についてよく考え，安易な気持ちではなく，相当の意志と意欲をもって臨んでください。教職課程と並行して本課程を履修していくことになります。教職課程を修了しなければ，本課程のみを修了しても学校図書館司書教諭の資格は得られないことにも留意してください。

司書教諭資格の取得方法

司書教諭の資格を得るには，下記の 2 つの条件を備えなければなりません。

⑴教諭（小・中・高等学校）いずれかの免許状を有すること。

⑵所定科目の単位を修得していること。

司書教諭講習修了証書の交付

資格を得るための条件（対象）をすべて備えた学生には，「学校図書館司書教諭講習修了証書」が授与されます。申込時期は 2 回あります。

⑴ 5 月頃

対象：学校図書館司書教諭課程の単位を全て修得済の 4 年次生。（修得見込の者は不可）

本学に 2 年以上在学し，卒業に必要な単位数を62単位以上修得している者。

教員免許状を取得する予定の者。

証書交付時期：当該年度の 3 月下旬頃に郵送予定。

⑵11月頃

対象：学校図書館司書教諭課程の単位を全て修得済もしくは修得見込の 4 年次生。

教員免許状授与申請者。

証書交付時期：卒業の 1 年後， 3 月下旬頃に郵送予定。

詳細は本学Webサイトにてお知らせします。

学校図書館司書教諭課程　履修科目表

	学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	単位	本学開講科目	単位	期間時間	履修年次	備考
必修科目	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	春2	2	夏期集中開講
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	春2	3	夏期集中開講
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	春2	3	夏期集中開講
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	半2	3	通常期開講
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	春2	2	夏期集中開講
	合計	10	合計	10			

⑴学校図書館司書教諭課程科目はすべて自由選択科目のため，卒業に必要な単位に算入されない。

⑵「学校経営と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「学習指導と学校図書館」の単位を修得した場合，2019年度以降入学生は教職課程（中学校・高等学校教員免許課程）の「大学が独自に設定する科目」として有効

保健師

看護学部　看護学科

保健師
（看護学科　学生対象）

保健師は，病気の予防や健康の維持・増進，傷病者の療養指導などの保健指導に従事し，地方自治体や企業などに勤務します。本学で所定の単位を修得することにより受験資格が取得でき，卒業年度の２月に行われる看護師国家試験と保健師国家試験に合格し免許申請すると，厚生労働大臣より保健師免許が授与されます。保健師国家試験受験資格を得るためには，卒業に必要な単位とは別に，定められた単位を修得する必要があります。

履修科目表

【2022年度以降入学生適用】

指定規則上の教育内容		指定規則上の単位数※		本学開講科目名	単位	履修年次	備考
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	18（16）	2	公衆衛生看護学概論	2	2	
	個人・家族・集団・組織の支援		16（14）	健康教育論	1	2	
				学校保健	2	3	
				家族関係論	2	3	
				家族相談援助論	1	4	
				公衆衛生看護活動論Ａ	1	4	
				公衆衛生看護活動論Ｂ	1	4	
				公衆衛生看護活動論Ｃ	1	4	
				公衆衛生看護活動論Ｄ	1	4	
	公衆衛生看護活動展開論			国際保健	1	2	
				地域保健活動システム論Ⅰ	1	4	
				地域保健活動システム論Ⅱ	1	4	
				公衆衛生看護方法論Ⅰ	1	4	
				公衆衛生看護方法論Ⅱ	1	4	
				公衆衛生看護展開論演習	1	4	
	公衆衛生看護管理論			公衆衛生看護管理	1	4	
疫学		2		疫学	2	2	
保健統計学		2		保健医療統計	2	2	
保健医療福祉行政論		4（3）		公衆衛生学	2	2	
				保健医療システム論	2	3	
臨地実習	公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	5	2	公衆衛生看護学実習Ⅰ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	2 3	4 4	保健所・市町村での実習を含む。継続した指導を含む。
	公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開論実習		3				
	公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護管理論実習						
合計		31（28）		合計	32		

※保健師助産師看護師学校養成所指定規則では，大学において看護師の課程と一つの教育課程で教授する場合（選択制を含む）は，括弧内の数字によることができるとされています。

保健師に関する科目の履修について

保健師に関する科目を履修することができるのは，選抜試験の合格者に限ります。
選抜試験の詳細は以下のとおりです。

1．対象者　　看護学部看護学科３年次生
2．募集人数　各年度，10名を上限とします
3．出願条件　以下の条件をすべて満たす者
・保健師になることに強い意欲があり，責任を持って学修する意思のある者
・３年次春学期までの，卒業要件上の必修単位をすべて修得している者
・３年次春学期までの，保健師国家試験受験資格に必要な科目の単位を，すべて修得している者
4．選抜方法　　志望理由書・面接・成績等により総合的に判断します
5．選抜試験実施時期　各年度12月（募集時期や出願方法については，別途周知します。）

補足：
・選抜試験の合格者は，許可された年度中に，保健師国家試験受験資格に必要なすべての科目を履修し，単位を修得しなければなりません。
・３年次秋学期終了時点で，
「成人急性期看護学実習」「成人慢性期看護学実習」「精神看護学実習」「小児看護学実習Ⅱ」「ウイメンズヘルス実習」「高齢者看護学実習」「地域・在宅看護実習Ⅱ」の単位を修得していない者は，保健師に関する科目の履修資格を失います。
・４年次春学期終了時点で，保健師国家試験受験資格に必要なすべての科目を単位修得，または履修登録していない者は，保健師に関する科目の履修資格を失います。
・休学，留学等により募集時に４年次生となる場合は，看護学部・看護学研究科事務室までご相談ください。

保健師と養護教諭課程について

保健師に関する科目の履修と養護教諭課程の履修については，どちらか一方のみ可能です。両方を履修することはできません。
３年次秋学期に行われる保健師選抜試験の合格者は「養護実習」の履修資格を失います。

保健師免許取得者は，以下の科目を取得することで，養護教諭二種免許状を取得することができます（卒業後，個人申請が必要です）。
・「日本国憲法」
・「体育実技Ａ」「体育実技Ｂ」「スポーツ実習Ａ」「スポーツ実習Ｂ」のいずれか計２単位
・「Communication in English Ⅰ」
・「Communication in English Ⅱ」
・「保健医療統計」（2026年度以降入学生については，「保健医療統計」または「データサイエンス・AI 基礎」のいずれかより２単位）

保健師と第一種衛生管理者について

保健師資格取得者は，申請者の住所地を管轄する都道府県労働局に申請すれば第一種衛生管理者の資格を取得することができます。

公衆衛生看護学実習Ⅰ，Ⅱ

⑴　実習科目
・「公衆衛生看護学実習Ⅰ」は，４年次の春学期に，保健所または市町村保健センターにおいて２週間の実習を行います。
・「公衆衛生看護学実習Ⅱ」は，４年次の秋学期に，保健所または市町村保健センター及び事業所において３週間の実習を行います。
⑵　実習前提条件
・「公衆衛生看護学実習Ⅰ」履修前提条件
３年次秋学期終了時点での卒業要件上の必修単位および保健師国家試験受験資格に必要な単位をすべて修得済みであること。
・「公衆衛生看護学実習Ⅱ」履修前提条件
４年次春学期終了時点での卒業要件上の必修単位および保健師国家試験受験資格に必要な単位をすべて修得済みであること。
⑶　実習費（予定）
「公衆衛生看護学実習Ⅰ」「公衆衛生看護学実習Ⅱ」に係る費用について，実習費（事務連絡費を含む）として合計25,000円（予定）を徴収します。（徴収時期や方法については別途周知します。）

諸資格

登録日本語教員養成課程

日本語教師養成課程

上級情報処理士

ウェブデザイン実務士

観光実務士

社会福祉主事

ピアヘルパー

音楽療法士

音楽療法士（１種）

栄養士

管理栄養士

食品衛生管理者および食品衛生監視員

フードスペシャリスト

二級建築士・木造建築士

登録日本語教員養成課程（2026年度以降入学生適用）

登録日本語教員について

2024年度に施行された「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」（令和５年法律第41号）により，日本語教育機関の認定制度，および認定された機関で日本語を指導するために必要な「登録日本語教員」の資格制度が設けられました。

登録日本語教員の資格取得方法

登録日本語教員になるためには，基礎試験と応用試験からなる国家試験「日本語教員試験」に合格し，文部科学大臣が登録する研修機関で実施される実践研修（教育実習）を修了する必要があります。

本学の「登録日本語教員養成課程」は，国から「登録実践研修機関」および「登録日本語教員養成機関」の認定を受けています。そのため，本学の「登録日本語教員養成課程（実践研修・養成課程）」を修了することで，「登録日本語教員試験」の基礎試験および実践研修が免除され，応用試験にのみ合格することで「登録日本語教員」の資格を取得することが可能です。

履修方法

106ページの登録日本語教員養成課程（実践研修・養成課程）の修了要件に従い単位を修得してください。

実践研修

本学では，「日本語指導 A」または「日本語指導 B」を修得することが修了の要件となります。なお，実践研修科目には履修に関する要件があります。（106ページ参照）

修了証書の発行

「登録日本語教員養成課程」科目の必要単位数を修得した者には，養成課程修了証書を，「実践研修」科目の必要単位数を修得した者には，実践研修修了証書を発行します。

養成課程修了要件：科目表

各区分ごとに必修，選択必修の必要単位数を満たし，合計36単位以上を修得すること。

	区分	履修方法	本学開講科目	単位数	修得すべき単位数	履修可能最低年次	設置学科	実践研修前に修得すべき単位数
養成課程	言語 言語と社会	必修	日本語学の世界	2	2	1	N	2
			日本語教育文法 A	2	2	1	N	2
			日本語教育文法 B	2	2	1	N	
	言語と教育		日本語教材論 A	2	2	2	N	2
			日本語教材論 B	2	2	2	N	
	社会・文化・地域	選択必修	日本語教育概説	2	4	1	N	2
			日本語教育史	2		1	N	
			日本語教育入門	2		1	N	
			応用演習 I（日本語教育分野）	2		3	N	
			応用演習 II（日本語教育分野）	2		3	N	
			多文化共生社会とこども	2	4	1	N	
			多文化共生とこども	2		2	GS・GK	
			異文化体験論	2		1	GK	
			社会と外国語教育 A	2		（注1）	E・N	
			社会と外国語教育 B	2		3	E・N	
	言語と心理		第二言語習得論 I	2	4	3	E	
			第二言語習得論 II	2		3	E	
			外国語教育論 I	2		2	E・N	
			外国語教育論 II	2		2	E・N	
	言語と教育		日本語教授法 A	2	4	2	N	4
			日本語教授法 B	2		2	N	
			日本語教育基礎演習 A	2		2	N	
			日本語教育基礎演習 B	2		2	N	
			日本文化と日本語教育	2	2	2	N	2
			Introduction to Intercultural Communication ／異文化間コミュニケーション入門	2		1	K	
			異文化理解	2		3	GS	
			異文化間コミュニケーション論	2		1	共通学芸	
	言語 言語と社会		言語学	2	2	2	N	
			言語学入門	2		1	E	
			日英対照言語研究	2		3	E・N	
			日中対照言語研究	2		3	N	
			日本語学基礎演習 A	2	4	2	N	2
			日本語学基礎演習 B	2		2	N	
			日本語の文法 I	2		2	N	
			日本語の文法 II	2		2	N	
			日本語の語彙 I	2		2	N	
			日本語の語彙 II	2		2	N	
			日本語の音声	2		2	N	
			日本語の運用	2		2	N	
			日本語の表記	2		2	N	
			コーパス日本語学	2		2	N	
	社会・文化・地域		Bilingualism ／バイリンガリズム論	2	2	3	K	
			留学生と知る日本	2		2	E	
			Multiculturalism in Modern Society ／現代社会と多文化主義	2		3	K	
			グローバル社会論	2		3	GS	
			日本文学の世界	2		1	N	
			現代社会と宗教	2		2	GS	
			世界のこども政策	2		2	GS・GK	
			文化人類学概論	2		1	GS・GK	
			文化人類学	2		1	共通学芸	
			マンガ文化論 A	2		2	MS	
			マンガ文化論 B	2		2	MS	
			インターンシップ II	2		3	N	
		合計			36			16

（注 1 ）英語英文学科は 3 年次，それ以外の学科は 2 年次。

実践研修修了要件：科目表

「日本語指導 A」「日本語指 B」から 2 単位以上選択必修。

		履修方法	本学開講科目	単位数	修得すべき単位数	履修可能最低年次	設置学科
実践研修		選択必修	日本語指導 A	2	2	3	N
			日本語指導 B	2		3	N
		合計			2		

実践研修科目　履修要件

「日本語指導 A」「日本語指導 B」の履修には，各科目のシラバスで示された対象プログラムを，すでに修了しているか，当該学期中に修了する必要があります。また，対象プログラムに応募するには，上記の「実践研修前に修得すべき単位数」欄に記載された必要単位を修得済みであることが要件となります。（合計 8 科目16単位）詳細はシラバスおよび対象プログラムの応募資料を確認してください。

日本語教師養成課程（2024～2025年度入学生適用）

履修方法

次の 2 コースを設定しています。

日本語教師養成課程（主専攻）：文化審議会国語分科会の日本語教師【養成】における教育内容の必須の教育内容（1）～ (50) を46単位以上の修得で満たすコース

日本語教師養成課程（副専攻）：文化審議会国語分科会の日本語教師【養成】における教育内容の必須の教育内容（1）～ (50) を26単位以上の修得で満たすコース

以下の日本語教師養成課程（主専攻），日本語教師養成課程（副専攻）修了要件に従い単位を修得してください。

証明書の発行

必要な単位を修得した者には，本学卒業時に「修了証書」が授与されます。（修了証書は申込不要です。）また，「単位修得証明書」を発行することができます。希望者は，免許・資格課の窓口で申し込みをしてください。発行日は申込日より 1 週間後です。なお本証明書は卒業後も発行可能です。

日本語教育機関の告示基準の策定に伴う注意事項

法務省が定めた「日本語教育機関の告示基準」（2017年 8 月 1 日施行）で，国内の日本語教育機関（いわゆる日本語学校）における日本語教員の要件が変更され，日本語教育に関する教育課程における教育実習の履修が義務付けられました。

本学日本語教師養成課程（主専攻）および（副専攻）で教育実習に該当するのは以下の科目です。

「日本語指導Ａ」「日本語指導Ｂ」

日本語教師養成課程（主専攻）修了要件

・日本語教師養成課程（主専攻）Ⅰ～Ⅹの区分それぞれの必要単位数以上を修得し，合計46単位以上を修得すること。
・「日本語教育概説」必修。
・「日本語指導Ａ」「日本語指導Ｂ」から 2 単位以上選択必修。
※108～109ページの科目表で確認してください。

日本語教師養成課程（副専攻）修了要件

・日本語教師養成課程（副専攻）Ⅰ～Ⅷの区分それぞれの必要単位数以上を修得し，合計26単位以上を修得すること。
・「日本語教育概説」および「日本語学の世界」必修。
・「日本語指導 A」「日本語指導 B」から2単位以上選択必修。
※110ページの科目表で確認してください。

経過措置について

2024年度に施行された「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」（令和 5 年法律第41号）により，日本語教育機関の認定制度，および認定された機関で日本語を指導するために必要な「登録日本語教員」の資格制度が設けられました。

登録日本語教員の資格を取得するためには，日本語教員試験（基礎試験と応用試験）に合格し，文部科学大臣の登録を受けた登録実践研修機関が実施する実践研修を修了する必要があります。ただし，2033年 3 月31日までの経過措置として，必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程等として文部科学省の確認を受けた養成課程等を修了し，かつ学士以上の学位を有する方は，日本語教員試験の基礎試験と実践研修が免除されます。本学の日本語教師養成課程（2021年度入学生～2025年度入学生適用課程）は，経過措置【Cルート】の必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程等として，文部科学省により確認されています。

日本語教師養成課程（主専攻）修了要件：科目表（2024〜2025年度入学生適用）

	必須の教育内容	必要単位数	本学開講科目	単位数	履修可能最低年次	設置学科	履修方法
Ⅰ	(1) 世界と日本の社会と文化	6	Global Education ／国際教育論	2	(注3)	K	
			Japanese Traditional Arts and Aesthetics ／日本の伝統芸能と美	2	3	K	
			Modern Japanese Literature inTranslation ／英訳で読む近現代日本文学	2	1	K	
			Asian Culture ／アジア文化論	2	3	K	
			国際交流史	2	3	GS	
			日本の歴史Ⅰ（2024年度入学生適用）	2	3	GS	
			日本の歴史Ⅱ（2024年度入学生適用）	2	3	GS	
			日本の歴史（2025年度以降入学生適用）	2	3	GS	
			宗教と世界史	2	2	GS	
			グローバル社会論	2	3	GS	
			アジア地域文化論	2	2	GS	
			アメリカ地域文化論	2	2	GS	
			オセアニア地域文化論	2	2	GS	
			ヨーロッパ地域文化論Ⅰ（2024年度入学生適用）（廃止　注1）	2	2	GS	
			ヨーロッパ地域文化論Ⅱ（2024年度入学生適用）（廃止　注1）	2	2	GS	
			ヨーロッパ地域文化論　(注2)	2	2	GS	
			ラテンアメリカ地域文化論	2	2	GS	
			アフリカ地域文化論	2	2	GS	
			京ことば	2	1	E・N	
			文学と表象	2	1	E・N	
			文化と表象	2	1	E・N	
			表象された京都	2	1	E・N	
			日本文化史A	2	1	N	
			日本文化史B	2	1	N	
			日本文学の世界	2	1	N	
			近現代文学史A	2	1	N	
			近現代文学史B	2	1	N	
			古典文学史A	2	1	N	
			古典文学史B	2	1	N	
			文化交流史	2	1	共通学芸	
			国際関係論A	2	1	共通学芸	
			国際関係論B	2	1	共通学芸	
			日本の歴史と文化A	2	1	共通学芸	
			日本の歴史と文化B	2	1	共通学芸	
			ヨーロッパの歴史と文化B	2	1	共通学芸	
			日本文化論	2	1	共通学芸	
Ⅱ	(2) 日本の在留外国人政策 (3) 多文化共生（地域社会における共生） (4) 日本語教育史 (5) 言語政策 (6) 日本語の試験 (7) 世界と日本の日本語教育事情	4	Multiculturalism in Modern Society ／現代社会と多文化主義	2	3	K	
			多文化共生とこども	2	2	GS・GK	
			日本語教育概説	2	1	N	必修
			日本語教育史	2	1	N	
			日本語教育入門	2	1	N	
			インターンシップⅡ	2	3	N	
Ⅲ	(8) 社会言語学 (9) 言語政策と「ことば」 (10) コミュニケーションストラテジー (11) 待遇・敬意表現 (12) 言語・非言語行動 (13) 多言語・多文化主義	4	社会言語学	2	3	E	
			ジェンダーとコミュニケーション	2	2	E	
			社会と外国語教育A	2	(注4)	E・N	
			社会と外国語教育B	2	3	E・N	
			日本語の運用	2	2	N	
Ⅳ	(14) 談話理解 (15) 言語学習 (16) 習得過程（第一言語・第二言語） (17) 学習ストラテジー (29) 中間言語分析	2	第二言語習得論Ⅰ	2	3	E	
			第二言語習得論Ⅱ	2	3	E	
			外国語教育論Ⅰ	2	2	E・N	
			外国語教育論Ⅱ	2	2	E・N	
Ⅴ	(20) 日本語教師の資質・能力 (21) 日本語教育プログラムの理解と実践 (22) 教室・言語環境の設定 (23) コースデザイン (24) 教授法 (25) 教材分析・作成・開発 (26) 評価法 (27) 授業計画 (30) 授業分析・自己点検能力 (31) 目的・対象別日本語教育法 (35) 日本語教育と ICT (36) 著作権	6	日本語教授法A	2	2	N	
			日本語教授法B	2	2	N	
			日本語教育基礎演習A	2	2	N	
			日本語教育基礎演習B	2	2	N	
			日本語教材論A	2	2	N	
			日本語教材論B	2	2	N	
			多文化共生社会とこども	2	1	E・N	
Ⅵ	(28) 教育実習	2	日本語指導A	2	3	N	2単位以上選択必修
			日本語指導B	2	3	N	

	必須の教育内容	必要単位数	本学開講科目	単位数	履修可能最低年次	設置学科	履修方法
Ⅶ	(18) 異文化受容・適応 (19) 日本語の学習・教育の情意的側面 (32) 異文化間教育 (33) 異文化コミュニケーション (34) コミュニケーション教育 (46) 受容・理解能力 (47) 言語運用能力 (48) 社会文化能力 (49) 対人関係能力 (50) 異文化調整能力	4	留学生と知る日本	2	2	E・N	
			Media and Cross-cultural Communication	2	2	MS	
			Introduction to InterculturalCommunication／異文化間コミュニケーション入門	2	1	K	
			異文化理解	2	3	GS	
			異文化体験論	2	1	GK	
			言語学入門	2	1	E	
			コミュニケーション学入門	2	1	E	
			プラクティカルコミュニケーション	2	2	E	
			日本文化と日本語教育	2	2	N	
			異文化間コミュニケーション論	2	1	共通学芸	
			文化人類学	2	1	共通学芸	
Ⅷ	(37) 一般言語学 (38) 対照言語学	4	Introduction to Linguistics／言語学概論（廃止　注1）	2	2	K	
			Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語（廃止　注1）	2	2	K	
			コーパス言語学	2	2	E	
			日英対照言語研究	2	3	E・N	
			言語学	2	2	N	
			日中対照言語研究	2	3	N	
Ⅸ	(39) 日本語教育のための日本語分析 (40) 日本語教育のための音韻・音声 (41) 日本語教育のための文字と表記 (42) 日本語教育のための形態・語彙体系 (43) 日本語教育のための文法体系 (44) 日本語教育のための意味彙体系 (45) 日本語教育のための語用論的規範	8	日本語教育文法A	2	1	N	
			日本語教育文法B	2	1	N	
			日本語学の世界	2	1	N	
			日本語の歴史	2	2	N	
			日本語の文法Ⅰ	2	2	N	
			日本語の文法Ⅱ	2	2	N	
			日本語の語彙Ⅰ	2	2	N	
			日本語の語彙Ⅱ	2	2	N	
			日本語の音声	2	2	N	
			日本語の表記	2	2	N	
			コーパス日本語学	2	2	N	
			日本語学テーマ研究A	2	2	N	
			日本語学テーマ研究B	2	2	N	
			日本語学テーマ研究C	2	2	N	
			日本語学基礎演習A	2	2	N	
			日本語学基礎演習B	2	2	N	
Ⅹ	その他	6	コンピュータ活用基礎	2	1	MS	
			ネットワーク概論	2	1	MS	
			International Gender Studies／国際ジェンダー論（2024年度入学生適用）	2	3	K	
			Gender and International Politics／ジェンダーと国際政治（2025年度以降入学生適用）	2	3	K	
			ジェンダー論	2	2	GS・GK	
			世界の貧困問題とこども支援	2	2	GS・GK	
			世界のこども政策	2	2	GS・GK	
			こどもと法　（廃止　注1）	2	2	GS・GK	
			海外こども事情A	2	2	GK	
			海外こども事情B	2	2	GK	
			教育課程論	2	2	GK	
			教育方法と技術（ICTの活用を含む）	2	2	GK	
			学習環境デザイン	2	2	GK	
			コミュニケーションデザイン	2	2	GK	
			発達と学習の心理学	2	2	GK・教職	
			教育の原理	2	2	GK・教職	
			教育の制度と経営	2	2	GK・教職	
			教育課程論	1	2	教職	
			教育方法及び技術（ICTの活用を含む）	2	3	教職	
			児童英語教育法	2	3	E	
			朗読	2	2	N	
			スピーチ	2	2	N	
			プレゼンテーション	2	2	N	
			ウェブ・デザイン	2	3	N	
			編集技術Ⅰ	2	2	N	
			編集技術Ⅱ	2	2	N	
			ジェンダーと表象	2	1	E・N	
			子ども心理学	2	2	L	
			世界の子どもたち	2	3	L	
			くらしのためのICT活用Ⅰ	2	1	L	
			くらしのためのICT活用Ⅱ	2	2	L	
			食物栄養系のICT・データサイエンスⅠ	2	1	S・SK	
			食物栄養系のICT・データサイエンスⅡ	2	2	S・SK	
			臨床心理学	2	1	共通学芸	
		46					

（注１）廃止科目であっても，修得済みの単位はそれぞれの区分で有効となる。
（注２）「ヨーロッパ地域文化論Ⅰ」を修得済みの場合は，履修不可。
（注３）2024年度入学生は２年次，2025年度以降入学生は３年次。
（注４）英語英文学科は３年次，それ以外の学科は２年次。

日本語教師養成課程（副専攻）修了要件：科目表（2024～2025年度入学生適用）

	必須の教育内容	必要単位数	本学開講科目	単位数	履修可能最低年次	設置学科	履修方法
Ⅰ	(1) 世界と日本の社会と文化 (2) 日本の在留外国人政策 (3) 多文化共生（地域社会における共生） (4) 日本語教育史 (5) 言語政策 (6) 日本語の試験 (7) 世界と日本の日本語教育事情	4	Multiculturalism in Modern Society ／現代社会と多文化主義	2	3	K	
			文学と表象	2	1	E・N	
			文化と表象	2	1	E・N	
			インターンシップⅡ	2	3	N	
			日本語教育概説	2	1	N	必修
			日本語教育史	2	1	N	
			日本文学の世界	2	1	N	
			文化交流史	2	1	共通学芸	
Ⅱ	(8) 社会言語学 (9) 言語政策と「ことば」 (10) コミュニケーションストラテジー (11) 待遇・敬意表現 (12) 言語・非言語行動 (13) 多言語・多文化主義	4	社会言語学	2	3	E	
			社会と外国語教育A	2	(注1)	E・N	
			社会と外国語教育B	2	3	E・N	
			日本語の運用	2	2	N	
Ⅲ	(14) 談話理解 (15) 言語学習 (16) 習得過程（第一言語・第二言語） (17) 学習ストラテジー (29) 中間言語分析	2	外国語教育論Ⅰ	2	2	E・N	
			外国語教育論Ⅱ	2	2	E・N	
			第二言語習得論Ⅰ	2	3	E	
			第二言語習得論Ⅱ	2	3	E	
Ⅳ	(20) 日本語教師の資質・能力 (21) 日本語教育プログラムの理解と実践 (22) 教室・言語環境の設定 (23) コースデザイン (24) 教授法 (25) 教材分析・作成・開発 (26) 評価法 (27) 授業計画 (30) 授業分析・自己点検能力 (31) 目的・対象別日本語教育法 (35) 日本語教育と ICT (36) 著作権	6	日本語教授法A	2	2	N	
			日本語教授法B	2	2	N	
			日本語教育基礎演習A	2	2	N	
			日本語教育基礎演習B	2	2	N	
			日本語教材論A	2	2	N	
			日本語教材論B	2	2	N	
			多文化共生社会とこども	2	1	E・N	
Ⅴ	(28) 教育実習	2	日本語指導A	2	3	N	2単位以上選択必修
			日本語指導B	2	3	N	
Ⅵ	(18) 異文化受容・適応 (19) 日本語の学習・教育の情意的側面 (32) 異文化理解教育 (33) 異文化コミュニケーション (34) コミュニケーション教育 (46) 受容・理解能力 (47) 言語運用能力 (48) 社会文化能力 (49) 対人関係能力 (50) 異文化調整能力	2	留学生と知る日本	2	2	E・N	
			Media and Cross-Cultural Communication	2	2	MS	
			異文化体験論	2	1	GK	
			プラクティカルコミュニケーション	2	2	E	
			日本文化と日本語教育	2	2	N	
			異文化間コミュニケーション論	2	1	共通学芸	
Ⅶ	(37) 一般言語学 (38) 対照言語学	2	日英対照言語研究	2	3	E・N	
			言語学	2	2	N	
			日中対照言語研究	2	3	N	
Ⅷ	(39) 日本語教育のための日本語分析 (40) 日本語教育のための音韻・音声 (41) 日本語教育のための文字と表記 (42) 日本語教育のための形態・語彙体系 (43) 日本語教育のための文法体系 (44) 日本語教育のための意味彙体系 (45) 日本語教育のための語用論的規範	4	日本語教育文法A	2	1	N	
			日本語教育文法B	2	1	N	
			日本語学の世界	2	1	N	必修
			日本語の表記	2	2	N	
			日本語の文法Ⅰ	2	2	N	
			日本語の文法Ⅱ	2	2	N	
		26					

（注１）英語英文学科は３年次，それ以外の学科は２年次。

日本語教師養成課程（2021～2023年度入学生適用）

履修方法

次の 2 コースを設定しています。

日本語教師養成課程（主専攻）：文化審議会国語分科会の日本語教師【養成】における教育内容の必須の教育内容（1）～ (50) を46単位以上の修得で満たすコース

日本語教師養成課程（副専攻）：文化審議会国語分科会の日本語教師【養成】における教育内容の必須の教育内容（1）～ (50) を26単位以上の修得で満たすコース

以下の日本語教師養成課程（主専攻），日本語教師養成課程（副専攻）修了要件に従い単位を修得してください。

証明書の発行

必要な単位を修得した者には，本学卒業時に「修了証書」が授与されます。（修了証書は申込不要です。）また，「単位修得証明書」を発行することができます。希望者は，免許・資格課の窓口で申し込みをしてください。発行日は申込日より 1 週間後です。なお本証明書は卒業後も発行可能です。

日本語教育機関の告示基準の策定に伴う注意事項

法務省が定めた「日本語教育機関の告示基準」（2017年 8 月 1 日施行）で，国内の日本語教育機関（いわゆる日本語学校）における日本語教員の要件が変更され，日本語教育に関する教育課程における教育実習の履修が義務付けられました。

本学日本語教師養成課程（主専攻）および（副専攻）で教育実習に該当するのは以下の科目です。

「日本語指導Ａ」「日本語指導Ｂ」

日本語教師養成課程（主専攻）修了要件

・日本語教師養成課程（主専攻）Ⅰ～Ⅹの区分それぞれの必要単位数以上を修得し，合計46単位以上を修得すること。
・「日本語教育概説」必修。
・「日本語指導Ａ」「日本語指導Ｂ」から 2 単位以上選択必修。
※112～113ページの科目表で確認してください。

日本語教師養成課程（副専攻）修了要件

・日本語教師養成課程（副専攻）Ⅰ～Ⅷの区分それぞれの必要単位数以上を修得し，合計26単位以上を修得すること。
・「日本語教育概説」および「日本語学の世界」必修。
・「日本語指導 A」「日本語指導 B」から2単位以上選択必修。
※114ページの科目表で確認してください。

経過措置について

2024年度に施行された「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」（令和 5 年法律第41号）により，日本語教育機関の認定制度，および認定された機関で日本語を指導するために必要な「登録日本語教員」の資格制度が設けられました。

登録日本語教員の資格を取得するためには，日本語教員試験（基礎試験と応用試験）に合格し，文部科学大臣の登録を受けた登録実践研修機関が実施する実践研修を修了する必要があります。ただし，2033年 3 月31日までの経過措置として，必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程等として文部科学省の確認を受けた養成課程等を修了し，かつ学士以上の学位を有する方は，日本語教員試験の基礎試験と実践研修が免除されます。本学の日本語教師養成課程（2021年度入学生～2025年度入学生適用課程）は，経過措置【Cルート】の必須の教育内容50項目に対応した日本語教員養成課程等として，文部科学省により確認されています。

日本語教師養成課程（主専攻）修了要件：科目表（2021～2023年度入学生適用）

	必須の教育内容	必要単位数	本学開講科目	単位数	履修可能最低年次	設置学科	履修方法
Ⅰ	(1) 世界と日本の社会と文化	6	Global Education ／国際教育論	2	2	K	
			Japanese Traditional Arts and Aesthetics ／日本の伝統芸能と美	2	3	K	
			Modern Japanese Literature inTranslation ／英訳で読む近現代日本文学	2	1	K	
			Asian Culture ／アジア文化論	2	3	K	
			国際交流史	2	3	GS	
			日本の歴史Ⅰ	2	3	GS	
			日本の歴史Ⅱ	2	3	GS	
			宗教と世界史	2	2	GS	
			グローバル社会論	2	3	GS	
			アジア地域文化論	2	2	GS	
			アメリカ地域文化論	2	2	GS	
			オセアニア地域文化論	2	2	GS	
			ヨーロッパ地域文化論Ⅰ （廃止　注1）	2	2	GS	
			ヨーロッパ地域文化論Ⅱ （廃止　注1）	2	2	GS	
			ヨーロッパ地域文化論	2	2	GS	
			ヨーロッパの人と社会 （廃止　注1）	2	2	GS	
			ヨーロッパの人と文化 （廃止　注1）	2	2	GS	
			ラテンアメリカ地域文化論	2	2	GS	
			アフリカ地域文化論	2	2	GS	
			比較文化・文学研究A （廃止　注1）	2	3	E	
			比較文化・文学研究B （廃止　注1）	2	3	E	
			京ことば	2	1	E・N	
			日本文化史A	2	1	N	
			日本文化史B	2	1	N	
			日本文学の世界	2	1	N	
			近現代文学史A	2	1	N	
			近現代文学史B	2	1	N	
			古典文学史A	2	1	N	
			古典文学史B	2	1	N	
			文化交流史	2	1	共通学芸	
			国際関係論A	2	1	共通学芸	
			国際関係論B	2	1	共通学芸	
			日本の歴史と文化A	2	1	共通学芸	
			日本の歴史と文化B	2	1	共通学芸	
			ヨーロッパの歴史と文化B	2	1	共通学芸	
			日本文化論	2	1	共通学芸	
Ⅱ	(2) 日本の在留外国人政策 (3) 多文化共生（地域社会における共生） (4) 日本語教育史 (5) 言語政策 (6) 日本語の試験 (7) 世界と日本の日本語教育事情	4	Multiculturalism in Modern Society ／現代社会と多文化主義	2	3	K	
			多文化共生とこども	2	2	GS・GK	
			日本語教育概説	2	1	N	必修
			日本語教育史	2	1	N	
			日本語教育入門	2	1	N	
			インターンシップⅡ	2	3	N	
Ⅲ	(8) 社会言語学 (9) 言語政策と「ことば」 (10) コミュニケーションストラテジー (11) 待遇・敬意表現 (12) 言語・非言語行動 (13) 多言語・多文化主義	4	社会言語学	2	3	E	
			ジェンダーとコミュニケーション	2	2	E	
			社会と外国語教育A	2	(注2)	E・N	
			社会と外国語教育B	2	3	E・N	
			日本語の運用	2	2	N	
Ⅳ	(14) 談話理解 (15) 言語学習 (16) 習得過程（第一言語・第二言語） (17) 学習ストラテジー (29) 中間言語分析	2	第二言語習得論Ⅰ	2	3	E	
			第二言語習得論Ⅱ	2	3	E	
			外国語教育論Ⅰ	2	2	E・N	
			外国語教育論Ⅱ	2	2	E・N	
Ⅴ	(20) 日本語教師の資質・能力 (21) 日本語教育プログラムの理解と実践 (22) 教室・言語環境の設定 (23) コースデザイン (24) 教授法 (25) 教材分析・作成・開発 (26) 評価法 (27) 授業計画 (30) 授業分析・自己点検能力 (31) 目的・対象別日本語教育法 (35) 日本語教育と ICT (36) 著作権	6	日本語教授法A	2	2	N	
			日本語教授法B	2	2	N	
			日本語教育基礎演習A	2	2	N	
			日本語教育基礎演習B	2	2	N	
			日本語教材論A	2	2	N	
			日本語教材論B	2	2	N	
Ⅵ	(28) 教育実習	2	日本語指導A	2	3	N	2単位以上選択必修
			日本語指導B	2	3	N	

	必須の教育内容	必要単位数	本学開講科目	単位数	履修可能最低年次	設置学科	履修方法
Ⅶ	(18) 異文化受容・適応 (19) 日本語の学習・教育の情意的側面 (32) 異文化間教育 (33) 異文化コミュニケーション (34) コミュニケーション教育 (46) 受容・理解能力 (47) 言語運用能力 (48) 社会文化能力 (49) 対人関係能力 (50) 異文化調整能力	4	Media and Cross-cultural Communication	2	2	MS	
			Introduction to InterculturalCommunication／異文化間コミュニケーション入門	2	1	K	
			異文化理解	2	3	GS	
			異文化体験論	2	1	GK	
			言語コミュニケーション入門Ⅰ	2	1	E	
			言語コミュニケーション入門Ⅱ	2	1	E	
			プラクティカルコミュニケーション	2	2	E	
			日本文化と日本語教育	2	2	N	
			異文化間コミュニケーション論	2	1	共通学芸	
			文化人類学	2	1	共通学芸	
Ⅷ	(37) 一般言語学 (38) 対照言語学	4	Introduction to Linguistics／言語学概論 （廃止 注1）	2	2	K	
			Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語 （廃止 注1）	2	2	K	
			応用言語学 （廃止 注1）	2	3	E	
			コーパス言語学	2	2	E	
			日英対照言語研究	2	3	E・N	
			言語学	2	2	N	
			日中対照言語研究	2	3	N	
Ⅸ	(39) 日本語教育のための日本語分析 (40) 日本語教育のための音韻・音声 (41) 日本語教育のための文字と表記 (42) 日本語教育のための形態・語彙体系 (43) 日本語教育のための文法体系 (44) 日本語教育のための意味彙体系 (45) 日本語教育のための語用論的規範	8	日本語教育文法A	2	1	N	
			日本語教育文法B	2	1	N	
			日本語学の世界	2	1	N	
			日本語の歴史	2	2	N	
			日本語の文法Ⅰ	2	2	N	
			日本語の文法Ⅱ	2	2	N	
			日本語の語彙Ⅰ	2	2	N	
			日本語の語彙Ⅱ	2	2	N	
			日本語の音声	2	2	N	
			日本語の表記	2	2	N	
			コーパス日本語学	2	2	N	
			日本語学テーマ研究A	2	2	N	
			日本語学テーマ研究B	2	2	N	
			日本語学テーマ研究C	2	2	N	
			日本語学基礎演習A	2	2	N	
			日本語学基礎演習B	2	2	N	
X	その他	6	コンピュータ活用基礎	2	1	MS	
			ネットワーク概論	2	1	MS	
			International Gender Studies／国際ジェンダー論	2	3	K	
			ジェンダー論	2	2	GS・GK	
			世界の貧困問題とこども支援	2	2	GS・GK	
			世界のこども政策	2	2	GS・GK	
			こどもと法 （廃止 注1）	2	2	GS・GK	
			海外こども事情A	2	2	GK	
			海外こども事情B	2	2	GK	
			教育課程論	2	2	GK	
			教育方法と技術（2021年度以前入学生適用）	2	2	GK	
			教育方法と技術（ICTの活用を含む）(2022年度以降入学生適用)	2	2	GK	
			学習環境デザイン	2	2	GK	
			コミュニケーションデザイン	2	2	GK	
			発達と学習の心理学	2	2	GK・教職	
			教育の原理	2	2	GK・教職	
			教育の制度と経営	2	2	GK・教職	
			教育課程論	1	2	教職	
			教育方法及び技術（2021年度以前入学生適用）	2	3	教職	
			教育方法及び技術（ICTの活用を含む）(2022年度以降入学生適用)	2	3	教職	
			児童英語教育法Ⅰ （廃止 注1）	2	3	E	
			児童英語教育法Ⅱ （廃止 注1）	2	3	E	
			児童英語教育法	2	3	E	
			朗読	2	2	N	
			スピーチ	2	2	N	
			プレゼンテーション	2	2	N	
			ウェブ・デザイン	2	3	N	
			編集技術Ⅰ	2	2	N	
			編集技術Ⅱ	2	2	N	
			子ども心理学	2	2	L	
			社会心理学 （廃止 注1）	2	2	L	
			親子関係の心理学 （廃止 注1）	2	2	L	
			世界の子どもたち	2	3	L	
			情報処理Ⅰ	2	1	L・S・SK	
			情報処理Ⅱ	2	2	L・S・SK	
			臨床心理学	2	1	共通学芸	
		46					

（注１）廃止科目であっても，修得済みの単位はそれぞれの区分で有効となる。
（注２）英語英文学科は３年次，それ以外の学科は２年次。

日本語教師養成課程（副専攻）修了要件：科目表（2021～2023年度入学生適用）

	必須の教育内容	必要単位数	本学開講科目	単位数	履修可能最低年次	設置学科	履修方法
Ⅰ	(1) 世界と日本の社会と文化	4	Multiculturalism in Modern Society ／現代社会と多文化主義	2	3	K	
	(2) 日本の在留外国人政策		インターンシップⅡ	2	3	N	
	(3) 多文化共生（地域社会における共生）		日本語教育概説	2	1	N	必修
	(4) 日本語教育史		日本語教育史	2	1	N	
	(5) 言語政策		日本文学の世界	2	1	N	
	(6) 日本語の試験		文化交流史	2	1	共通学芸	
	(7) 世界と日本の日本語教育事情						
Ⅱ	(8) 社会言語学	4	社会言語学	2	3	E	
	(9) 言語政策と「ことば」		社会と外国語教育A	2	(注1)	E・N	
	(10) コミュニケーションストラテジー		社会と外国語教育B	2	3	E・N	
	(11) 待遇・敬意表現		日本語の運用	2	2	N	
	(12) 言語・非言語行動						
	(13) 多言語・多文化主義						
Ⅲ	(14) 談話理解	2	外国語教育論Ⅰ	2	2	E・N	
	(15) 言語学習		外国語教育論Ⅱ	2	2	E・N	
	(16) 習得過程（第一言語・第二言語）		第二言語習得論Ⅰ	2	3	E	
	(17) 学習ストラテジー		第二言語習得論Ⅱ	2	3	E	
	(29) 中間言語分析						
Ⅳ	(20) 日本語教師の資質・能力	6	日本語教授法A	2	2	N	
	(21) 日本語教育プログラムの理解と実践		日本語教授法B	2	2	N	
	(22) 教室・言語環境の設定		日本語教育基礎演習A	2	2	N	
	(23) コースデザイン		日本語教育基礎演習B	2	2	N	
	(24) 教授法		日本語教材論A	2	2	N	
	(25) 教材分析・作成・開発		日本語教材論B	2	2	N	
	(26) 評価法						
	(27) 授業計画						
	(30) 授業分析・自己点検能力						
	(31) 目的・対象別日本語教育法						
	(35) 日本語教育と ICT						
	(36) 著作権						
Ⅴ	(28) 教育実習	2	日本語指導A	2	3	N	2単位以上選択必修
			日本語指導B	2	3	N	
Ⅵ	(18) 異文化受容・適応	2	Media and Cross-Cultural Communication	2	2	MS	
	(19) 日本語の学習・教育の情意的側面		異文化体験論	2	1	GK	
	(32) 異文化理解教育		プラクティカルコミュニケーション	2	2	E	
	(33) 異文化コミュニケーション		日本文化と日本語教育	2	2	N	
	(34) コミュニケーション教育		異文化間コミュニケーション論	2	1	共通学芸	
	(46) 受容・理解能力						
	(47) 言語運用能力						
	(48) 社会文化能力						
	(49) 対人関係能力						
	(50) 異文化調整能力						
Ⅶ	(37) 一般言語学	2	日英対照言語研究	2	3	E・N	
	(38) 対照言語学		言語学	2	2	N	
			日中対照言語研究	2	3	N	
Ⅷ	(39) 日本語教育のための日本語分析	4	日本語教育文法A	2	1	N	
	(40) 日本語教育のための音韻・音声		日本語教育文法B	2	1	N	
	(41) 日本語教育のための文字と表記		日本語学の世界	2	1	N	必修
	(42) 日本語教育のための形態・語彙体系		日本語の表記	2	2	N	
	(43) 日本語教育のための文法体系		日本語の文法Ⅰ	2	2	N	
	(44) 日本語教育のための意味彙体系		日本語の文法Ⅱ	2	2	N	
	(45) 日本語教育のための語用論的規範						
		26					

（注1）英語英文学科は3年次，それ以外の学科は2年次。

上級情報処理士（2025年度以降入学生適用）（メディア創造学科／社会システム学科　学生対象）

上級情報処理士の称号は，下記の科目の単位を科目履修規程に従って修得し，所定の手続を完了した学生に対して，一般財団法人全国大学実務教育協会が使用を認める資格です。

規程に従い単位を修得すれば，一般財団法人全国大学実務教育協会により，高度な情報処理技術，ビジネスで活用されるソフトウエア技能，組織や情報を活用する技能を身に付けた者であると認められることになります。

科目履修規程

1．次ページの表の●は必修科目であることを示す。必修 8 単位を修得すること。

2．次ページの表の○は選択科目であることを示す。選択科目から16単位以上修得すること。

3．総計24単位以上修得すること。

（注）

（申請手続き）

必要な単位を修得した学生は，学年にかかわらず，称号を得るための申請手続を取ることができます。申請手続に関する案内は，年 2 回（ 6 月および11月頃），公式サイトにて周知します。

（申請料）

7,700円　※前年度実績。変更される場合があります。

（認定証の交付）

・ 6 月に申請した場合は，10月ごろに認定証の交付を行います。

・11月に申請した場合は，翌年 4 月ごろ（卒業年次生は卒業式当日）に交付されます。

（注意事項）

本資格は履修中科目を含めた「単位修得見込」でも申請手続ができますが，卒業までに単位を修得できなかった場合，納入された申請料は一切返金されません。

本資格では，2023年度より「到達目標達成度評価制度」が導入されました。申請する学生は，各資格で定められている到達目標の達成状況を自己評価方式で評価表に記載し，提出する必要があります（詳細は申請手続きを行った方に案内します）。

	授業科目名	開設学科	単位	メディア	社会	備考
領域1	情報倫理	MS	2	●	○	
	ソーシャルメディア論	MS	2	○	○	
	コンピュータ活用基礎	MS	2	○		
	マルチメディア論	MS	2	○	○	
	WEB 技術演習	MS	2	○		
	グラフィック・WEB 基礎演習	MS	2	○		
	写真・動画基礎演習	MS	2	○		
	メディア文化史	MS	2	○	○	
	3DCG 演習	MS	2	○		
	3DCG アニメーション演習	MS	2	○		
	デジタルアーカイブス	MS	2	○		
	情報学	GS	2	○	●	
	社会情報論	GS	2	○	○	
	情報リテラシー実習Ⅰ	GS	2		○	
	情報リテラシー実習Ⅱ	GS	2		○	
	情報リテラシー実習Ⅲ	GS	2		○	
	情報リテラシー実習Ⅴ	GS	2		○	
	博物館情報・メディア論	GS	2	○	○	
領域2	ソフトウエア概論	MS	2	●		
	ネットワーク概論	MS	2	●		
	コンピュータ科学	MS	2	○		
	情報ネットワーク	MS	2	○		
	データベース論	MS	2	○		
	情報数学	MS	2	○	○	
	情報ネットワーク応用Ⅰ	MS	2	○		
	情報ネットワーク応用Ⅱ	MS	2	○		
	プログラミングＡⅠ	MS	2	○		
	プログラミングＡⅡ	MS	2	○		
	情報セキュリティ	MS	2	○		
	WEB プログラミング	MS	2	○		
	情報ネットワーク基礎	GS	2	○	●	
	情報リテラシー実習Ⅳ	GS	2		●	
	地域調査法	GS	2		○	
	マーケティング調査法	GS	2		○	
	AI の社会実装	GS	2	○	○	
	AI 実践演習	GS	2	○	○	
領域3	メディア創造基礎演習Ｃ	MS	2	●		
	プロジェクトプランニング演習Ⅰ	MS	2	○		
	プロジェクトプランニング演習Ⅱ	MS	2	○		
	IT ビジネス研究	MS	2	○	○	
	情報ビジネス起業論	MS	2	○	○	
	プロデュース論Ａ	MS	2	○		
	プロデュース論Ｂ	MS	2	○		
	インターンシップⅡ	MS	2	○		
	応用演習Ⅰ	GS	2		●	
	応用演習Ⅱ	GS	2		○	
	IT とベンチャービジネス	GS	2	○	○	
	専門基礎演習	GS	2		○	
	プロジェクト演習Ⅰ（A）～(F)	GS	各2		○	
	プロジェクト演習Ⅱ（A）～(F)	GS	各2		○	
	ライフデザイニング	GS	2		○	
	インターンシップⅠＡ	共通学芸	1	○	○	
	インターンシップⅠＢ	共通学芸	2	○	○	

上級情報処理士（2021～2024年度入学生適用）（メディア創造学科／社会システム学科　学生対象）

上級情報処理士の称号は，下記の科目の単位を科目履修規程に従って修得し，所定の手続を完了した学生に対して，一般財団法人全国大学実務教育協会が使用を認める資格です。

規程に従い単位を修得すれば，一般財団法人全国大学実務教育協会により，高度な情報処理技術，ビジネスで活用されるソフトウエア技能，組織や情報を活用する技能を身に付けた者であると認められることになります。

科目履修規程

1．次ページの表の●は必修科目であることを示す。必修 8 単位を修得すること。

2．次ページの表の○は選択科目であることを示す。選択科目から16単位以上修得すること。

3．総計24単位以上修得すること。

（注）

（申請手続き）

必要な単位を修得した学生は，学年にかかわらず，称号を得るための申請手続を取ることができます。申請手続に関する案内は，年 2 回（ 6 月および11月頃），公式サイトにて周知します。

（申請料）

7,700円　※前年度実績。変更される場合があります。

（認定証の交付）

・ 6 月に申請した場合は，10月ごろに認定証の交付を行います。

・11月に申請した場合は，翌年 4 月ごろ（卒業年次生は卒業式当日）に交付されます。

（注意事項）

本資格は履修中科目を含めた「単位修得見込」でも申請手続ができますが，卒業までに単位を修得できなかった場合，納入された申請料は一切返金されません。

本資格では，2023年度より「到達目標達成度評価制度」が導入されました。申請する学生は，各資格で定められている到達目標の達成状況を自己評価方式で評価表に記載し，提出する必要があります（詳細は申請手続きを行った方に案内します）。

	授業科目名	開設学科	単位	メディア	社会	備考
領域1	情報倫理	MS	2	●	○	
	ソーシャルメディア論	MS	2	○	○	
	コンピュータ活用基礎	MS	2	○		
	マルチメディア論	MS	2	○	○	
	WEB 技術演習	MS	2	○		
	グラフィック・WEB 基礎演習	MS	2	○		
	写真・動画基礎演習	MS	2	○		
	メディア文化史	MS	2	○	○	
	3DCG 演習	MS	2	○		
	3DCG アニメーション演習	MS	2	○		
	デジタルアーカイブス	MS	2	○		
	情報学	GS	2	○	●	
	社会情報論	GS	2	○	○	
	情報活用実習Ⅰ	GS	2		○	廃止（注1）
	情報活用実習Ⅱ	GS	2		○	廃止（注1）
	情報活用実習Ⅲ	GS	2		○	廃止（注1）
	情報活用実習Ⅴ	GS	2		○	廃止（注1）
	情報リテラシー実習Ⅰ	GS	2		○	
	情報リテラシー実習Ⅱ	GS	2		○	
	情報リテラシー実習Ⅲ	GS	2		○	
	情報リテラシー実習Ⅴ	GS	2		○	
	博物館情報・メディア論	GS	2	○	○	
領域2	ソフトウエア概論	MS	2	●		
	ネットワーク概論	MS	2	●		
	コンピュータ科学	MS	2	○		
	情報ネットワーク	MS	2	○		
	データベース論	MS	2	○		
	情報数学	MS	2	○	○	
	情報ネットワーク応用Ⅰ	MS	2	○		
	情報ネットワーク応用Ⅱ	MS	2	○		
	プログラミングＡⅠ	MS	2	○		
	プログラミングＡⅡ	MS	2	○		
	情報セキュリティ	MS	2	○		
	WEB プログラミング	MS	2	○		
	情報ネットワーク基礎	GS	2	○	●	
	情報活用実習Ⅳ	GS	2		●	廃止（注1）
	情報リテラシー実習Ⅳ	GS	2		●	
	地域調査法	GS	2		○	
	社会福祉調査法	GS	2		○	廃止（注1）
	マーケティング調査法	GS	2		○	
	AI の社会実装	GS	2	○	○	
	AI 実践演習	GS	2	○	○	
領域3	メディア創造基礎演習Ｃ	MS	2	●		
	プロジェクトプランニング演習Ⅰ	MS	2	○		
	プロジェクトプランニング演習Ⅱ	MS	2	○		
	IT ビジネス研究	MS	2	○	○	
	情報ビジネス起業論	MS	2	○	○	
	プロデュース論Ａ	MS	2	○		
	プロデュース論Ｂ	MS	2	○		
	応用演習Ⅰ	GS	2		●	
	応用演習Ⅱ	GS	2		○	
	IT とベンチャービジネス	GS	2	○	○	
	専門基礎演習	GS	2		○	
	プロジェクト演習Ⅰ	GS	2		○	廃止（注1）
	プロジェクト演習Ⅱ	GS	2		○	
	プロジェクト演習Ⅰ（Ａ）～（Ｆ）	GS	各2		○	
	ライフデザイニング	GS	2		○	
	インターンシップⅠＡ	共通学芸	1	○	○	
	インターンシップⅠＢ	共通学芸	2	○	○	
	インターンシップⅡ	GS・MS	2	○	○	

（注１）廃止科目であっても，修得済みの単位はそれぞれの区分で有効となる。
（注２）「情報活用実習Ⅰ～Ⅴ」を修得済みの場合は，対応する「情報リテラシー実習Ⅰ～Ⅴ」は履修不可。

ウェブデザイン実務士（2020年度以降入学生適用）（メディア創造学科　学生対象）

ウェブデザイン実務士の称号は，下記の科目の単位を科目履修規程に従って修得し，所定の手続を完了した学生に対して，一般財団法人全国大学実務教育協会が使用を認める資格です。

規程に従い単位を修得すれば，一般財団法人全国大学実務教育協会により，インターネットに関する知識やウェブサイトの構築に必要な専門的手法を習得し，コンテンツを制作できる技能を持つ者であると認められることになります。

科目履修規程

1．必修科目をすべて修得すること。
2．選択科目から，12単位以上修得すること。
（注）

（申請手続き）

必要な単位を修得した学生は，学年にかかわらず，称号を得るための申請手続を取ることができます。申請手続に関する案内は，年２回（６月および11月），公式サイトにて周知します。

（申請料）

5,500円　※前年度実績。変更される場合があります。

（認定証の交付）

・６月に申請した場合は，10月ごろに認定証の交付を行います。
・11月に申請した場合は，翌年４月ごろ（卒業年次生は卒業式当日）に交付されます。

（注意事項）

本資格は履修中科目を含めた「単位修得見込」でも申請手続ができますが，卒業までに単位を修得できなかった場合，納入された申請料は一切返金されません。

本資格では，2023年度より「到達目標達成度評価制度」が導入されました。申請する学生は，各資格で定められている到達目標の達成状況を自己評価方式で評価表に記載し，提出する必要があります（詳細は申請手続きを行った方に案内します）。

		本学開講科目	授業方法	単位	備考
必修科目	領域1	ネットワーク概論	演習	2	
		WEB 技術演習	演習	2	
	領域2	グラフィック・WEB 基礎演習	演習	2	
		WEB デザイン演習	演習	2	
	領域3	WEB プログラミング	演習	2	
選択科目	領域1	データベース論	演習	2	
		現代美術演習	演習	2	
		情報倫理	講義	2	
		情報数学	講義	2	
		ソフトウエア概論	演習	2	
		コンピュータ活用基礎	演習	2	
		コンピュータ科学	演習	2	
		情報ネットワーク	演習	2	
		プログラミング Ａ Ⅰ	演習	2	
	領域2	写真・動画基礎演習	演習	2	
		3 DCG 演習	演習	2	
		プログラミング Ａ Ⅲ	演習	2	
		音楽表現論	演習	2	
	領域3	情報ビジネス起業論	講義	2	

観光実務士
（社会システム学科　学生対象）

観光実務士の称号は，下記の科目の単位を科目履修規程に従って修得し，所定の手続を完了した学生に対して，一般財団法人全国大学実務教育協会が使用を認める資格です。

規程に従い単位を修得すれば，一般財団法人全国大学実務教育協会により，観光業務で活かせる知識と実務能力を身に付けた者であると認められることになります。

科目履修規程

1．表の●は必修科目であることを示す。必修 8 単位を修得すること。
2．表の○は選択科目であることを示す。選択科目から12単位以上修得すること。
3．総計20単位以上修得すること。

【注意事項】

（申請手続き）

必要な単位を修得した学生は，年次にかかわらず，称号を得るための申請手続を取ることができます。

申請手続に関する案内は，年 2 回（ 6 月および11月頃），Web サイトにて周知します。

（申請料）

5,500円　※前年度実績。変更される場合があります。

（認定証の交付）

・ 6 月に申請した場合は，10月ごろに認定証の交付を行います。
・11月に申請した場合は，翌年 4 月ごろ（卒業年次生は卒業式当日）に交付されます。

（取得見込み申請）

本資格は履修中科目を含めた「単位修得見込」でも申請手続ができますが，卒業までに単位を修得できなかった場合，納入された申請料は一切返金されません。

	本学開講科目	単位数	履修方法	備考
領域1	京都観光学概論	2	●	
	京都観光論	2	○	
領域2	観光経営論	2	●	
	観光社会論	2	○	
	京都の文化財論	2	○	
	京都文化論	2	○	
	京都伝統芸能論	2	○	
	観光地域事業論	2	○	
	観光地理論	2	○	
	マーケティング論	2	○	
	マーケティング調査法	2	○	
	ホスピタリティマネジメント論	2	○	
	観光マーケティング論	2	●	
	国際観光論	2	○	
領域3	観光イノベーション論	2	●	
	京都・大阪・奈良フィールドワーク	2	○	
	プロジェクト演習Ⅰ	2	○	廃止（注１）
	プロジェクト演習Ⅱ	2	○	
	プロジェクト演習Ⅰ（B）	2	○	
	プロジェクト演習Ⅱ（B）	2	○	2025年度以降入学生適用
	プロジェクト演習Ⅰ（F）	2	○	
	プロジェクト演習Ⅱ（F）	2	○	2025年度以降入学生適用

（注１）廃止科目であっても，修得した単位はそれぞれの区分で有効。

社会福祉主事
（任用資格）

社会福祉主事任用資格は，「社会福祉法」第18，19条において規定された資格です。大学において以下のような「社会福祉主事に関する指定科目」を修めて卒業した者が，都道府県，市町村の行政職や福祉職等の公務員試験に合格して，福祉事務所等のケースワーカーに採用される場合にいきてくる資格です。いわゆる任用資格とされるものです。また，最近では，老人福祉施設や児童福祉施設などの指導員や社会福祉協議会の福祉活動専門員もこの資格を取得することが望ましいとされています。採用条件になることもあり，福祉の職場で働く人の基礎的資格と言えます。

社会福祉主事の資格に関する科目指定

昭和25．8．29厚生省告示第226号
改正　昭和56．厚生省告示第18号
平成11．厚生省告示第52号
平成12．厚生省告示第153号

社会福祉主事の設置に関する法律（昭和25年法律第182号）第２条第１項第１号の規定による社会福祉主事に関する科目を次のように指定する。

〈社会福祉主事の資格に関する科目指定〉

社会福祉主事に関する科目として34科目指定され，この中から３科目以上の単位を修得すればよいことになっています。３科目以上を修得したことは成績証明書および卒業証明書で確認されます。

社会福祉概論，社会福祉事業史，社会福祉援助技術論，社会福祉調査論，社会福祉施設経営論，社会福祉行政論，社会保障論，公的扶助論，児童福祉論，家庭福祉論，保育理論，身体障害者福祉論，知的障害者福祉論，精神障害者保健福祉論，老人福祉論，医療社会事業論，地域福祉論，法学，民法，行政法，経済学，社会政策，経済政策，心理学，社会学，教育学，倫理学，公衆衛生学，医学一般，リハビリテーション論，看護学，介護概論，栄養学，家政学

〈「社会福祉主事の資格に関する科目指定」の読み替えの範囲に適合する本学設置科目〉

平成12年９月13日・社援第2073号，都道府県知事等宛の厚生省社会・援護局長通知によって，上記「社会福祉主事の資格に関する科目指定」の読み替えの範囲が示され，平成25年３月28日・社援発0328第３号，令和２年３月６日・社援発0306第28号，同通知によって一部改正が行われました。その読み替えの範囲に適合する本学設置科目は次のとおりです。

「読み替え科目に適合する本学設置科目」の単位をそれぞれの分類（「資格に関する指定科目」）から１科目（＊の科目は２科目）以上修得し，資格に関する指定科目として３科目以上の単位を修得すること（在学中に修得した単位であること）。本学設置科目から３科目ではなく，指定科目３科目の単位を修得しなければならない。

（※）他大学で修得した単位や本学の科目等履修制度によって修得した単位は全て無効のため，注意すること。

資格に関する指定科目	読み替え科目に適合する本学設置科目名	開設学科	他学科履修	履修可能最低年次	備考
社会福祉概論	社会福祉学Ｂ	ＳＫ	×	2	
	社会福祉学Ａ（2010～2021年度入学生適用）	Ｌ	○（ＳＫ×）	2	廃止
	社会福祉論（2024年度以前入学生適用）	ＧＳ，ＧＫ	○	2	
	社会福祉学概論（2025年度以降入学生適用）	ＧＳ，ＧＫ	×	1	
社会福祉援助技術論	社会福祉支援論	ＧＳ	○	3	
	相談援助	ＧＫ	×	2	廃止
社会福祉調査論	社会福祉調査法	ＧＳ	×	2	廃止
社会保障論	社会保障論	ＧＳ	○	2	
児童福祉論	こども福祉論	ＧＳ，ＧＫ	○	2	廃止
	こども家庭福祉	ＧＳ，ＧＫ	○	2	こども福祉論の単位修得者は履修不可
	子ども家庭危機支援論	Ｌ	○	2	廃止
	児童福祉論	Ｌ	○	3	社会福祉学Ａの単位修得者は履修不可
家庭福祉論	家族福祉学（2022年度以降入学生適用）	Ｌ	○（ＳＫ×）	1	子ども家庭危機支援論の単位修得者は履修不可
保育理論	保育原理	ＧＫ	×	1	
	保育学	Ｓ	×	1	

資格に関する指定科目	読み替え科目に適合する本学設置科目名	開設学科	他学科履修	履修可能最低年次	備考
法学	法学概論	GS	×(GK○)	1	
行政法	行政法	GS	○	2	廃止
経済学	経済学概論	GS	×(GK○)	1	
社会政策	社会政策	GS	○	3	
経済政策	経済政策論	GS	○	3	
社会学	社会学概論	GS，GK	×	1	
教育学	教育学概論	GS，GK	×	1	
	教育の原理	(備考参照)	−(SK×)	2	開設学科：教職（中高・養護），GK
倫理学	倫理学概論	GS，GK	×	1	廃止
公衆衛生学	公衆衛生学	KG	○	2	
	公衆衛生学	S	○(SK×)	3	
	＊公衆衛生学Ⅰ ＊公衆衛生学Ⅱ	SK	×	2	
		SK	×	3	
医学一般	医学概論	O	×	2	
看護学	看護学概論	KG	○	1	
介護概論	介護概論	L	○	2	廃止
	介護論	L	○	2	介護概論の単位修得者は履修不可
	介護概説	共通学芸	○	1	
栄養学	基礎栄養学	KG	○	1	
	栄養学	S	○(SK×)	2	
	＊基礎栄養学Ⅰ（2021年度以前入学生適用） ＊基礎栄養学Ⅱ（2021年度以前入学生適用）	SK	×	1	廃止
		SK	×	2	廃止
	基礎栄養学（2022年度以降入学生適用）	SK	×	1	
民法	＊民法Ⅰ ＊民法Ⅱ	GS	○	2	
		GS	○	2	
心理学	＊心理学A ＊心理学B	共通学芸	○	1	
		共通学芸	○	1	

（注１）＊の「公衆衛生学Ⅰ」と「公衆衛生学Ⅱ」はセットで１科目，「基礎栄養学Ⅰ」と「基礎栄養学Ⅱ」はセットで１科目，「民法Ⅰ」と「民法Ⅱ」はセットで１科目，「心理学A」と「心理学B」はセットで１科目とみなす。
（注２）廃止科目であっても，修得済の単位は有効である。

ピアヘルパー

特定非営利活動法人日本教育カウンセラー協会主催の「ピアヘルパー」認定試験を本学で実施します。

ピアとは仲間や友達という意味で，ピアヘルパーとは，心理学やカウンセリングについて一定の知識を有した上で，人間関係を中心とした仕事や活動において他者の成長を助ける人という意味です。ピアヘルパーの活動領域としては，教師などの教育分野，また，看護や福祉関係の職業，あるいは，教育・福祉ボランティア活動等が想定されます。実務経験を経て初級教育カウンセラーの資格を取得する道もひらけます。

下記科目のうち，4単位以上の単位を修得済か履修中である本学正規学生に限り，12月上～中旬に本学で実施する筆記試験を受験することができます。受験の申し込みは，10月頃免許・資格課にて受け付けます。受験料として4,800円（前年度実績）が必要です。下記科目4単位以上修得済の試験合格者には，特定非営利活動法人日本教育カウンセラー協会より合格証が授与されます。

本学開設科目	単位	開設学科・専攻	他学科履修	履修可能最低年次	備考
臨床心理学	2	共通学芸科目	－	1	
臨床の心理学A	2	ＯＢ	×	4	廃止
臨床の心理学B	2	ＯＢ	×	4	廃止
臨床心理学A	2	ＯＢ	×	4	
臨床心理学B	2	ＯＢ	×	4	
心理臨床学	2	ＧＳ	○	2	
教育課程論	1	教職（中高・養護・栄養）	－	2	
教育課程論	2	ＧＫ	×	2	
幼児教育課程総論	2	ＧＫ	×	2	
保育カリキュラム論	2	ＧＫ	×	2	
特別活動論	1	教職（中高・養護）	－	2	
特別活動論	2	ＧＫ	×	3	
道徳教育・特別活動論	1	教職（栄養）	－	2	
生徒指導（2018年度以前入学生に適用） 生徒指導（進路指導を含む）（2019年度以降入学生に適用）	2	教職（中高）	－	3	
児童理解と指導(2018年度以前入学生に適用) 児童理解と生徒・進路指導（2019年度以降入学生に適用）	2	ＧＫ	×	2	
幼児理解	2	ＧＫ	×	3	2021年度以前入学生適用
こども理解の理論と方法	2	ＧＫ	×	3	2022年度以降入学生適用
生徒指導論（2017年度以前入学生に適用） 生徒指導（2018年度入学生に適用） 生徒指導（進路指導を含む）（2019年度以降入学生に適用）	2	教職（養護・栄養）	－	3	
発達と学習の心理学	2	教職（全課程）・共通学芸	－	2	
教育相談	2	教職（全課程）	－	3	（旧：教育カウンセリング）
対人関係心理学	2	ＧＳ・ＧＫ	○	2	
ジェンダーの社会心理学	2	ＧＳ	○（L ×）	3	2024年度以前入学生適用
ジェンダーの社会心理学	2	Ｌ	○(GS･GK ×)	3	廃止
くらしのジェンダー論	2	Ｌ	○(GS･GK ×)	3	
コミュニティ社会心理学	2	Ｌ	○	2	廃止
現代青年の心理と行動	2	ＧＳ	○（L ×）	2	
現代青年の心理と行動	2	Ｌ	○(GS･GK ×)	2	廃止
現代青年心理学	2	Ｌ	○(GS･GK ×)	3	廃止
親子関係の心理学	2	Ｌ	○	2	廃止
子ども心理学	2	Ｌ	○	2	

※廃止科目であっても，修得済みの単位は有効である。

日本音楽療法学会認定音楽療法士（受験資格）（音楽学科　音楽文化専攻　学生対象）

音楽療法士とは，病気や障がいのある人または健康な人などに対し，音楽のもつ生理的，心理的な作用を通して，身体的，心理的，社会的により良い状態への回復，維持，改善を図る専門家です。主な実践の場は，病院，福祉施設，老人ホームなどです。また，教育現場や社会教育の場でも実践が可能です。

本学では，「日本音楽療法学会認定音楽療法士　受験資格」と，「全国音楽療法士養成協議会認定音楽療法士（１種）資格（称号)」(2010年度より養成所として認定）の，２つの資格が取得可能です。

本課程履修希望者は，以下の諸注意を読み課程履修科目表に従い履修計画を立ててください。

日本音楽療法学会認定音楽療法士資格の取得方法

音楽療法士の資格を得るには，一般社団法人日本音楽療法学会「カリキュラムに関するガイドライン」により，下記の条件をそなえなければなりません。

⑴本学を卒業すること。

⑵「日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）認定試験」受験資格取得のための，本学所定科目の単位を修得していること。

⑶１月頃（予定）に実施される「日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）認定試験」に合格すること。

音楽療法士（補）認定試験を受験する学生は，「音楽療法士（補）認定試験実施要項」（４年次の11月頃に配付予定）を音楽学科事務室で受け取り各自で申請を行ってください。

申請には以下の書類が必要です。

①受験申請書

②受験申請用単位修得証明書

③受験票送付用の返信用封筒

④受験手数料振込控のコピー

受験料１万円（前年度実績）が必要です。

⑷上記⑶の合格者に対して３月頃（予定）実施される，面接等の試験に合格すること。

合格すると別途登録料が必要になります。

（注意事項）

標記の資格について一本化が進められます。これに伴う変更点は次の通りです。

（補）資格・試験の方法

・2025年度（主として2022年度入学生が受験）まで上記の資格試験制度が実施されます。
　上記（3）の合格者に（補）資格が付与され，「面接・実技試験」が受験可能となります。
・2026年度（主として2023年度入学生が受験）より新制度の資格試験制度が実施されます。
　「筆記試験と実技・面接試験」を受験します。（補）資格は付与されません。

（補）資格取得者について

・（補）資格取得者については廃止・失効せず（補）資格は存続します。
・（補）資格取得者は2026年度以降も「実技・面接試験」のみで受験可能です。

音楽療法実習

⑴必修科目として，音楽療法に関する実習（大学における事前・事後指導と学内外における実習）を行います。

音楽療法士（補）認定試験を受験するためには，３年次の「音楽療法実習Ⅰ」，「音楽療法実習Ⅱ」，４年次の「音楽療法実習Ⅲ」が必修科目となります。学内外での現場実習は，各科目とも５日間またはそれに相当する時間を予定しています。

⑵実習が本学の講義期間中に行われ，平常の授業に出席できない場合には，免許・資格課で発行する「公欠届」を申請し，実習開始前に当該授業担当者に提出してください。

<2025年度以降入学生適用>（音楽文化専攻）

日本音楽療法学会の定めるカリキュラムガイドライン科目				単位	本学開設科目	単位	期間時間	履修年次	備　考
音楽分野（必修24単位を含む32単位）	理論	必修	音楽理論／通論	4	楽典	1	半2	1	
					和声法Ⅰ～Ⅵ　※注1	各1	半2	注3	
			和声学	2	和声法Ⅲ～Ⅷ　※注1	各1	半2	注3	
					キーボードハーモニー	2	半2	2	
			音楽心理学	2	音楽心理学	2	半2	1	
			日本の音楽	2	音楽通史B	2	半2	1	
	実技		ソルフェージュ	2	ソルフェージュⅠ	1	半2	1	
					ソルフェージュⅡ	1	半2	1	
			ピアノ	2	副科ピアノⅠ	1	半1/2	1	
					副科ピアノⅡ	1	半1/2	1	
			声楽	2	副科声楽Ⅰ	1	半1/2	1	
					副科声楽Ⅱ	1	半1/2	1	
			器楽（管，弦，打楽器）	2	副科管弦打楽器Ⅰ～Ⅷ	各1	半1/2	1～4	2単位選択必修
					リコーダー演習	1	半2	2	
					ギター演習	1	半2	3	
					合奏Ⅰ～Ⅷ　※注2	各1	半2	1	
			合唱	2	合唱Ⅰ	1	半2	1	
					合唱Ⅱ	1	半2	1	
			合奏	2	合奏Ⅰ～Ⅷ　※注2	各1	半2	1	2単位選択必修
					古楽器演習（ブロックフレーテ）	1	半2	3	
					古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1	半2	3	
					古楽器合奏Ⅰ	1	半2	4	
					古楽器合奏Ⅱ	1	半2	4	
			指揮法	2	指揮法基礎	2	半2	3	2単位選択必修
					指揮法応用	2	半2	3	
	理論	選択（ガイドライン科目において4科目8単位以上を修得する事）	美学（音楽）	2	音楽美学	2	半2	2	
			編曲法	2	作曲法（編曲法を含む）	1	半2	4	
					音楽創作（作曲）A	2	半2	2	
					音楽創作（作曲）B	2	半2	2	
			鍵盤和声（コード伴奏法）	2	－	－	－	－	
			対位法	2	対位法Ⅰ	1	半2	3	
					対位法Ⅱ	1	半2	3	
					対位法Ⅲ	1	半2	4	
					対位法Ⅳ	1	半2	4	
			音楽構成論	2	アナリーゼⅠ	2	半2	3	
			楽式論	2	和声法Ⅴ　※注1	1	半2	2	
					和声法Ⅵ　※注1	1	半2	2	
					和声法Ⅶ　※注1	1	半2	3	
					和声法Ⅷ　※注1	1	半2	3	
			楽曲分析	2	アナリーゼⅡ	2	半2	3	
			演奏解釈	2	－	－	－	－	
			芸術社会学	2	音楽と諸芸術	2	半2	1	（共通学芸科目）
			音楽社会学	2	音楽社会学	2	半2	1	
			音楽教育学	2	音楽科教科教育法基礎	2	半2	3	
			コンピューター音楽	2	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	
					音楽創作（DTM）Ⅰ	2	半2	2	
					音楽創作（DTM）Ⅱ	2	半2	2	
			西洋音楽史	2	音楽通史A	2	半2	1	
			西洋音楽史各論	2	音楽史（中世からバロック）	2	半2	3	
					音楽史（古典派）	2	半2	2	
					音楽史（ロマン派）	2	半2	2	
					音楽史（近・現代）	2	半2	3	
			演奏様式論	2	音楽史学	2	半2	2	
			民族音楽学	2	民族の音楽	2	半2	2	
			芸能論	2	日本古典芸能A	2	半2	1	（共通学芸科目）
					日本古典芸能B	2	半2	1	
	実技		ギター	2	－	－	－	－	
			リトミック	2	リトミックⅠ	2	半2	1	
					リトミックⅡ	2	半2	1	
					本学開設科目における必要修得単位数　32単位				

日本音楽療法学会の定める カリキュラムガイドライン科目				単位	本学開設科目	単位	期間 時間	履修 年次	備　考
音楽療法分野（30単位）	理論	必修	音楽療法概論	2	音楽療法概論	2	半2	1	
	音楽療法1 （基礎）		音楽療法の理論と技法	4	音楽療法基礎Ⅰ	2	半2	2	
					音楽療法基礎Ⅱ	2	半2	2	
	音楽療法2 （臨床）		音楽療法各論Ⅰ	2	音楽文化基礎演習Ⅱ	2	半2	1	
			音楽療法各論Ⅱ	2	音楽療法各論A	2	半2	3	
			音楽療法各論Ⅲ	2	音楽療法各論B	2	半2	3	
	音楽療法3 （技能）		技能Ⅰ	2	音楽療法技能演習	2	半2	2	
			技能Ⅱ	2	音楽療法演習Ⅰ	2	半2	3	
			技能Ⅲ	2	音楽療法演習Ⅱ	2	半2	3	
	演習・ 実習		演習	2	音楽療法（グループ体験）	2	半2	1	
			実習	6	音楽療法実習Ⅰ	2	半2	3	
					音楽療法実習Ⅱ	2	半2	3	
					音楽療法実習Ⅲ	2	半2	4	
	卒業論文		卒業論文	4	音楽文化卒業研究Ⅰ	2	半2	4	
					音楽文化卒業研究Ⅱ	2	半2	4	
					本学開設科目における必要修得単位数　30単位				
医学・心理学分野（10単位）		必修	医学概論	2	医学概論	2	半2	2	
			臨床医学各論Ⅰ	2	臨床医学A	2	半2	4	
			臨床医学各論Ⅱ	2	臨床医学B	2	半2	4	
			臨床心理学Ⅰ	2	臨床心理学A	2	半2	4	
			臨床心理学Ⅱ	2	臨床心理学B	2	半2	4	
					本学開設科目における必要修得単位数　10単位				
福祉・教育分野（8単位）		必修	社会福祉概論	2	社会保障と福祉	2	半2	1	（共通学芸科目）
			発達心理学	2	発達と学習の心理学	2	半2	2	（教職課程科目）
			障害児教育	2	特別支援教育	2	半2	2	
			介護概論	2	介護概説	2	半2	1	（共通学芸科目）
					本学開設科目における必要修得単位数　8単位				
その他 （8単位）	語学	必修	語学	8	外国語区分科目	8	半2	1〜2	（外国語科目）
					本学開設科目における必要修得単位数　8単位				
合計88単位					合計88単位				

※注1　本学開設科目「和声法Ⅰ〜Ⅷ」については，ガイドライン科目の「音楽理論／通論」「和声学」「楽式論」に開設されているが，同一科目を複数のガイドライン科目の単位として使用することはできない。（いずれかのガイドライン科目の単位としてのみ有効）

※注2　本学開設科目「合奏Ⅰ〜Ⅷ」については，ガイドライン科目の「器楽（管，弦，打楽器）」と「合奏」に開設されているが，同一科目を複数のガイドライン科目の単位として使用することはできない。（いずれかのガイドライン科目の単位としてのみ有効）

※注3　履修年次は学部の履修要項を参照すること。

＜2021～2024年度入学生適用＞（音楽文化専攻）

日本音楽療法学会の定めるカリキュラムガイドライン科目				単位	本学開設科目	単位	期間時間	履修年次	備　考
音楽分野（必修24単位を含む32単位）	理論	必修	音楽理論／通論	4	楽典	2	半2	1	
					和声法Ⅰ～Ⅵ　※注1	各1	半2	注3	
			和声学	2	和声法Ⅲ～Ⅷ　※注1	各1	半2	注3	
			音楽心理学	2	音楽心理学	2	半2	1	
			日本の音楽	2	音楽通史Ｂ	2	半2	1	
	実技		ソルフェージュ	2	ソルフェージュⅠ	1	半2	1	
					ソルフェージュⅡ	1	半2	1	
			ピアノ	2	副科ピアノⅠ	1	半1/2	1	
					副科ピアノⅡ	1	半1/2	1	
			声楽	2	副科声楽Ⅰ	1	半1/2	1	
					副科声楽Ⅱ	1	半1/2	1	
			器楽（管，弦，打楽器）	2	副科管弦打楽器Ⅰ	1	半1/2	2	2単位選択必修
					副科管弦打楽器Ⅱ	1	半1/2	2	
					副科管弦打楽器Ⅲ	1	半1/2	3	
					副科管弦打楽器Ⅳ	1	半1/2	3	
					副科管弦打楽器Ⅴ	1	半1/2	4	
					副科管弦打楽器Ⅵ	1	半1/2	4	
					リコーダー演習	1	半2	2	
					ギター演習	1	半2	3	
					合奏Ⅰ～Ⅷ　※注2	各1	半2	1	
			合唱	2	合唱Ⅰ	1	半2	1	
					合唱Ⅱ	1	半2	1	
			合奏	2	合奏Ⅰ～Ⅷ　※注2	各1	半2	1	
					古楽器演習（ブロックフレーテ）	1	半2	3	
					古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	1	半2	3	2単位選択必修
					古楽器合奏Ⅰ	1	半2	4	
					古楽器合奏Ⅱ	1	半2	4	
			指揮法	2	指揮法基礎	2	半2	3	2単位選択必修
					指揮法応用	2	半2	3	
	理論	選択（ガイドライン科目において4科目8単位以上を修得する事）	美学（音楽）	2	音楽美学	2	半2	2	
			編曲法	2	作曲法（編曲法を含む）	1	半2	4	
					音楽創作（作曲）Ａ	2	半2	2	旧科目名：音楽創作Ａ
					音楽創作（作曲）Ｂ	2	半2	2	旧科目名：音楽創作Ｂ
			鍵盤和声（コード伴奏法）	2	キーボードハーモニー	2	半2	2	
			対位法	2	対位法Ⅰ	1	半2	3	
					対位法Ⅱ	1	半2	3	
					対位法Ⅲ	1	半2	4	
					対位法Ⅳ	1	半2	4	
			音楽構成論	2	アナリーゼⅠ	2	半2	3	
			楽式論	2	和声法Ⅴ　※注1	1	半2	2	
					和声法Ⅵ　※注1	1	半2	2	
					和声法Ⅶ　※注1	1	半2	3	
					和声法Ⅷ　※注1	1	半2	3	
			楽曲分析	2	アナリーゼⅡ	2	半2	3	
			演奏解釈	2	－	－	－	－	
			芸術社会学	2	音楽と諸芸術	2	半2	1	（共通学芸科目）
			音楽社会学	2	音楽社会学	2	半2	1	
			音楽教育学	2	音楽科教科教育法基礎	2	半2	3	
			コンピューター音楽	2	コンピュータ音楽演習	2	半2	2	
					音楽創作（DTM）Ⅰ	2	半2	2	旧科目名：コンピュータミュージッククリエイションⅠ
					音楽創作（DTM）Ⅱ	2	半2	2	旧科目名：コンピュータミュージッククリエイションⅡ
			西洋音楽史	2	音楽通史Ａ	2	半2	1	
			西洋音楽史各論	2	音楽史（中世からバロック）	2	半2	3	
					音楽史（古典派）	2	半2	2	
					音楽史（ロマン派）	2	半2	2	
					音楽史（近・現代）	2	半2	3	
			演奏様式論	2	音楽史学	2	半2	2	
			民族音楽学	2	民族の音楽	2	半2	2	
			芸能論	2	日本古典芸能Ａ	2	半2	1	（共通学芸科目）
					日本古典芸能Ｂ	2	半2	1	
	実技		ギター	2	－	－	－	－	
			リトミック	2	リトミックⅠ	2	半2	1	
					リトミックⅡ	2	半2	1	
					本学開設科目における必要修得単位数　32単位				

日本音楽療法学会の定める カリキュラムガイドライン科目				単位	本学開設科目	単位	期間時間	履修年次	備　考
音楽療法分野（30単位）	理論	必修	音楽療法概論	2	音楽療法概論	2	半2	1	
	音楽療法1（基礎）		音楽療法の理論と技法	4	音楽療法基礎Ⅰ	2	半2	2	
					音楽療法基礎Ⅱ	2	半2	2	
	音楽療法2（臨床）		音楽療法各論Ⅰ	2	音楽文化基礎演習	2	半2	1	
			音楽療法各論Ⅱ	2	音楽療法各論A	2	半2	3	
			音楽療法各論Ⅲ	2	音楽療法各論B	2	半2	3	
	音楽療法3（技能）		技能Ⅰ	2	音楽療法技能演習	2	半2	2	
			技能Ⅱ	2	音楽療法演習AⅠ	2	半2	3	2単位選択必修
					音楽療法演習BⅠ	2	半2	3	
			技能Ⅲ	2	音楽療法演習AⅡ	2	半2	3	2単位選択必修
					音楽療法演習BⅡ	2	半2	3	
	演習・実習		演習	2	音楽療法（グループ体験）	2	半2	1	
			実習	6	音楽療法実習Ⅰ	2	半2	3	
					音楽療法実習Ⅱ	2	半2	3	
					音楽療法実習Ⅲ	2	半2	4	
	卒業論文		卒業論文	4	音楽文化卒業研究Ⅰ	2	半2	4	
					音楽文化卒業研究Ⅱ	2	半2	4	
					本学開設科目における必要修得単位数　30単位				
医学・心理学分野（10単位）		必修	医学概論	2	医学概論	2	半2	2	
			臨床医学各論Ⅰ	2	臨床医学A	2	半2	4	
			臨床医学各論Ⅱ	2	臨床医学B	2	半2	4	
			臨床心理学Ⅰ	2	臨床心理学A	2	半2	4	
			臨床心理学Ⅱ	2	臨床心理学B	2	半2	4	
					本学開設科目における必要修得単位数　10単位				
福祉・教育分野（8単位）		必修	社会福祉概論	2	社会保障と福祉	2	半2	1	（共通学芸科目）
			発達心理学	2	発達と学習の心理学	2	半2	2	（教職課程科目）
			障害児教育	2	特別支援教育	2	半2	2	
			介護概論	2	介護概説	2	半2	1	（共通学芸科目）
					本学開設科目における必要修得単位数　8単位				
その他（8単位）	語学	必修	語学	8	外国語区分科目	8	半2	1～2	（外国語科目）
					本学開設科目における必要修得単位数　8単位				
合計88単位					合計88単位				

※注1　本学開設科目「和声法Ⅰ～Ⅷ」については，ガイドライン科目の「音楽理論／通論」「和声学」「楽式論」に開設されているが，同一科目を複数のガイドライン科目の単位として使用することはできない。（いずれかのガイドライン科目の単位としてのみ有効）

※注2　本学開設科目「合奏Ⅰ～Ⅷ」については，ガイドライン科目の「器楽（管，弦，打楽器）」と「合奏」に開設されているが，同一科目を複数のガイドライン科目の単位として使用することはできない。（いずれかのガイドライン科目の単位としてのみ有効）

※注3　履修年次は学部の履修要項を参照すること。

全国音楽療法士養成協議会認定音楽療法士（1種）（音楽学科　音楽文化専攻　学生対象）

音楽療法士とは，病気や障がいのある人または健康な人などに対し，音楽のもつ生理的，心理的な作用を通して，身体的，心理的，社会的により良い状態への回復，維持，改善を図る専門家です。主な実践の場は，病院，福祉施設，老人ホームなどです。また，教育現場や社会教育の場でも実践が可能です。

本学では，「日本音楽療法学会認定音楽療法士　受験資格」と，「全国音楽療法士養成協議会認定音楽療法士（１種）資格（称号)」（2010年度より養成所として認定）の，２つの資格が取得可能です。

全国音楽療法士養成協議会認定音楽療法士（１種）について

本学は2010年４月より「全国音楽療法士養成協議会音楽療法士（１種)」養成所として認定されました。所定科目の単位を修得すると「音楽療法士（１種)」の資格（称号）を取得することができます。

本課程履修希望者は，以下の諸注意を読み課程履修科目表に従い履修計画を立ててください。

全国音楽療法士養成協議会認定音楽療法士（１種）資格の取得方法

音楽療法士（１種）の資格（称号）を得るには，全国音楽療法士養成協議会の定める規定に基づき，下記の条件をそなえなければなりません。

⑴本学を卒業すること。

⑵「全国音楽療法士養成協議会音楽療法士（１種)」の資格（称号）取得のための本学所定科目の単位を修得していること。

科目表に従い，音楽に関する分野，音楽療法に関する分野，音楽療法の関連分野，音楽療法実習から，合計71単位以上（分野区分，科目群ごとの必要単位数も満たすこと）を修得すること。

科目表に従い，教養関連科目から，24単位以上（外国語コミュニケーション４単位，情報処理２単位を含むこと）を修得すること。

⑶音楽療法士（１種）の資格（称号）の授与申請手続を行うこと。

授与申請手続に関する案内は，卒業年度の12月もしくは１月頃に，掲示により行う予定です。認定料として３万円（前年度実績）が必要です。（９月卒業者の授与申請手続に関する案内は，７月頃に行う予定です）

音楽療法実習

⑴必修科目として，音楽療法に関する実習（大学における事前・事後指導と学内外における実習）を行います。

音楽療法士（１種）の資格（称号）を得るには，３年次の「音楽療法実習Ⅰ」，「音楽療法実習Ⅱ」，４年次の「音楽療法実習Ⅲ」が必修科目となります。学内外での現場実習は，各科目とも５日間またはそれに相当する時間を予定しています。

⑵実習が本学の講義期間中に行われ，平常の授業に出席できない場合には，免許・資格課で発行する「公欠届」を申請し，実習開始前に当該授業担当者に提出してください。

＜2025年度以降入学生適用＞

全国音楽療法士養成協議会		本学開設科目及び単位数			
分野区分（必要単位）	科目群（必要単位）	科目名	卒業上の必／選	単位数	備考
音楽に関する分野（30単位）	理論に関する科目群（8単位以上）	楽典	選必	1	
		和声法Ⅰ	選必	1	
		和声法Ⅱ	選必	1	
		和声法Ⅲ	選必	1	
		和声法Ⅳ	選必	1	
		和声法Ⅴ～Ⅷ	選	各1	
		音楽心理学	選	2	
		音楽通史Ａ	必	2	
		音楽通史Ｂ	必	2	
		音楽史（古典派）	選	2	
		音楽史（ロマン派）	選	2	
		音楽史（中世からバロック）	選	2	
		音楽史（近・現代）	選	2	
		日本の音楽	選	2	
		音楽美学	選	2	
		作曲法（編曲法を含む）	選	1	
		アナリーゼⅠ，Ⅱ	選	各2	
		管弦楽法Ⅰ，Ⅱ	選	各1	
		対位法Ⅰ～Ⅳ	選	各1	
		民族の音楽	選	2	
		音楽教育史Ａ，Ｂ	選	各2	
	実技に関する科目群（22単位以上）	ソルフェージュⅠ	必	1	
		ソルフェージュⅡ	必	1	
		ソルフェージュⅢ，Ⅳ	選	各1	
		副科ピアノⅠ	選	1	
		副科ピアノⅡ	選	1	
		副科ピアノⅢ～Ⅷ	選	各1	
		副科声楽Ⅰ	選	1	
		副科声楽Ⅱ	選	1	
		副科声楽Ⅲ～Ⅷ	選	各1	
		ギター演習	選	1	
		リコーダー演習	選	1	
		合唱Ⅰ～Ⅷ	選	各1	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	選	1	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	選	1	
		古楽器合奏Ⅰ，Ⅱ	選	各1	
		指揮法基礎	選	2	
		指揮法応用	選	2	
		リトミックⅠ，Ⅱ	選	各2	
		キーボードハーモニー	選	2	
		古典舞踏Ⅰ，Ⅱ	選	各2	
		副科管弦打楽器Ⅰ～Ⅷ	選	各1	
		舞台表現基礎Ⅰ	選	2	
		舞台表現基礎Ⅱ	選	2	
		合奏Ⅰ～Ⅷ	選	各1	
音楽療法に関する分野（16単位）		音楽療法概論	選	2	
		音楽療法基礎Ⅰ	選	2	
		音楽療法基礎Ⅱ	選	2	
		音楽療法各論Ａ	選	2	
		音楽療法各論Ｂ	選	2	
		音楽療法（グループ体験）	選	2	
		音楽療法技能演習	選	2	
		音楽療法演習Ⅰ	選必	2	
		音楽療法演習Ⅱ	選必	2	
		音楽文化卒業研究Ⅰ	必	2	
		音楽文化卒業研究Ⅱ	必	2	
音楽療法の関連分野（20単位）	教育に関する科目群（4単位以上）	特別支援教育	選	2	
		教育の原理〔共・教〕	選	2	
		教育の制度と経営〔共・教〕	選	2	
		音楽科教科教育法基礎〔教〕	選	2	
		音楽科教科教育法Ａ〔教〕	選	2	
		音楽科教科教育法Ｂ〔教〕	選	2	
		中学音楽科教科教育法〔教〕	選	2	
		教職実践演習（中・高）〔教〕	選	2	
	福祉に関する科目群（4単位以上）	社会保障と福祉〔共〕	選	2	
		介護概説〔共〕	選	2	
		こども家庭福祉〔ＧＫ〕	選	2	
		児童福祉論〔Ｌ〕	選	2	
	医学・看護に関する科目群（4単位以上）	医学概論	選	2	
		臨床医学Ａ	選	2	
		臨床医学Ｂ	選	2	
	心理に関する科目群（4単位以上）	臨床心理学Ａ	選	2	
		臨床心理学Ｂ	選	2	
		発達と学習の心理学〔共・教〕	選	2	
		人格心理学〔共〕	選	2	
音楽療法実習（5単位）	事前・事後指導	音楽療法実習Ⅰ	選	2	
		音楽療法実習Ⅱ	選	2	
		音楽療法実習Ⅲ	選	2	
合計（71単位以上）					

科目名の〔共〕は共通学芸科目，〔教〕は教職課程科目，〔ＧＫ〕は現代こども学科科目，〔Ｌ〕は人間生活学科科目

＜2021～2024年度入学生適用＞

全国音楽療法士養成協議会		本学開設科目及び単位数			
分野区分（必要単位）	科目群（必要単位）	科目名	卒業上の必／選	単位数	備考
音楽に関する分野（30単位）	理論に関する科目群（8単位以上）	和声法Ⅰ	選必	1	
		和声法Ⅱ	選必	1	
		和声法Ⅲ	選必	1	
		和声法Ⅳ	選必	1	
		和声法Ⅴ～Ⅷ	選	各1	
		音楽心理学	選	2	
		音楽通史Ａ	必	2	
		音楽通史Ｂ	必	2	
		音楽史（古典派）	選	2	
		音楽史（ロマン派）	選	2	
		音楽史（中世からバロック）	選	2	
		音楽史（近・現代）	選	2	
		日本の音楽	選	2	
		音楽美学	選	2	
		作曲法（編曲法を含む）	選	1	
		楽典	選	2	
		アナリーゼⅠ，Ⅱ	選	各2	
		管弦楽法Ⅰ，Ⅱ	選	各1	
		対位法Ⅰ～Ⅳ	選	各1	
		民族の音楽	選	2	
		音楽教育史Ａ，Ｂ	選	各2	
	実技に関する科目群（22単位以上）	ソルフェージュⅠ	必	1	
		ソルフェージュⅡ	必	1	
		ソルフェージュⅢ，Ⅳ	選	各1	
		副科ピアノⅠ	必	1	
		副科ピアノⅡ	必	1	
		副科ピアノⅢ～Ⅷ	選	各1	
		副科声楽Ⅰ	必	1	
		副科声楽Ⅱ	必	1	
		副科声楽Ⅲ～Ⅷ	選	各1	
		ギター演習	選	1	
		リコーダー演習	選	1	
		合唱Ⅰ～Ⅷ	選	各1	
		古楽器演習（ブロックフレーテ）	選	1	
		古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）	選	1	
		古楽器合奏Ⅰ，Ⅱ	選	各1	
		指揮法基礎	選	2	
		指揮法応用	選	2	
		リトミックⅠ，Ⅱ	選	各2	
		キーボードハーモニー	選	2	
		古典舞踏Ⅰ，Ⅱ	選	各2	
		副科管弦打楽器Ⅰ～Ⅵ	選	各1	
		舞台表現基礎Ⅰ	選	2	
		舞台表現基礎Ⅱ	選	2	
		合奏Ⅰ～Ⅷ	選	各1	
音楽療法に関する分野（16単位）		音楽療法概論	選	2	
		音楽療法基礎Ⅰ	選	2	
		音楽療法基礎Ⅱ	選	2	
		音楽療法各論Ａ	選	2	
		音楽療法各論Ｂ	選	2	
		音楽療法（グループ体験）	選	2	
		音楽療法技能演習	選	2	
		音楽療法演習ＡⅠ	選必	2	
		音楽療法演習ＢⅠ	選必	2	
		音楽療法演習ＡⅡ	選必	2	
		音楽療法演習ＢⅡ	選必	2	
		音楽文化卒業研究Ⅰ	必	2	
		音楽文化卒業研究Ⅱ	必	2	
音楽療法の関連分野（20単位）	教育に関する科目群（4単位以上）	特別支援教育	選	2	
		教育の原理〔共・教〕	選	2	
		教育の制度と経営〔共・教〕	選	2	
		音楽科教科教育法基礎〔教〕	選	2	
		音楽科教科教育法Ａ〔教〕	選	2	
		音楽科教科教育法Ｂ〔教〕	選	2	
		中学音楽科教科教育法〔教〕	選	2	
		教職実践演習（中・高）〔教〕	選	2	
	福祉に関する科目群（4単位以上）	社会保障と福祉〔共〕	選	2	
		介護概説〔共〕	選	2	
		こども家庭福祉〔ＧＫ〕	選	2	
		児童福祉論〔Ｌ〕	選	2	
	医学・看護に関する科目群（4単位以上）	医学概論	選	2	
		臨床医学Ａ	選	2	
		臨床医学Ｂ	選	2	
	心理に関する科目群（4単位以上）	臨床心理学Ａ	選	2	
		臨床心理学Ｂ	選	2	
		発達と学習の心理学〔共・教〕	選	2	
		人格心理学〔共〕	選	2	
音楽療法実習（5単位）	事前・事後指導	音楽療法実習Ⅰ	選	2	
		音楽療法実習Ⅱ	選	2	
		音楽療法実習Ⅲ	選	2	
合計（71単位以上）					

科目名の〔共〕は共通学芸科目，〔教〕は教職課程科目，〔ＧＫ〕は現代こども学科科目，〔Ｌ〕は人間生活学科科目

＜2021年度以降入学生＞

全国音楽療法士養成協議会　教養関連科目（24単位）〔外国語コミュニケーション４単位，情報処理２単位を含む（注１・注２）〕

本学開設科目	卒業上の必／選	単位
共通学芸科目		
人間と思想		
哲学Ａ	選択	2
哲学Ｂ	選択	2
西洋の思想Ａ	選択	2
西洋の思想Ｂ	選択	2
日本の思想Ａ	選択	2
日本の思想Ｂ	選択	2
人間と環境		
宇宙の科学	選択	2
地球の科学	選択	2
生命の科学	選択	2
自然人類学	選択	2
物質の科学	選択	2
生活環境の科学	選択	2
自然科学史	選択	2
環境社会論	選択	2
科学技術と人間	選択	2
心理学Ａ	選択	2
心理学Ｂ	選択	2
臨床心理学	選択	2
薬の発明・発見史Ⅰ	選択	2
薬の発明・発見史Ⅱ	選択	2
女性のための医学	選択	2
人間と社会		
日本国憲法	選択	2
国際社会と法	選択	2
法と市民生活	選択	2
国際関係論Ａ	選択	2
国際関係論Ｂ	選択	2
国際社会と経済Ａ	選択	2
国際社会と経済Ｂ	選択	2
日本経済のしくみ	選択	2
人間と社会Ａ	選択	2
人間と社会Ｂ	選択	2
異文化間コミュニケーション論	選択	2
マスコミュニケーション論Ａ	選択	2
マスコミュニケーション論Ｂ	選択	2
情報と社会	選択	2
女性と社会		
女性と社会	選択	2
日本女性史	選択	2
外国文学と女性Ａ	選択	2
外国文学と女性Ｂ	選択	2
日本文学と女性	選択	2
文化と歴史		
ヨーロッパの歴史と文化Ａ	選択	2
ヨーロッパの歴史と文化Ｂ	選択	2
中国文化研究Ａ	選択	2
中国文化研究Ｂ	選択	2
日本の歴史と文化Ａ	選択	2
日本の歴史と文化Ｂ	選択	2
日本文化論	選択	2
文化交流史	選択	2
文化人類学	選択	2
アメリカ地域研究Ａ	選択	2
アメリカ地域研究Ｂ	選択	2
アジア地域研究Ａ	選択	2
アジア地域研究Ｂ	選択	2
日本古典芸能Ａ	選択	2
日本古典芸能Ｂ	選択	2
美術史	選択	2
音楽と諸芸術	選択	2
音楽と社会	選択	2
現代の音楽	選択	2
映像文化論	選択	2
共通学芸科目		
京都の文化と歴史		
京都の文化Ａ	選択	2
京都の文化Ｂ	選択	2
京都の文化Ｃ	選択	2
京都の文化Ｄ	選択	2
京都の文化Ｄ（大学コンソーシアム京都）	選択	2
京都の文化に触れるＡ	選択	2
京都の文化に触れるＢ	選択	2
京都の文化に触れるＣ	選択	2
京都の文化に触れるＤ	選択	2
京都の文化に触れるＥ	選択	2
京都の歴史Ａ	選択	2
京都の歴史Ｂ	選択	2
異文化体験		
海外事情（アメリカ）	選択	4
海外事情（イギリス）	選択	4
海外事情（ニュージーランド）	選択	4
海外事情（中国）	選択	4
海外事情（カナダ）	選択	4
交換留学生と学ぶ日本文化		
Japan Studies Ａ	選択	2
Japan Studies Ｂ	選択	2
Japan Studies Ｃ	選択	2
Japan Studies Ｄ	選択	2
Japan Studies Ｅ	選択	2
現代の諸問題		
テーマ別講義	選択	2
寄付講座	選択	2
キャリア教育科目		
大学生活とキャリアデザインⅠ	選択	2
大学生活とキャリアデザインⅡ	選択	2
大学生活とキャリアデザインⅢ	選択	2
キャリアのための自己表現演習（廃止）	選択	1
キャリアのためのプロジェクト演習	選択	2
キャリアプランニングのための演習Ⅰ	選択	2
キャリアプランニングのための演習Ⅱ	選択	2
インターンシップ（大学コンソーシアム京都）	選択	2
インターンシップⅠＡ	選択	1
インターンシップⅠＢ	選択	2
キリスト教・同志社関係科目		
聖書Ａ	必修	2
聖書Ｂ	必修	2
キリスト教の歴史Ａ	選択必修	2
キリスト教の歴史Ｂ	選択必修	2
キリスト教の歴史Ｃ	選択必修	2
キリスト教文化論Ａ	選択必修	2
キリスト教文化論Ｂ	選択必修	2
キリスト教文化論Ｃ	選択必修	2
キリスト教世界の探求Ａ	選択必修	2
キリスト教世界の探求Ｂ	選択必修	2
キリスト教世界の探求Ｃ	選択必修	2
近代日本と同志社Ａ	選択必修	2
近代日本と同志社Ｂ	選択必修	2
近代日本と同志社Ｃ	選択必修	2
近代日本と同志社Ｄ	選択必修	2
外国語科目		
Comprehensive English Ⅰ	必修	1
Comprehensive English Ⅱ	必修	1
Comprehensive English Ⅲ	必修	1
Comprehensive English Ⅳ	必修	1
Communication in English Ⅰ	必修	1
Communication in English Ⅱ	必修	1
Communication in English Ⅲ	必修	1
Communication in English Ⅳ	必修	1
外国語科目		
初級フランス語基礎Ⅰ	選択必修	1
初級フランス語基礎Ⅱ	選択必修	1
初級フランス語演習Ⅰ	選択必修	1
初級フランス語演習Ⅱ	選択必修	1
中級フランス語Ⅰ	選択	1
中級フランス語Ⅱ	選択	1
上級フランス語Ⅰ	選択	1
上級フランス語Ⅱ	選択	1
初級ドイツ語基礎Ⅰ	選択必修	1
初級ドイツ語基礎Ⅱ	選択必修	1
初級ドイツ語演習Ⅰ	選択必修	1
初級ドイツ語演習Ⅱ	選択必修	1
中級ドイツ語Ⅰ	選択	1
中級ドイツ語Ⅱ	選択	1
上級ドイツ語Ⅰ	選択	1
上級ドイツ語Ⅱ	選択	1
初級イタリア語基礎Ⅰ	選択必修	1
初級イタリア語基礎Ⅱ	選択必修	1
初級イタリア語演習Ⅰ	選択必修	1
初級イタリア語演習Ⅱ	選択必修	1
中級イタリア語Ⅰ	選択	1
中級イタリア語Ⅱ	選択	1
初級中国語基礎	選択	2
初級中国語演習	選択	2
中級中国語Ⅰ	選択	1
中級中国語Ⅱ	選択	1
上級中国語Ⅰ	選択	1
上級中国語Ⅱ	選択	1
ラピート中国語Ⅰ	選択	1
ラピート中国語Ⅱ	選択	1
ラピート中国語Ⅲ	選択	1
ラピート中国語Ⅳ	選択	1
初級ハングル基礎Ⅰ	選択	1
初級ハングル基礎Ⅱ	選択	1
初級ハングル演習Ⅰ	選択	1
初級ハングル演習Ⅱ	選択	1
中級ハングルⅠ	選択	1
中級ハングルⅡ	選択	1
初級スペイン語基礎Ⅰ	選択	1
初級スペイン語基礎Ⅱ	選択	1
初級スペイン語演習Ⅰ	選択	1
初級スペイン語演習Ⅱ	選択	1
中級スペイン語Ⅰ	選択	1
中級スペイン語Ⅱ	選択	1
Study Abroad：English Ⅰ	選択	2
Study Abroad：English Ⅱ	選択	2
Study Abroad：English Ⅲ	選択	2
Study Abroad：English Ⅳ	選択	2
Study Abroad：English Ⅴ	選択	2
Study Abroad：English Ⅵ	選択	2
Study Abroad：English Ⅶ	選択	2
外国人留学生科目		
総合日本語・日本事情Ⅰ	選択	2
総合日本語・日本事情Ⅱ	選択	2
スポーツ・健康科目		
体育実技Ａ	選択必修	1
体育実技Ｂ	選択必修	1
からだの科学	選択必修	2
ウエルネス健康論	選択必修	2
食物と健康	選択必修	2
スポーツ文化論	選択必修	2
スポーツ実習Ａ	選択	1
スポーツ実習Ｂ	選択	1
データサイエンス・AI 科目及び自由選択科目		
データサイエンス・ICT活用基礎（2024年度以降入学生に適用）	選択必修	2
コンピュータ活用（2023年度以前入学生に適用）（廃止）	自由選択	2

教養関連科目（24単位）の履修上の注意
廃止された科目であっても修得した単位は有効である。
（注１）資格取得のための条件である，外国語コミュニケーション４単位は，卒業上の必修単位を修得すれば，満たすことができる。
（注２）資格取得のための条件である，情報処理２単位は，「データサイエンス・ICT活用基礎」または「コンピュータ活用」の単位を必ず修得すること。
2023年度以前入学生に関しては，2024年度より新科目「データサイエンス・ICT活用基礎」を旧科目「コンピュータ活用」に読み替えている。登録は旧科目で行うが，授業実態は新科目である。試験やレポート，掲示等はすべて新科目で行われるので注意すること。また，成績は旧科目で記録される。
（注３）上記の表に掲載されている科目から，必ず（注１）（注２）の条件を満たした上で，24単位以上修得すること。上記の表に掲載されていない科目は，本学の「共通学芸科目」「外国語科目」等であっても，音楽療法士（１種）の教養関連科目とはならないので，注意すること。

栄養士養成施設　履修科目表
（食物栄養科学科　管理栄養士専攻　2022年度以降入学生適用）

生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻を卒業することにより，栄養士免許を申請する資格と，管理栄養士国家試験の受験資格を得ることができます。

「栄養士養成施設」としての履修科目表は，以下のとおりです（すべて卒業のための必修科目です）。

教育内容		単位数		2022年度以降入学生適用			備考
		講義又は演習	実験又は実習	本学開講科目名	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	
専門分野	社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ	2		
				公衆衛生学Ⅱ	2		
				社会福祉学B	2		
				公衆衛生学実習A		1	
				公衆衛生学実習B		1	
				社会生活と健康の小計	6	2	
	人体の構造と機能	8		生化学Ⅰ	2		
				生化学Ⅱ	2		
				生化学実験		2	
				解剖生理学Ⅰ	2		
				解剖生理学Ⅱ	2		
				栄養生理学実験		1	
				人体の構造と機能の小計	8	3	
	食品と衛生	6		食品学総論	2		
				食品学実験		1	
				食品学各論	2		
				食品衛生学B	2		
				食品と衛生の小計	6	1	
	栄養と健康	8	10	基礎栄養学	2		
				基礎栄養学実験		1	
				応用栄養学Ⅰ	2		
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学実習		1	
				臨床栄養学ⅠA	2		
				臨床栄養学Ⅱ	2		
				臨床栄養管理実習		1	
				食事療法実習		1	
				栄養と健康の小計	10	4	
	栄養の指導	6		栄養教育論Ⅰ	2		
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養教育実習		1	
				公衆栄養学Ⅰ	2		
				公衆栄養学実習（学内実習）		1	
				栄養の指導の小計	6	2	
	給食の運営	4		給食経営管理論Ⅰ	2		
				給食経営管理論Ⅱ	2		
				給食計画実習		1	
				給食経営管理実習（学内実習）		1	
				給食の運営（校外実習）		1	
				調理科学実習Ⅰ		1	
				給食の運営の小計	4	4	
	専門分野合計	36	14	専門分野合計	40	16	
		50			56		

管理栄養士養成施設　履修科目表
（食物栄養科学科　管理栄養士専攻　2022年度以降入学生適用）

生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻を卒業することにより，栄養士免許を申請する資格と，管理栄養士国家試験の受験資格を得ることができます。

「管理栄養士養成施設」としての履修科目表は，以下のとおりです（すべて卒業のための必修または選択必修科目です）。

教育内容		単位数		2022年度以降入学生適用			備考
		講義又は演習	実験又は実習	本学開講科目名	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2		
				公衆衛生学Ⅱ	2		
				社会福祉学B	2		
				公衆衛生学実習A		1	
				公衆衛生学実習B		1	
				社会・環境と健康の小計	6	2	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		生化学Ⅰ	2		
				生化学Ⅱ	2		
				生化学実験		2	
				解剖生理学Ⅰ	2		
				解剖生理学Ⅱ	2		
				栄養生理学実験		1	
				臨床病態学Ⅰ	2		
				臨床病態学Ⅱ	2		
				代謝栄養学	2		
				解剖生理学実習		1	
				人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの小計	14	4	
	食べ物と健康	8		食品学総論	2		
				食品学実験		1	
				食品学各論	2		
				食品加工学	2		
				食品加工学実験		1	
				調理科学	2		
				調理科学実習Ⅰ		1	
				調理科学実習Ⅱ		1	
				食品衛生学B	2		
				食べ物と健康の小計	10	4	
	専門基礎分野合計	28	10	専門基礎分野合計	30	10	
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	2		
				基礎栄養学実験		1	
				基礎栄養学の小計	2	1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2		
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学Ⅲ	2		
				応用栄養学実習		1	
				応用栄養学の小計	6	1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2		
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養教育論Ⅲ	2		
				栄養教育実習		1	
				栄養教育論の小計	6	1	
	臨床栄養学	8		臨床栄養学ⅠA	2		
				臨床栄養学ⅠB	2		
				臨床栄養学ⅠC	2		
				臨床栄養学Ⅱ	2		
				臨床栄養管理実習		1	
				食事療法実習		1	
				臨床栄養学の小計	8	2	
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	2		
				公衆栄養学Ⅱ	2		
				公衆栄養学実習（学内実習）		1	
				公衆栄養学の小計	4	1	
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	2		
				給食経営管理論Ⅱ	2		
				給食計画実習		1	
				給食経営管理実習（学内実習）		1	
				給食経営管理論の小計	4	2	
	総合演習	2		総合演習A	2		
				総合演習B	1		
				総合演習の小計	3		
	臨地実習		4	給食の運営（校外実習）※		1	
				公衆栄養学実習（臨地実習）		1	
				臨床栄養学実習Ⅰ（臨地実習）		1	
				臨床栄養学実習Ⅱ（臨地実習）		(1)	選択必修
				給食経営管理実習（臨地実習）		(1)	選択必修
				臨地実習の小計		4	
	専門分野合計	32	12	専門分野合計	33	12	
合計		82		合計	85		

※給食の運営に係る校外実習

栄養士養成施設　履修科目表
（食物栄養科学科　管理栄養士専攻　2021年度以前入学生適用）

生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻を卒業することにより，栄養士免許を申請する資格と，管理栄養士国家試験の受験資格を得ることができます。

「栄養士養成施設」としての履修科目表は，以下のとおりです（すべて卒業のための必修科目です）。

教育内容		単位数		2021年度以前入学生適用			備考
		講義又は演習	実験又は実習	本学開講科目名	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	
専門分野	社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ	2		
				公衆衛生学Ⅱ	2		
				社会福祉学B	2		
				公衆衛生学実習A		1	
				公衆衛生学実習B		1	
				社会生活と健康の小計	6	2	
	人体の構造と機能	8		生化学Ⅰ	2		
				生化学Ⅱ	2		
				生化学実験		2	
				解剖生理学Ⅰ	2		
				解剖生理学Ⅱ	2		
				解剖生理学実験		1	
				人体の構造と機能の小計	8	3	
	食品と衛生	6		食品学総論	2		
				食品学実験		1	
				食品学各論	2		
				食品衛生学B	2		
				食品と衛生の小計	6	1	
	栄養と健康	8	10	基礎栄養学Ⅰ	2		
				基礎栄養学Ⅱ	2		
				基礎栄養学実験		1	
				応用栄養学Ⅰ	2		
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学実習		1	
				臨床栄養学Ⅰ	2		
				臨床栄養学Ⅱ	2		
				臨床栄養学実習A		2	
				臨床栄養学実習B		1	
				栄養と健康の小計	12	5	
	栄養の指導	6		栄養教育論Ⅰ	2		
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養教育実習		1	
				公衆栄養学Ⅰ	2		
				公衆栄養学実習（学内実習）		1	
				栄養の指導の小計	6	2	
	給食の運営	4		給食経営管理論Ⅰ	2		
				給食経営管理論Ⅱ	2		
				給食経営管理実習（学内実習）		1	
				給食の運営（校外実習）		1	
				調理科学実習Ⅰ		1	
				給食の運営の小計	4	3	
	専門分野合計	36	14	専門分野合計	42	16	
		50			58		

管理栄養士養成施設　履修科目表
（食物栄養科学科　管理栄養士専攻　2021年度以前入学生適用）

生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻を卒業することにより，栄養士免許を申請する資格と，管理栄養士国家試験の受験資格を得ることができます。

「管理栄養士養成施設」としての履修科目表は，以下のとおりです（すべて卒業のための必修または選択必修科目です）。

教育内容		単位数		2021年度以前入学生適用			備考
		講義又は演習	実験又は実習	本学開講科目名	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2		
				公衆衛生学Ⅱ	2		
				社会福祉学B	2		
				公衆衛生学実習A		1	
				公衆衛生学実習B		1	
				社会・環境と健康の小計	6	2	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		生化学Ⅰ	2		
				生化学Ⅱ	2		
				生化学実験		2	
				解剖生理学Ⅰ	2		
				解剖生理学Ⅱ	2		
				解剖生理学実験		1	
				臨床病態学Ⅰ	2		
				臨床病態学Ⅱ	2		
				臨床病態学Ⅲ	2		
				臨床病態学実習		1	
				人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの小計	14	4	
	食べ物と健康	8		食品学総論	2		
				食品学実験		1	
				食品学各論	2		
				食品加工学	2		
				食品加工学実験		1	
				調理科学	2		
				調理科学実習Ⅰ		1	
				調理科学実習Ⅱ		1	
				食品衛生学B	2		
				食事計画実習		1	
				食べ物と健康の小計	10	5	
	専門基礎分野合計	28	10	専門基礎分野合計	30	11	
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学Ⅰ	2		
				基礎栄養学Ⅱ	2		
				基礎栄養学実験		1	
				基礎栄養学の小計	4	1	
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2		
				応用栄養学Ⅱ	2		
				応用栄養学Ⅲ	2		
				応用栄養学実習		1	
				応用栄養学の小計	6	1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2		
				栄養教育論Ⅱ	2		
				栄養教育論Ⅲ	2		
				栄養教育実習		1	
				栄養教育論の小計	6	1	
	臨床栄養学	8		臨床栄養学Ⅰ	2		
				臨床栄養学Ⅱ	2		
				臨床栄養学Ⅲ	2		
				臨床栄養学Ⅳ	2		
				臨床栄養学実習A		2	
				臨床栄養学実習B		1	
				臨床栄養学の小計	8	3	
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	2		
				公衆栄養学Ⅱ	2		
				公衆栄養学実習（学内実習）		1	
				公衆栄養学の小計	4	1	
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	2		
				給食経営管理論Ⅱ	2		
				給食経営管理実習（学内実習）		1	
				給食経営管理論の小計	4	1	
	総合演習	2		総合演習A	2		
				総合演習B	1		
				総合演習の小計	3		
	臨地実習		4	給食の運営（校外実習）※		1	
				公衆栄養学実習（臨地実習）		1	
				臨床栄養学実習Ⅰ（臨地実習）		1	
				臨床栄養学実習Ⅱ（臨地実習）		(1)	選択必修
				給食経営管理実習（臨地実習）		(1)	選択必修
				臨地実習の小計		4	
	専門分野合計	32	12	専門分野合計	35	12	
合計		82		合計	88		

※給食の運営に係る校外実習

～2021管理栄養士

食品衛生管理者および食品衛生監視員任用資格
（食物栄養科学科　食物科学専攻／管理栄養士専攻　学生対象）

食品衛生管理者および食品衛生監視員任用資格の取得方法

1．食物栄養科学科食物科学専攻については，卒業必要単位を修得するとともに，下記の科目履修規程を満たすこと。

2．食物栄養科学科管理栄養士専攻については，卒業必要単位を修得すれば，科目履修規程を満たすことができる。

科目履修規程

下記の条件を充足しなければならない。

1．A～D群までの各群より１科目以上履修し，合計22単位以上の単位を修得すること。
（食物科学専攻においては，資格取得上の必修科目の単位もすべて修得すること）

2．A～E群において40単位以上を修得すること。

＜食物科学専攻＞

養成施設指定内規に規定する科目区分	2019年度以降入学生適用		
	本学開講科目	単位	資格取得の履修方法
化学関係（A群）	化学実験A	2	
生物化学関係（B群）	食品化学Ⅰ	2	
	食品化学Ⅱ	2	
	生化学	2	
	食品機能学実験	2	
	食品機能学	2	
微生物学関係（C群）	食品加工貯蔵学	2	
	食品微生物学	2	必修
	食品加工・物性学実験	2	
	食品バイオテクノロジー	2	
	食品バイオテクノロジー実験	2	
公衆衛生学関係（D群）	食品衛生学A	2	必修
	公衆衛生学	2	必修
その他関連科目（E群）	食生活論	2	
	調理科学実習Ⅰ	1	
	調理科学実習Ⅱ	1	
	調理科学実習Ⅲ	1	
	調理科学実習Ⅳ	1	
	栄養学	2	
	調理科学Ⅰ	2	
	調理科学Ⅱ	2	
	生物学実験A	2	
	調理科学実験	2	
	応用栄養学	2	
	食品物性学	2	
	食品官能評価論	2	

※「必修」とは，資格取得上の「必修」であり，卒業上の「必修」とは異なるので，注意すること。

＜管理栄養士専攻＞

養成施設指定内規に規定する科目区分	2022年度以降入学生適用		2010～2021年度入学生適用	
	本学開講科目	単位	本学開講科目	単位
化学関係（A群）	化学実験B	1	化学実験B	1
	栄養素の化学	2	栄養素の化学	2
生物化学関係（B群）	生化学Ⅰ	2	生化学Ⅰ	2
	生化学Ⅱ	2	生化学Ⅱ	2
	解剖生理学Ⅰ	2	解剖生理学Ⅰ	2
	解剖生理学Ⅱ	2	解剖生理学Ⅱ	2
	生物学実験B	1	生物学実験B	1
	生化学実験	2	生化学実験	2
	栄養生理学実験	1	解剖生理学実験	1
微生物学関係（C群）	食品加工学	2	食品加工学	2
	食品加工学実験	1	食品加工学実験	1
公衆衛生学関係（D群）	公衆衛生学Ⅰ	2	公衆衛生学Ⅰ	2
	公衆衛生学Ⅱ	2	公衆衛生学Ⅱ	2
	食品衛生学B	2	食品衛生学B	2
	公衆衛生学実習A	1	公衆衛生学実習A	1
	公衆衛生学実習B	1	公衆衛生学実習B	1
その他関連科目（E群）	臨床病態学Ⅰ	2	臨床病態学Ⅰ	2
	臨床病態学Ⅱ	2	臨床病態学Ⅱ	2
	臨床栄養学ⅠA	2	臨床栄養学Ⅰ	2
	臨床栄養学Ⅱ	2	臨床栄養学Ⅱ	2
	基礎栄養学	2	基礎栄養学Ⅰ	2
	応用栄養学Ⅰ	2	基礎栄養学Ⅱ	2
	応用栄養学Ⅱ	2	応用栄養学Ⅰ	2
	調理科学実習Ⅰ	1	応用栄養学Ⅱ	2
	調理科学実習Ⅱ	1	調理科学実習Ⅰ	1
	調理科学	2	調理科学実習Ⅱ	1
			調理科学	2

※上記の科目はすべて，卒業上の必修科目である。

フードスペシャリスト
（食物栄養科学科　食物科学専攻　学生対象）

フードスペシャリストとは，食品の官能評価・鑑別など「食」に関する高度な専門知識・技術を身につけ，食べ物や食生活について，流通・販売者と消費者に的確な情報（品質，安全性，機能性，栄養と健康など）を提供し，またレストランや食堂などで快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートし，さらに「食」に関する消費者のクレームを処理できるよう専門的に学んだ者に与えられる資格です。フードスペシャリストとして貢献しうる職域は広く，流通，販売，ホテル・レストラン，消費者センターなどの各分野で活躍が期待されています。

フードスペシャリストの資格は，公益社団法人日本フードスペシャリスト協会が認定した大学・短期大学で所定の単位を修得し，協会の実施する認定試験に合格した者に対して，卒業時に協会から「フードスペシャリスト資格認定証」の交付を受けることで得られます。

2014年度（平成26年度）から次の 3 種類の資格区分が設けられました。

①フードスペシャリスト資格

②専門フードスペシャリスト（食品開発）資格

③専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）資格

フードスペシャリスト資格は，従来どおり食に関する総合的・体系的な知識・技術を基本的に身につけている者に与える資格です。専門フードスペシャリスト資格は，フードスペシャリスト資格を取得済み又は取得見込みの者がチャレンジする専門性や実用性をより高めた資格です。

①フードスペシャリスト，②③専門フードスペシャリスト資格の取得方法

1）本学のフードスペシャリスト養成課程で必修科目全てを含み，2018年度以前入学生は24単位以上，2019年度以降入学生は28単位以上を修得すること。

2）本学が協会より委託を受けて実施する認定試験を受験すること。

・3 年次以上であって，次ページの科目履修規程の内，卒業までに必修科目すべてを修得する見込みであることが認定試験受験の条件となります。

・受験料として①5,500円，②③各3,300円（いずれも前年度実績）必要です。ただし，②③の専門フードスペシャリスト資格認定試験は，①のフードスペシャリスト資格認定試験を同時に受験する者又はその試験に既に合格している者が受験できます。

・認定試験は原則として12月の第 3 日曜日に実施します。

3）フードスペシャリスト資格認定証の交付について

・上記の試験合格者（資格認定証申請可能者）の掲示を行います。資格認定証申請料として①5,500円，②③各3,300円（いずれも前年度実績）必要です。

注 1） 3 年次に認定試験を受験し合格しても，資格認定証交付の申請手続は 4 年次になります。

注 2）資格認定は所定の必要単位を修得し，卒業することを要件としています。そのため，認定証の交付は卒業が確定した以降となります。

科目履修規程

〈2019年度以降入学生適用〉

○必修科目

規　程　科　目	本学開講科目	授業方法	単位	備考
フードスペシャリスト論	フードスペシャリスト論	講義	2	
食品の官能評価・鑑別論	食品官能評価論	講義	2	
	食品加工・物性学実験	実験	2	
食物学に関する科目	食品化学Ⅰ	講義	2	
	食品化学Ⅱ	講義	2	
	食品加工貯蔵学	講義	2	
	食品機能学実験	実験	2	
食品の安全性に関する科目	食品衛生学A	講義	2	
調理学に関する科目	調理科学Ⅰ	講義	2	
	調理科学Ⅱ	講義	2	
	調理科学実習Ⅰ	実習	1	
	調理科学実習Ⅱ	実習	1	
栄養と健康に関する科目	栄養学	講義	2	
食品流通・消費に関する科目	フードシステム開発論	講義	2	
フードコーディネート論	フードコーディネート論	講義	2	

○選択科目

規　程　科　目	本学開講科目	授業方法	単位	備考
フードスペシャリスト資格に適当とされる科目	食文化論	講義	2	
	食と健康管理	講義	2	
	食品機能学	講義	2	

二級建築士・木造建築士
（人間生活学科　2024年度以降入学生適用）

資格の取得方法

二級建築士・木造建築士の資格を得るには，次の条件をそなえなければなりません。

（1）国土交通大臣の指定する建築に関する科目（以下「指定科目」）を必要単位数修得し，本学人間生活学科を卒業すること。

（2）上記（1）による受験資格取得後，年1回行われる「公益財団法人 建築技術教育普及センター」による「学科の試験」および「設計製図の試験」にそれぞれ合格すること。

（3）上記（2）に合格後，実務経験年数（0年～2年）を経て免許登録手続きを行うこと。

証明書の発行

上記（2）の試験の申し込みには「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」の原本が必要です。必要な単位数以上の指定科目を修得した者は，本学卒業時・卒業後に「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」の発行を申請することができます。

指定科目の分類	本学開講科目	履修年次	単位	必要単位数		
①建築設計製図	住居製図基礎実習	2	1	3単位以上		
	住居デザイン実習	2	1			
	インテリアデザイン実習	3	1			
	空間デザイン応用実習	3	1			
②建築計画 ③建築環境工学 ④建築設備	住生活学	1	2	2単位以上		
	すまいの計画学	2	2			
	住文化論	2	2			
	住環境学	3	2			
⑤構造力学 ⑥建築一般構造 ⑦建築材料	すまいづくりの基礎	2	2	3単位以上		
	材料とデザイン	2	2			
⑧建築生産	住居管理論	3	2	1単位以上		
⑨建築法規	すまいと法律	2	2	1単位以上		
⑩複合関連科目	都市計画学	1	2			
	インテリアデザイン論	2	2			
	すまいの安全・安心	2	2			
	すまいの政策論	3	2			
	世界のすまい	3	2			
	景観デザイン論	3	2			
	地域遺産論	2	2			
	地域計画学演習	2	2			
	くらしの色彩学	2	2			
	ユニバーサルデザイン論	3	2			
	生活デザイン史	3	2			
必要単位数合計　①～⑨（合計10単位以上）＋⑩適宜				40単位	30単位	20単位
免許登録に必要な実務経験年数				0年	1年	2年